

また作業者のみならず、他児童の批評も聞いてゐるのである。そして反省の資料としてゐるのである。児童はやゝもすると、地図化作業を美化することに考へ過ぎて、地理的事實を等閑にしたり、或は必要とする文字を小さく書き、それ程必要としないものを大きく書いたりするものであるから、さういふことに就いていろいろと反省を促してゐるのである。一度かうした反省を適當に指導してゐると、次回作業は、非常に精選され、無駄がなく、而も地理として意義ある作業が出来るものであることを経験してゐるのである。

### 六、大観性指導

大観性指導といふのは、俗にいふ大ざっぱといふのではない。最初に児童の生活を基調として、全體性の指導をなしたが、之はあつさりしたものであつて、いはば滑走的のものである。しかし最初の全體性指導はそれでよいのである。

次に小地理區に分けて、重要な地域に就いて、それ／＼調べたのであるから、之を再び全體的の視點に立つて、其の地方全體から見て、或は國家的立場からして考

察することが必要である。この意味に於ける大観性指導であるから、決して大ざっぱな指導ではないのである。

之は、私の作業地理教育における指導の一序列であるが、地理教科書根本の編纂精神も、このやうになつてゐる。即ち最初「日本」に就いて述べ、次に我が國を關東地方以下十一地方にわけて説明し、最後に「日本の總説」といふのを設けて、日本全體の下に統合してゐる。この記述は國民地理教育の立場からいつても、また教育心理學の立場からいつても、さうあるべきものと思ふのである。

すべて人といふものが、他のものに接して理會する時の態度はかういふものであるまいか。今、初對面の人に會つたとする。「せいの高い人だ、色の黒い人だ、目の怖い人だ。親しみにくい人だ。」といふ感じを持つ。だん／＼談話を交換してゐると、やさしいことがわかつて来る。お茶を飲むにしても禮儀をわきまへてゐる。言葉使が丁寧である。歩行もしとやかである。之等の動作から統合して「一寸見ても恐ろしいやうな人だが、よく観察すると、温厚な紳士である。」との考察に落付くのである。



かうした人の観察は、作業地理の實踐にも行はれるもので、最初は全般的に見渡した、全般的な観察に始まり、次に小地理の細部に入つて研究し、最後に其の地方の立場から、また國家的見地から統合するのである。而して更に自然性人文性の有機的關係も考慮するのである。この意味において、私の茲にいふ大観性観察は、大局化的観察といつてよいのである。そして小地理において作業した結果を統合し、大局化するのである。

兒童はやゝもすれば、小地理区における個々断片的の知識は所持してゐても、其の地方全般から観て必要な材料、國家的立場において重要な資料を逃し、而も自然人文の關係から統合を缺くことがあるものであるから、特に注意するのである。而も之は兒童ばかりの限る事ではなくて、大人だつてさうであると思ふ。

而して此の大観性観察において指導することは、産業交通及び地質である。

1 産業の大観性観察 産業の種類は、地勢なり、氣候なり、天産物なりによつて異なるのはいふまでもない。併したとひ其の土地に原料を産することがなくても、交通機關が發達し、世界の縮小された今日においては意外な土地に、意外な産業の發

達を見ることがある。

而して富山の産業製造の如きは、殆ど富山市に行はれるものであり、鐵の清洲は所産鐵の五部を中心として行はれるものであり、瀬戸内海沿岸の製鹽業の如きは沿岸一帯を製鹽地帯とするものである。

それであるから、其の地方の産業を指導する時に、其の地方における重要な産業は、一市又は一地方を中心とする場合は、小地理区を單元として指導することによつて最も適當であるが、産業地帯をなす場合には、小地理区に立て籠る時は、孤立性に陥ることとなり、大観した姿(共通性)を見ることが出来ないこととなる。

例へば中部地方においては、東海地方の名古屋、岡崎、濱松など綿織物の生産地帯であり、北陸地方においては、福井、金澤は綿織物生産地帯であり、富山も其の延長であり、新潟縣にも綿織物生産地帯が飛地として所々に存在してゐるのである。

また長野縣、山梨縣、岐阜縣の中央山地は養蠶地帯であるが、愛知縣も亦盛んである。長野、山梨に東隣する群馬、埼玉も包含して、茲に養蠶業の最も盛んな地帯が發達してゐるのであるから、これも前述の小地理区にのみ促はれることなく、産業景



類から見た地域性を考察することが必要である。

而して茲において、農業の發達せる理由を、自然人文の兩性か考察するのである。即ち次の三方面から發達の理由を吟味するのである。

- 一、多く大山地帯であるので、桑園が多い。桑園は壤土に最も好適するが、火山灰質土では他の作物よりも桑の栽培が最もよい。(火山灰質土が桑の栽培に適するといふのではない。他の作物はよく出来ないが、桑の栽培が最も可能であるといふ意味)
- 二、空気が乾燥してゐることは蠶兒の養育に好條件となる。
- 三、かうして自然に順應して、此の地方では先祖代々新業に親しみ、新業の改良改善を圖つて来た何となれば、中央高地は山岳重疊で、平野が少く農業に不適當であるからである。

自然人文兩性の有機的考察は、其の地方の作業の一通り終了した後において、考察することにおいて、無理がなく出来るものである。

また産業においては、其の地方における重要産業の産額は、我が國においてどんな地位にあるかを考へてみる必要がある。例へば前記せる絹の生産高が我が國の約三〇%を占めて、断然第一位を占めてゐること、蠶絲の生産が四五%も占めて

あることを考へると、如何に新業の盛んであるかが顯會され、従つて其の地方の住民の主産業が何であるかと思惟され、發達するに至つた地理的理由を考究することは、地理の考へ方として意義のあることなのである。

②交通の大體管轄 交通といふが、茲では主として鐵道交通海上交通のことを考へてゐる。鐵道の管轄は交通系として總論を明かにすることが重要である。鐵道は地勢氣候の支配を受けることが大であるから、之等との關係も考察せねばならぬ。また産業との關係も極めて緊密であり、都市との關係も亦重大である。産業が發達し都市が發達すれば、自然鐵道が敷設される。併し之は先に鐵道が通じ、交通便が出来た爲に、近代工業が勃興し、遂に繁榮なる都市を形成することもある。此の關係は極めて複雑微妙なるものにして、一面よりのみ観ることは出来ないのである。

前記せる小地理區に據ると、鐵道交通の如きは、兎角断片的となり、孤立的となるので、茲に其の自然地理人文地理の終了した時に、交通系としての管轄をなし、更に交通運輸として生産品との關係を明かにするのである。



例へば中部地方における鐵道中、東海道本線は、東海地方の表層下の最重要線であること、中央本線は中央高地の開發線として、また東海道本線の補助線として重要であること、北陸本線は裏日本の重要幹線であること、信越本線と高崎線とは不可分のものであり、而して北陸と關東と東海道とを連絡する重要な鐵道であること、上越線は表日本と裏日本とを連絡し、兩地間を短縮することに重要な使命のあること、高山線は嶺南高地を通過して、東海道本線と北陸本線とを連絡し、此の地方の交通に革新を興へるものであることを吟味するのである。

次に海上交通に就いてであるが、どんな港灣が分布してゐるか、地勢、氣候との關係及び産業との關係、其の港灣における航路の分布を考察するのである。

例へば中部地方に就いて考へてみるに、表日本の太平洋方面には各古屋、清水の兩港があり、名古屋は我が國における主要貿易港をなし貿易額も多い。然るに日本海方面には、新潟港、伏木港、秋賀港があるが、新潟港、伏木港はそれ／＼信濃川、小矢部川の河口を港として利用したものであり、秋賀港はウラダゴストラクタ間に定期航路の便はあるが、何れも飯はない。

例故に裏日本であるかといふことは、裏日本における海岸地形、氣候(冬季の風波)後背地の産業、交通との關係から考察するのである。

3 總括作業 以上の指導で、私の小地理區を作業單元とする場合の作業地理の指導は終つたのであるが、最後に總括作業をなすのである。

總括作業をなす目的は、次にあげる二つの理由に因るものである。

- 一、地理の本質から 地理の内容は自然人文の兩性から考へることは出来るが、自然性、人文性を一元性のもとと考へる所に本當に地理性があるのである。それ故に、最後の指導に此の一元性態度で地理的事實を確認するのである。
- 二、兒童の心意の關係から 今日迄の指導は、教材の輕重を定めてやつて来たのであるが、兒童心意の發達關係からいふと、兒童自ら輕重を定めることは困難である。それ故に最後の總括において重要な材料を復習するのである。また兒童は重要なことでもよく忘れるのである。故に忘れた重要な事項を復習しながら總括するのである。

今、總括作業に際して注意すべき事項を左に挙げてみよう。

- 一、重要問題を捉へること。それが爲には、先づ兒童自らに重要問題を捉へさせるがよい。



それには、先に決定せる目的事項と相呼應するやうにするがよい。

- 二、 相異なる地域を捉へて比較研究をなすこと。例へば中部地方における東海地方と北陸地方及び中央山地の三地域景観を比較し、其の地理性の地人相関的考察をなすこと。
- 三、 地人相関の有様的考察をなすこと。

而して、以上にあげた産業の大観性指導、交通の大観性指導は、教師が先に立つて指導するのである。或は児童の作業分擔が一部分に過ぎないから、児童として取得する部分は、少きに過ぎるではないかなんていはれる者もあるが、かうした指導が最後にあり、総括作業もあるのだから、聊かの心配もないわけだ。

**要約して述べると**

以上述べた小地理区を作業單元とする場合は、比較的長くなつてしまつた。故に左に要約して述べてみよう。

- 一、 全體性指導 児童の生活關係、具體性直觀的材料を選擧して、新教材の全體にわたる指導をなすのである。
- 1 教材指示 教材指示は其の時間になすのであるが、爾れ児童と共に教材を豫定しておくが作業地理教育の立場である。
- 2 區域の指導 境域、國境、行政區劃等の指導をなす。

3 生活環境の整理 先に取得せんとする材料に對して、児童の生活環境から之を全體性に歸めるのである。

- (一) 獲得知識の發表として整理する。
- (二) 郷土との生活關係を吟味する。

4 地理書の活用——挿畫景観の活用 地理書を活用するのであるが、地理書の本文は児童にとつてなかな／＼むづかしいから、児童に具體的で直觀的である挿畫の景観によつて、其の地方の事實を大観せんとするものである。故にいふ大観は見通す意味である。

5 讀圖發表と其の指導 挿畫だけでは不十分であり、地理指導は地圖が本體であるから、讀圖に依る發表をたさしめ、且教師が指導して、誘導的讀圖をなさせるのである。

二、 地勢・氣候の全體性指導 地勢・氣候は其の關係する範圍が廣汎であるから、其の地方全體の地勢・氣候として指導する方が都合がよい。

三、 小地理區の決定 茲で小地理區を決定することは無理との批評もあるが、作業單元をなす爲に、小地理區を決定するのである。小地理區を決定するといつても、児童には頗る強硬であるから、教師が誘導的指導をして決定すればよい。

**四、 小地理區の作業**



1. 作業の分擔 児童の生活環境、個性を考へたり、希望を徴したりして、分擔を決定するのである。
2. 目的決定と研究 小地理区内の地理作業に就いて、研究すべき資料を決定し、それについて調査研究をなすのである。
3. 作業の計畫 目的決定に基づいて、研究せる事項は、模造紙大に小地理区を描き、地図化、圖表化の作業をなすのである。
4. 作業の實行 作業の計畫に基づいて、地図化圖表化作業の實行をなすのである。
5. 作業發表と教師の指導 児童の作業せる結果に就いて、作業の目當だけを發表させる。然る後児童の作業成績を活用して指導するのである。作業者は他児童の質疑を受けたり、教師の指導を受けて、自己の作業に就いて自己反省を加へ、今後における作業發展の資となすやうにする。
6. 大観性指導 之は大局化性指導といつてもよいが、其の地方の産業、交通を大局的立場において指導し、産業においては、産業地域、産業の特異性、産額からみた國家的地位を明瞭にする。交通においては、交通系、産業と交通運輸の關係を明かにする。最後に總括的作業をなすのである。

**時間的進程から見た指導体系**

以上述べた指導体系を時間的進程に従つて述べてみると、次のやうになる。茲にいふ「次」は「時」といふ意味でない。第一次指導といつても、教材によつては二時間も、三時間も要することがある。

**第一次指導**

- 一、教材指示
- 二、児童の生活環境の整理
  - (1) 既得知識の發表整理
  - (2) 郷土との生活關係の吟味
- 三、地理書の新用—挿畫の展開活用
- 四、讀圖の發表と讀圖指導

**第二次指導**

- 一、地勢氣候の全體性指導
- 二、小地理区の決定
- 三、作業の分擔の決定



第三次指導

- 一、目的決定と研究
- 二、作業の計画
- 三、作業の實行

第四次指導

- 一、作業の發表と指導
- 二、作業の反省

第五次指導

- 一、産業交通の大観性指導
- 二、総括作業

第二節 作業題目を單元とする場合

作業題目を選定して作業する場合は、何處の地理にも適用されるものであるが、

就中特殊な地域、例へば伊豆七島や小笠原諸島及び外國地理等に適用して適切なものがあると思ふ。

一、全體性指導

- 1. 教材指示
- 2. 區域の指導
- 3. 生活環境の整理
  - 4. 既得知識の發表・整理
  - 5. 郷土との生活關係吟味
- 4. 地理書の活用——挿畫の景観
- 5. 讀圖表及び指導

以上の如く、全體性指導においてなす取扱要領は、小地理區を作業單元とする場合と全く同一である。何時も大觀的全體性指導にはじまるのが、私の指導精神である。



## 二、作業題目の研究

全體性情態によつて、其の地方、其の洲、其の國の教材を一通り大觀すれば、如何なる材料に興味を持つか、如何なる材料が、其の地方で重要性を有つか等に就いて研究するのである。

1 グループの作業 四人を單元とするグループを作り、グループ毎に作業題目の研究をなすのである。茲で四人を以てグループの單元としたが、グループの單元は學級兒童數によつても、一概にはいはれないが、四人位が適當である。また實際の運用的立場からいつても、机の配列等から見ても、四人を以てするが便利である。二人のグループでは興味がないし、多きに失してはペンが出來て困る。

さて、此のグループに作業題目の選擇研究をなさせるのであるが、其の資料とすべきものは、全體性情態によつて得たる材料と、地理教科書及び地理書附圖とを對象として得た材料とによつて研究するのである。其の他に參考材料として、各種の分布地圖を用意するがよい。

2 作業題目の決定 グループ毎に題目を決定したものを發表しあつて、作業題目の決定をなすのである。その方法としては、或グループの發表を原案として、それに就いて意見を交換して決定するのである。即ち其の原案の中に自己のグループが決定した題目が含まれてゐれば、それでよいし、其の原案の題目だけでは重要問題を缺いてゐれば、更に自己の研究を提供して補正すればよいのである。

併し原案となつたものの中に、それ程必要としないものがあれば、それを削除するがよい。要するに學級の衆知を集めて、作業題目を作成するのである。

従つて原案となすべき兒童の作業題目は、餘りつまらない題目を選定したグループでは、批評ばかり多くなつて、蜂の巣をつついたり、徒に時間を浪費する結果になるから、適當なる題目を選定したグループを以て原案となすがよい。教師は常にグループのよき相談相手となり、指導者であるから、どのグループがどんな題目を選定したかはわかつてゐる筈である。それであるから自然原案となるべきものも發見出來るわけなのである。

例へば、アメリカ合衆國の地理作業、水産業であるならば、次のやうな作業題目を



決定するのである。

- 一、地勢の特徴と気候—地勢と気候との関係
- 二、農業—主たる農産物と農業の特色
- 三、牧畜—牛、馬、羊—牧畜とたうもろこしの関係
- 四、世界一を誇る農業—糖、石炭、石油、銅、鉄その他
- 五、工業—大西洋沿岸及び五大湖附近の大工業と工業の發達した理由
- 六、水産業—主たる漁獲物と水産業の盛んな理由
- 七、米國の農業と我が國との農業の関係
- 八、交響部邑—主な農産主な畜主な部邑
- 九、日米兩國の関係—國際上地理上其の他

3 作業の分類・作業題目が決定すれば、作業者の分類を決定するのである。決定の方法は「小地理區を作業單元とする場合」と同じである。

### 三、作業の實行

1 目的決定と計畫 作業題目の中の目的決定をなすのである。例へば前記アメリカ合衆國の農業—主たる農産物と、農業の特色であるならばかうするのである。アメリカ合衆國は中央大平原が農業地帯、小麦、綿、たうもろこし、飼草等を産する。また太平洋沿岸ではオレンジ、ぶどう等の果實が多い。農業の特色として大規模である。地理書の挿畫にも、大農式の様子が見はれてゐる。これが作業題目内の目的決定なのである。

而して之を地圖化、圖表化するにはどうすればよいかを計畫するのである。ノットに略地圖を描いて計畫する。

2 作業の實行 右の目的決定に基づいて、研究作業をなすのである。綿は中央大平原の何處に産するであらうか、南部の方である。それはなぜであるかといふと、綿の耕作には気候の温暖なことが必要であるからである。たうもろこしは五大湖の南部に大生産地帯があり、小麦の生産地帯はたうもろこしの生産地帯と重つて、それより北にある。飼草の生産地帯は綿地帯の北にある。(地圖化作業すればすぐわかる)



勿論かういふことは、児童の地理書ではわからないし、尋常科の世界地図にもない。然らばどうして調べるかといふに、教師はアメリカ合衆国の産業分布地図を用意して児童に示すか、又は児童の目的活動に依つて指導してやればよいのである。

また綿の生産高はどの位あるかも調べねばならぬ。地理書の印度の處を見れば、世界における綿の産額の比較表があるから、統計は古いけれども、其の大勢を知ることは出来る。此の時、教師は最近の産額を提供してやるがよい。即ち米國の綿産額は、世界の全産額の五割四分を占めて第一位(前二八二萬噸—一九三二年)にあることを教へてやればよい。

作業分擔者は、新しくして研究した材料を具體化するやうに、地圖化作業に移すのである。アメリカ合衆國の綿地圖を描き、主な農産物の分布を示すのである。また先生から新しい統計材料を提供して貰つて、世界における綿の生産額表を作業して、一層具體化することに努めるのである。小産の生産に就いても圖表化するのである。

#### 四、作業の發表と指導

作業が終ると、作業分擔者は、各自の作業に就いて發表するのである。各グループの作業を學級全體に及ぼし、學級化するるのであるが、作業大要——目的決定と計畫の概要とを發表すればよいとしてゐる。

教師の指導は、發表者の作業品を活用して指導すればよいのである。其の要領は、小地理區を作業單元とする場合に述べたと同じであるから、茲に略しておく。

#### 五、總括作業

「小地理區を作業單元とする場合」の取扱においては、産業及び交通の大観性指導の順序を入れたが、作業題目を單元とする場合においては、自ら産業、交通の作業題目が決定されるから、此の場合には其の必要がないのである。

併し自然、人文の兩性を一體とした姿において、總括することが有効である。最初全體性の指導をなし、次に作業題目を選定して、作業を實踐して来たのであるか



ら、最後の總結においては、地人・地一般の指導が出来たわけである。而して教科書の理解もしたいと希望するのである。

茲に兒童の「戦等の國邊地」と題する作業題目に依る發表内容があるから、左に掲げて見よう。(口輪參照)

二部五年 秀吉弘 草

皆さん、今日は十八日(昭和十年七月十八日)ですから、あさつてはこの講堂で修業式があり、いよく夏休みとなります。皆さんは、この夏休みに何所へお出でになりますか。かうきいただけで、胸のをどつてゐる人もあるでせう。

僕たちは、ここで、二部五年の男生だけで、作業した我等の遊藝地についてお話をいたします。東京横濱地方の人は多く、何處へ遊藝するのでせうか。海の方面では、この三浦半島にある金澤、鎌倉、逗子、葉山、三崎、それから相模灣に向つた藤澤、片瀬、磯貝、辻堂、茅ヶ崎、大磯、二ノ宮、國府津、小田原などで、この地方を、湘南地方といひますが、名の知られた海水浴場もあつて、人に知られてゐます。

僕たちの學校の生徒についてしらべてみても、湘南地方に行くものが一番多いのです。こ

のグラフ(グラフ)を指しては、尋常二年生以上の尋常科の生徒四百五十三名について、昨年の遊藝先をしらべたものですが、遊藝する者の百分の三十五はこの湘南地方に行つてゐます。

湘南地方でも、一番多いのがこの鎌倉で、三十一人になつてゐます。其の次が葉山で二十七人、次が逗子の十八人です。こんなに湘南地方は多いのですから、皆さんの中でもお友達にあふこともあつたでせう。此の學校の生徒は百分の八十八、つまり百人中八十八人まで遊藝してゐるのです。と申して、僕は皆さんに遊藝を勧めるではありません。からだの弱い人は仕方がありませんが、非常時ですから、暑い東京に頑張るのもいいと思ひます。

なぜ、この地方に多く遊藝するかといふことを考へてみますと、東京から近くて、交通が便利であることが大きな原因であります。鐵道東海道本線はいふに及ばず、電車横須賀線、京濱線、湘南電車など、海山にあるし、また自動車の便も申分がありません。東京から僅か一時間か、二時間しかかゝらない所に景色もよく、こんな遊藝地があるので、羨望するものもつともなことでせう。

ついでとすから申しますが、この地方は遊藝地としてよければ、冬は暖かいからです。之を地理の方から説明いたします。南は海に向ひ、後にもよい所です。冬は暖かいからです。之を地理の方から説明いたします。南は海に向ひ、後にもよい所です。冬は暖かいからです。之を地理の方から説明いたします。南は海に向ひ、後に山をもつてゐるから、冬の寒い風を防ぎ、太平洋には暖い流れである日本海流のあることが、



冬の氣候を暖くしてゐるのです。ですから、ここは京濱地方の別荘地帯といふことが出来ま

す。次にこの房總方面(房總の地圖を指す)について考へてみます。ここもまた東京の避暑地帯であり、東京灣に向つた内房州では館山、保田、山崎、形、湯古、北條などがあり、太平洋に向つた外房州では一ノ宮、勝浦、興津、鴨川、千倉、それにこの銚子など其の代表的な所であります。

この學校の生徒についてしらべてみると、この方面に出かけるものが、湘南地方の約三分の一で、湘南地方に比べると少いのです。この方面は東京からの汽車の回数が少なく、時間の多くかゝることが大きな缺點だと思ひます。それですから、夏になると、南關東から多くの臨時列車が出てゐます。千葉市の海岸が十七人になつてゐるのは、東京に近いといふためです。また此の方面地圖を指すは湘南地方と同じやうに、冬が非常に暖かいのです。東京では一月の寒さによるへてゐるのに、房州では寒の花が咲いてゐます。これも房州が南に突き出てゐて、暖流の日本海流の影響を受けるからであります。

## 二部五年 白濱 實

海のきらひな人海がからだにあはない人は、山に温泉に行くのでせう。しかし、この學校の生徒についてしらべてみると、海よりも山に行く者が少いことがわかりました。それはこの

グラフ(グラフを指す)でわかります。關東地方及びその近くには、避暑地としてどんな温泉、どんな高原があるかをしらべてみませう。

先づこの方面(箱根、伊豆地方の地圖を指す)がありますが、ここには箱根湯河原、熱海などがあり、少しはなれて伊東、修善寺、土肥などの温泉があります。これらの温泉は富士火山脈によるものであります。箱根温泉は古くから知られた温泉で、湯本塔の湯宮の下底倉、堂ヶ島、木質産の湯を昔から箱根七湯といつたのであります。この學校の生徒では温泉としては箱根に行くものが一番多くて十人もあります。

箱根火山は二重式の火山で、噴等の組のやうに、複式であります。二部五年は六年と複式(成)元の大きな火口の中に、今申した温泉があり、人が住んでゐるのですから、自然の變化の大きいのに驚かすにはあられせん。箱根で一番高い山が、神山で、一四三九米あります。

熱海は、東京の避暑地帯の温泉場として利用されてゐましたが、去年の十二月一日に、丹那トンネルを通る東海道本線が開通してからは、急に熱海の評判が沸騰して、何所の旅館も満員の盛況を呈したほどでありました。熱海までは東京から何回も電車が出るので便利です。其の他伊豆にある温泉もそれぞれ宣傳してゐすから、交通便がよくなると共に、東京の人に利用されるが多くなるでせう。







## 第四章 目的決定並に發表作業の再考察

### 第一節 目的決定の再考察

#### ○今までの私の考へ

作業地理教育において児童の目的性を誘導し、目的決定をなす爲に、私は従来如何なる態度を執つてゐたかといふことを、過去の記録に徴してみると、次のやうになつてゐるのである。

1 生活關係のことから生活へ 物々地理指導は生活に即して行はれ、児童の生活を指導し、社會生活を理會せしめることを大なる目標とするのでなければならぬ。何となれば、吾々人類生活の環境は、殆ど皆地理的事象であつて、人類生活は地理的環境に統御され、之を利用してゐるからである。つまり地理の内容は、最も現實的

であるからである。是れ即ち地理科が従来生活科と唱へられた所以である。

斯くの如く地理の事象、即ち内容は、児童の現實性に密接不離の關係といふよりは、寧ろ其の内容其のものであるから、常に現實の問題として取扱はれねばならぬのである。

凡そ現實性のあることが、作業の作業たる所以で、具體性の事象に對して働きを及ぼすことではなければ、作業にはならぬのである。其の作業といふべきものは、児童の生活から産出されるものでなければならぬ。児童の生活に接近したものは、児童の活動を刺激する力を多分に有し、児童の興味を徹底させるものであるはいふまでもなく、生活の場所に近い所にあるものは、遠い所にあるものよりも、他の事情が同一であるならば、興味を喚起するに足るものである。此の觀點からして、郷土のものは、他郷土のものより作業の對象となるものである。つまり郷土を除外しては其の作業を成し得ないのである。

茲に一つ具體例を以て、児童の生活關係から目的活動への誘導を述べてみたい。今児童が九州地方を作業することとする。先づ第一次指導において、九州地方の



區域地勢は勿論、児童の既知知識、生活關係等、つまり現實性を基調として指導することに重要性がある。

先づ其の境域を地圖で讀取らせ、行政區劃に就いて讀取らせる。當校の児童であるならば、父母の出身地は殆ど全国的に分布してゐるので、父母の出身關係から吟味して行くのである。

夏休みに熊本まで行つたとか、親戚の者から阿蘇山の繪畫書を送られたとか、お父様が福岡へ旅行された時、博多人形をお土産に頂戴したとか、叔父様が八幡の製鐵所に勤めてゐて、其の薪に八幡の産までが製鐵所の煤煙で黒いといふことですか。こんな具合に生活關係事實の發表をしてみるのである。

併し、其の生活關係事實は稍もすると、断片的となり、地理研究に關係のないことも生じて来る。そこで生活關係の事實の發表のあつた時、他の児童にも關心を持たせ、若し有意義な事實があれば、それを促へて、研究問題となすべき善良なる態度を刷込んでおくのである。有價値な問題であるに拘らず、児童が一向注意しなければ、教師が指導してやればよい。

例へば日向は天孫御降臨の地であり、神武天皇が御東征に出發せられた所であるとか、別府温泉や雲仙湯の温泉は、世間によく知られてゐるといふことを發表したとせよ。この場合、次に述べる所の福岡の問題と關係付けて、宮崎縣の方は九州でもよく聞いてゐないといふことを鐵道や郵色、産業の分布狀態等から讀取つた児童があつた時、教師は其の着眼を褒め、どうです、昔は天孫御降臨の地であり、神武天皇御東征に出發された土地であるのに、今日では九州でも聞き方の遅い地方であるといふのは、一體どんなわけなのでせう。ここへ目を着けたことは大さうよいことではありませんか。」といふやうに、發展性を獎勵するやうに指導し、生活事實を理會するやうに仕向けて行くのである。

2 福岡上の問題から 福岡に關しては、あへて作業地理の立場から、かれこれ述べなくとも、古くから地理教授上、地圖は地理教授の出發點にして、本籍着跡なりといはれてゐたのであるが、同じ福岡にしても、其の程度には相異がある。

併し、茲では、福岡をば作業地理において、如何にして児童の目的活動を誘導し、決定するかといふことに就いて述べてみたい。



今九州地方の地図によつて、北九州に都邑の分布が多く、南九州に少ない。東九州(真九州)は、西九州(表九州)より發達が遅れてゐる。九州の北部山地は、南部山地に比べて低い。九州の北西岸は海岸の出入が非常に多い。

これは一例に過ぎないが、斯かることを讀取つた児童のある場合、之を全児童の問題として、つまり全體化して全體の児童の考へによつて、今讀さんの申したこと、北九州と南九州とでは、都邑の分布にちがひのあるといふことは、大層大事な問題であると思ふから、之を研究問題として、「なぜ北九州と南九州との間に都邑の分布が違ふか」といふやうにしよう。」とするが如く、児童をして研究問題を構成するやうに指導するのである。

それは北九州と南九州だけの間の相異でなく、中九州も北九州に比べて都邑も少いから、その點は教師の指導によつて、「北九州と中南九州」といふやうに指導訂正するのである。

讀圖指導の場合には、單に小學校の地理書附圖だけでは、児童の讀圖が十分に行はれないから、更に其の地方の地勢圖なり、産業分布地圖なり、氣候圖なり、都邑人口

分布地圖の如きものがあれば好都合である。若し其等が得られない場合には、児童をして作業させればよいのである。

斯ういふことを述べてゐるのであつて、其の主旨は、全體性指導として(一)區域の指導、(二)生活環境の整理、(三)讀圖指導であつて、今日においても主旨には變換はないのである。併し全體性指導としては、それだけでは不十分な氣がする。

2 目的決定の再考 以上に述べた私の過去の記録による考へは、児童の目的性を陶冶し、目的決定を促がすとしては、其の精神及び要領の實際においては、誤つてゐない。併し、全體性指導において、児童の目的性を一層深化するには、教科書をよりよく利用することがよいとして、最近においては教科書の活用——挿畫景観を通して、全體性指導の本義に役立たせてゐるのである。勿論挿畫を取扱ふことが、目的決定の主要任務といふのではなくて、之は前述した(一)區域の指導、(二)生活環境の整理、(三)讀圖發表と其の指導、(四)地勢、氣候の指導も全體性を本體とするといふ取扱精神によつて、児童の目的決定を感ならしめることが出来るものである。つまり全體性取扱の内容が廣汎となり、いよ／＼全體性取扱の精神に合致するやうに



なつたのである。

それからまた、従来は毎時毎に目的決定の指導をしてゐたのであるが、それでは餘り部分的取扱に留し、目的決定それ自身の爲に、多くの時間を費す嫌ひがある。で、現在では、其の地方、其の調、其の個別單元において、目的決定をなし、其の時間においては、其の時間に關係する目的事項を目的決定の再吟味(指導案)として復習し、目的をはつきり個むことにしてゐるのである。

例へば四國地方の作業において、四國山脈はこの地方の氣候、産業、交通にどんな影響を興へてゐるか。四國地方の主な産物。沿岸航路の發達してゐるわけ。といふことが、目的決定の中にあつた場合、四國地方の主として交通を調べる時間に、「四國地方の交通に就いて、何を調べるかが大切か、この故の時間にどんなことが決めてありましたか。」といふやうにして再吟味して行くのである。

## 第二節 發表作業の再考察

兒童が具體的に勞務作業した結果を、學級に發表し、之を學級化して、他兒童に貢獻する場合の私の態度には、従来態度かの變遷があるのである。左に時代を追うて述べてみたい。併し、之は私が何も奇を好んで變遷させたものでなく、態度が経験してゐる中に、現状に満足することが出来なくて、苦慮し、終き経験を積んだ結果得た生産物であることの御了解を願ひたい。

### 一、大正の事

此の頃における私の態度は、發表作業は兒童にとつて困難であるといふ見解を執つてゐた時代である。兒童に發表させて見ても、要領は得られないし、むづかしいことだから、發表させても駄目であると考えてゐた。

今にして思へば、作業それ自身においても極めて低級なものであり、或は今日考へてゐる作業の要素を具備しなかつたものであつた。地理の作業化といふ程のことでもやつてゐなかつたかも知れぬのである。作業に對して極めて幼稚な時代で、作業に對する認識が出来なかつた時代と、今更ながら恥かしくなるのである。



それで、児童に發表させることは至難であるが、一度は児童の経験として發表させても可もなし、不可もなしだと考へてゐたのである。

### 二、昭和三年頃まで

發表作業は、児童の研究心を鼓吹し、作業の態度を深化するものであるから、たとひ發表そのものは拙劣であつても、要領が得られないことがあつても、發表させるがよいといふ態度を持つてゐた。

児童が發表する以前において、教師は發表の腹案に就いて十分指導しておかねばならぬのはいふまでもない。併し時には私の都合で、児童の發表内容に目を通すことの出来ないことも時々あつた。こんな場合には、必要でないことがあつたりする。例へば、善光寺平の地理に就いて、長野市出身の児童が發表したことがあつるが、長野市に於る一年間の気温雨量の統計を發表した。雖く児童もウンザリした。之は私の指導が足りなかつたので、豫めそれを圖表化すべきことを指導すればよかつた。圖表化しなければ、そんな數量を削除して發表すべきことの注意を

與へればよかつたのであるが、何かの都合でそれが出来なかつたのである。

こんなことがあつたりして、児童の發表作業には不満足で、是非何とかせねばならぬと甚だ現状不満であつたのである。

### 三、昭和八年頃まで

児童の發表作業が、地理作業の一部であり、また児童の作業を奨励するにも有效であるのだが、其の要領が得られなかつたり、早口調であつたり、低聲であつたりして、他の児童は迷惑をする。それで児童から、どうも今のはわからなかつたから、先生今一度話して下さい。などといふ希望やら、注文が出て来たのである。

これではならぬ。之は児童の作業が具體性を缺いてゐるからである。具體性、造形物、即ち地圖化、圖表化作業さへ準備して、學級に提供すれば、概し児童の發表態度は拙劣であつても、低聲であつても、早口調であつても、具體性なる直観物——地圖化、圖表化作業を通して、他児童は理會が出来ると考へて、直観物による直観に訴へることを奨励して、盛んにしたものである。



### 四、調査の結果

児童の作業である地図化作業、図表化作業を準備して、直観化すれば、それだけ有効であるが、これにも何時まで満足を期待することは出来なかつた。

児童は地図化、図表化の作業品を基として発表するのであるが、言語形式と発表内容において満足されなかつた。また教師からいへば、あの材料はもつと説明しなければならぬ。あの所はもつと注意してやりたい。などと考へさせられる階級を費した。

児童からも、今のわからなかつたから、先生に説明して欲しいんです。などといふ希望も出て来る。そこで教師が児童の希望を容れて、再び説明したり、教師の考へる方針を敷衍したりすると、結局重複することになつて、時間を多く費すといふ結果になり、進捗の具合が心配されて来るのである。

これではならぬ、現状に満足せず、何とか改善の方法を講じなければならぬとして、現在やつてゐるやうに、作業の目標だけを發表させてゐるのである。作業の目

標だけといふのは、作業の目的と、作業計画の重要性だけを發表させてゐるのであるが、これも児童にとつては、それだけを發表したらよいか、其の程度に備ひやうである。

併し児童の發表内容と、教師の説明事項と重複することが避けられるから、進捗に具合がよい。例へば、讃岐平野の地理作業であるならば、此の平野には高松市、丸亀市、坂出、多度津、香通寺、琴平などの郡邑が多く、人口が多い。交通も四圍では一番よく發達してゐる。坂出の海岸には製鹽業が盛んである。といふことを目當として作業したものである。といふ程度に發表させてゐるのである。勿論、之は讃岐平野の具體的な地図化作業を基として發表させるのである。

高松市がどんな所であるか、坂出はどんな所であるかなせ附録に製鹽業が發達したか、其の生産高はどの位あるかといふことは、作業者は發表しなくても教師が指導するのである。此の時も教師は、作業者の作業せる具體的な地図化作業を活用して指導するのである。而して成るべく折角作業した作業者を働かせ、高松市は水陸交通便のよいことがわかるが、それはどうしてわかるのですか。と作業者



に發表させるやうにしてゐるのである。

現在は、以上に述べたやうに、作業の目標だけを發表させてゐるが、發表欲の盛んな、爾も發表態度のよい兒童には、作業の目標と限定することなく、全作業に亘つて發表させることは、少しも差支ないのみならず、さうして満足させてやるがよい。こんな兒童は一學級中何人かは居るものである。

## 第五章 地理的單元と作業地理教育

### 第一節 地理的單元

#### 一、機械的な地理的單元

現在地理教育上に考へられてゐる重要問題の一つは、確かに地理的單元であると思ふ。地域性といふことが強調されてから、地理的單元が考究されるやうになつたのである。

現行地理書の組織を見ると、五年の地理のはじめに「日本」といふのがあり、次に日本の地理をば、關東地方以下十一地方に區分して説明してゐるのであるが、爾も其の記述の方法は、各地方とも殆ど劃一的であつて、區域、地勢、産業、交通、都邑といふ順序になつてゐる。氣候のことは、地勢或は産業の所において、それと關係付けて説



明してゐるのであるが大體においては右にあげた地理的要素の下に、殆ど劃一的に述べてゐるといつてよい。

吾人は區域、地勢、氣候、産業、交通、都邑といふものを、地理的要素、或は地理的諸因といつてゐるが、今日の地理指導の實際を觀ると、地理書にある區域、地勢、氣候、産業、交通、都邑といふ順序に従ひ、これよりも一歩も出でないといふ状態であるが、之は餘りに機械的であり、盲目的であり、劃一的であると言はねばならぬ。

即ち或地方の區域の指導が終ると、次は地勢に就いて調べます、と、地勢がすむと、次は産業に入ります、と、いつた状態であることを指摘せねばならぬのである。之は餘り人為的の單元に従はれてゐるのである。さればとて地理書の組織が所々機械的、劃一的であるとは必ずしも言はない。

なぜならば、地理書は形式的には劃一的になつてゐるやうであるが、其の間において、自然と人文との關係を考察し、前述したやうに、地勢の處で氣候を説明したり、産業で氣候を述べたり、また同じく産業を述べるに當つても、出来るだけ地域性を重視してゐることはいふまでもない。

例へば關東地方の地勢——海岸で、相模灣の沿岸と房總半島の海岸は、氣候が溫和で、風景がよくと説明し、また農業の處で、關東平野は一般に氣候が溫和でと述べてゐる。また同地方の産業において、關東平野の北西部に養蠶の盛んであることを述べ、同時にこの地方に製絲業の行はれることを説明し、前橋市を其の中心とし、更に絹織物業の發達してゐることを述べて、其の産地として、利根、伊勢崎、八王子、秩父等を擧げてゐる。この説明の仕方は、明かに地域性の重視であり、産業における地理區を尊重した記述であると思ふ。

地理書が地域性を重視し、地理區的考察は漸次尊重されて、高等一年の地理書には其の精神が一層よく現はれてゐると思ふ。

斯く地理書は一見劃一的のやうであるが、其の間に地域性が考へられ、自然と人文との關係が考察されてゐるのにも拘はらず、實際の指導者が、其の趣旨、精神をよくく／＼研究もせずして、無味に、劃一的に、區域、地勢、氣候、産業、交通、都邑の取扱に終つてゐることは、甚だ遺憾であるといはねばならぬ。さりとて現今主張されてゐるが如く、地域性が地理書に採られてゐないことも事實である。併し之は、國定教科



書の立場において止むを得ぬものなりと思ふ。

何故に私は新しいよかといふに、地理教科書がもつと地域性を重視せよといふことを徹底させるならば、結局は小地理的單元を採用せよといふことになるのである。然るに小地理區なるものの設定は、地理學者によつても必ずしも一定さるべきものでなく、兒童の程度から考へても、固も日本全國の兒童の程度を考へた時に、教科書が小地理區を單元として説明の出来ないのは、明瞭な問題である。

## 二、小地理區的單元

地理的單元といふことは、地理的に統一された地域を以て單元とするといふことである。現今の地理學研究乃至は地理教育において、地域性を高調する地理的單元——地理區が論ぜられるのは、畢竟するに地理の綜合的觀方の擴張を意味するものである。

地理的單元といへば、地方別單元もまた地方別といふ單元における地域性である。固東地方以下十一地方の如き地方別の單元に外ならぬ。現行地理書の採つ

てゐる地方別單元に就いては、或は地理學者によつて多少の修正意見も見えてゐるが、吾人は小學校の地理の立場において、現行地理書の地方別單元で盡支なしと考へるのである。例へば中國地方と四國地方の二地方は、之を中國地方及び四國地方の一單元にする方がよいとの主張も聞く。即ち中國地方における山陽地方と四國地方における北四國は相似たる地理的景觀を有つものであるから、兩地方を一の地理的單元となすがよいといふ主張である。

併し吾人の考へを以てすれば、小學校の兒童としては、中國地方にも、四國地方にも何等通じてゐないのであるから、之は、中國地方といふ地理的單元、四國地方といふ地理的單元で精察し、其の後に於いて、山陽地方と北四國とを比較して、ここに瀬戸内地帯といふ地域性のあることを、統合するやうに精察することが適切であると思ふのである。

以上は地方別單元といふ地域性に就いて述べたのであるが、地方別の單元では、自然・人文の統合による地域性を把握することは十分でない。地方別單元の中に、もつと個性の現はれた地域性を把握する地域がある。之が即ち中地理區(副地理



區及び小地理區なのである。前記せる中部地方において、東海地方、北陸地方及び中央山地は中地理區(副地理區)で、東海地方における濃尾平野、三河平野、遠江平野、駿河海岸平野、伊豆半島といふのは小地理區なのである。

地理は地理的に類似してゐる土地の群、即ち集團を見出すことであるともいへる。而して其の地域の中に、又は其の地域と他の地域、或は全體にわたつて、地理的要素の分布状態を見ることが、極めて重要な意義あるものとなつてゐる。而して學問上において、地理區を決定するには、或地域の地形、氣候、生物分布、産業、交通等の自然人文景觀をすべて綜合的に觀て地理區、即ち地理的單元を決定するのである。即ち地理的に統一された地域をば、一つの物と認識して、其の屬性を研究することが地理區に依る研究で、最も科學的な方法といふことが出来る。

茲で問題になるのは、地域性を重視することは當然のこととしても、小學校における地理教育の立場において、小地理的單元、即ち小地理區を採るや否やといふことである。固定教科書の立場において、小地理的單元を採り得ない事情は前述した通りである。併し私は、私の作業地理教育の指導體系において、小地理區を作業

單元としてゐるのである。

## 第二節 作業地理教育と小地理的單元

私の作業地理教育の指導體系において、小地理區を作業單元とする場合の説明は、既述した所で御了解を戴けたことと思ふ。

機械的に、羅列的に、區域、地勢、氣候、産業、交通、都邑といふやうに、人爲的な地理的單元によつて、地理作業を實踐すると、地域性をしつかり調むことが出来ない。どうしても断片的となり、羅列的、機械的となり、面白くない結果に陥つてしまふ。そこで小地理區を採つてゐるのである。

小地理區を採ることが兒童の程度として、むづかしいといふ問題もあるが、成るべく兒童をして出来るやうに、最初に全體性の指導をなし、主な地勢、氣候も多くの場合、之を全體性立場において指導してゐるのである。(其の方法は一三七頁に既述した)出来るだけ無理のないやうにして、小地理區を決定し、其の小地理區を作



作業元とする私の作業地理教育論は、地域性を高揚するものであり、現代地理教育の主張にも適合するものであると信じてゐるのである。

つまり私の作業地理教育を實踐することは、現代教育教授の主張である作業教育の主張を實踐するものであり、また現代地理學及び地理教育の主張にも合一するものであるのである。

### 第三節 地理書と小地理區の關係

私の作業地理教育のすべてが、小地理區を作業單元とするといふのではないが、(研究題目を作業題目となす場合もあるから)多くの場合には、小地理區を作業單元とし、特殊な地域及び外國地理においては、作業題目を作業單元としてゐることは既述した如くである。

茲に問題となるのは、現行地理書の編纂が小地理區となつてゐないのだから、小地理區を作業單元とした場合、教科書との連絡を如何にするかといふことである。

固も、私は作業地理を實踐するに、教科書以外の参考書は殆ど不必要であると述べた關係上、教科書との關係を如何に考へるかといふことが、確かに問題であり、従来も種々參觀の先生方や講習會の席上において質問を受けてゐるのである。之に就いて、私は次のやうに考へてゐる。

地理書が小地理區になつてゐないことは、私の小地理區を作業單元とする作業地理に不便となることは實際であるが、不便であつても少しも困らない。なぜならば、必ず最初の全體性指導において、教科書全體を利用してゐるからである。教科書全體といつても、一々讀解は出来なから、挿畫の景観を活用してゐるので、挿畫を通して教科書の内容を知ることが出来る。勿論、挿畫を通して知るのであるから、全體的といつても、或程度まで部分に偏することはあり得るのである。

いよ／＼小地理區が決定し、小地理區の作業に移つた場合、兒童は全體性指導によつて取得した資料と、地理書挿圖とを基として、作業の素地を作るのであるが、此の際に地理教科書をも併せ活用して、作業の材料となすのである。

然らば如何にするかといふに、例へば濃尾平野の作業において、名古屋附近の大



工業地帯に就いては、地理書を通して、名古屋及び其の附近では鋼鐵の工業が盛んであつて、其の製鐵廠の多いのは、鐵礦物、錫、毛織物、陶器、時計である。」といふことがわかる。また、陶器は我が國での主な輸出品の一つであつて、瀬戸や多治見でも産する。」ことがわかる。

濃尾平野の農業はどうであるかといふに、これも地理書を通して、濃尾平野は我が國での米の主な産地であつて、名古屋は米の主な集散地となつてゐる。また、野菜などの産額も多い。」といふことがわかる。

名古屋市はどんな所であるかといふに、これ亦地理書を通して、「人口百萬餘、東京大阪に次ぐ我が國第三の大都會で、海陸交通の要路に當り、商業も工業も發達してゐる。」ことがわかる。また、地理書を通して、名古屋に無線電信局があつて、遠くヨーロッパと直接に通信してゐる。」ことがわかる。地理書附圖を見れば、すぐに陸上交通の中心であることも、海運の便のよいこともわかる。(無線電信のことも、地圖でわかる。)

こんなわけであるから、全體性指導によつて小地理區を決定し、小地理區の作業

に入れば、其の後は隨時隨所において、兒童の目的活動によつて、教科書を活用すればよいのである。

若し、兒童として其の利用がわからなかつたなら、教師が指導してやつたらよいのである。例へば、兒童が「名古屋市はどんな所ですか。」とたづねて来たとしたら、「地圖を顧たらどんなことがわかりますか。」濃尾平野の中心にある。愛知県廳がある。交通の中心になつてゐること。(東海本線、中央本線、關河本線、海上交通が便であること、無線電信局がある。―さあこの無線電信局は何處と通信しますかね。地理書の交通の處をごらん下さい。―ヨーロッパと通信するでせう。南工業の盛であることも、此所に書いてあるでせう。―といふやうに指導してやれば、それによいのである。

所で、兒童が更に「どんな工業が盛んなのですか。」と質問して来たら、どうすればよいかといふに、「君等は研究が足りないね。地理書の産業の處を見てごらん下さい。何とありますか。鐵礦物、錫、毛織物、陶器、時計とあるでせう。」といったやうに指導してやるのである。



然るに、児童がまた、愛知縣の綿織物の産額はその位あるのですか。」と質問して来たなら、地理書の近畿地方に出てゐる綿織物の産額の比較を見るやうに注意してやればよい。併し地理書の圖表は統計材料が少し古いから、教師は最新の統計材料を示してやるやうにするのである。此の種の材料は商工省統計年表を見ればすぐにわかることである。最近の統計では愛知縣が約一億八千六百萬圓、大阪府が約一億八千二百萬圓で、共に我が國内地總産額約七億五百萬圓の二割五分に當つてゐて、第一位にあることを教へてやればよい。(昭和八年)

## 第六章 景觀地理と作業地理教育

### 第一節 景觀地理

景觀といふことは、今日の地理研究、また地理教育を語る者に必ず使用される語である。一體景觀とは何を意味するものであるかを考察してみたい。

地理は一地域を單元とした自然、人文兩性の相互關係、吾等が地人一體として吟味解釋することを職能とするものであるから、一地域の地表の形狀、人類生活の様式等、地表に現實に統一された全體として現れてゐる景觀に注意せねばならぬ。

地理學は地域景觀の特質を捉へることを職能とするに至り、地理學は寧ろ、景觀地理學なりと言はれるやうになつてゐる。

地理教育において、地域の景觀を把握するといふことは、畢竟綜合法の體顯と見



るべきものである。即ち一定の地域において直観し得る自然又は人文現象は、景観の中に包含されてあるものであるから、個々のものを見ても其相を個々のことの出発点のないものも、全體的に包含された景観を観ることによつて、明かになるものである。全體的に包含された類型の分布を示す際、即ち範圍を認識して、其の中に個別的な特殊なものを見出し、研究するのが地理の職能である。これが地方的色彩を明かならしめる所以である。

飯本信之氏は景観はドイツ語のランドシャフトの譯語である。ランドシャフト本来の意義は、景色風景であるが、嚴密にいへば、一覽の中に收められ得る地球表面である。藝術家は之を見れば、主觀的に感受するも、地理學者は之を總體として眺めて客觀的に叙述する。ランドシャフトの新しく加き廣義の概念の外に狭義の概念がある。

即ちそれは同様の特徵を有する地表の一部であつて、地表より出づる自然地理的・生物地理的・且文化地理的一部の機能を取單として統一的な同質的な面相を有し、同様な機能をもなすものと認めらるゝものである。併し最初に注意せられたものは地表形状のみであつて、其の一群の形状をランドシャフトと呼んだ。それから礫石・砂丘・第三紀丘陵・扇状地に就いてランドシャフトといふ語尾を附けた。

それからまた高山脈及び火山等にもランドシャフトが附加された。而も亦植物界にも用ひられて、森林・ステップ・沙漠を尖々ランドシャフトのタイプとされた。斯くして最後に地球表面の形状及び外被を一括して眺め、二の方面から一定の場所を特徴附けた。斯の如き地理的な風景 (Geographische Landschaft) が即ち景観である。景観は併し斯くの如く自然的特色に依つてのみ個性的な面相を有する許りでなく、有形無形の人間の諸現象即ち宗教・政治・經濟・交通・定住 (聚落) 等の方面における目的意識的人間活動の諸現象に依つても、明確な特色が與へられる。(政治地理學)

更に、飯本氏は註として次のやうに述べて居られる。

「此のランドシャフトの譯語は實に困難であつて、我が國の地理學界において用ひられる譯語でも景観・景相・景等がある。併し孰れも地理的風景即ち狭義のランドシャフトの含蓄する所の限界ある地的空間の概念を表明してゐない。此の意



味において、之を景観と稱するのが最も其意義に近いものと著者は信ずるが故に、將來においてより良き譯語が見出されざる限り、此の譯語を提唱せんと欲するものである。」と

然らば、この景観の義を如何に解釋するかといふことであるが、私は或地域の自然及び人文活動の様式が、地史に現實に綜合體として現はれてゐる事象と解釋すればよいと思ふ。單に地理的景観といふ意味において、景観を現象として使用されることも時々であるが、景観とは或地域における自然及び人文活動の諸現象によつて特色付けられた個性的形態であるといつてよい。

ペントは、最近地理學の基本概念は景観であることを次のやうに高調してゐる。「景観の個々の現象を別々に系統的に評價し、山脈、平野、河川、湖沼、海岸、森林、ステップ、沙漠を觀察し、地球表面における之等の分布を追求することが、地理學本來の任務であるとしても、それが爲に地理學は決して地球表面一般における諸現象の分布の學問とはならない。之に關する地球表面の個々の事象の分布を確立することが、其の任務であると共に、それ等の事象の分布を發見する事は植物學、動物學、地質學」

物學の如き、他の學問のなすべき事でもある。

それ故に、之を植物、動物、動物の地理學なりとしても、それを以て本來の意味における地理學と解釋せられずして、寧ろ處々に存在し、爾も一區の地球表面でない個々の事象の分布の原因であることを常に眼中に置かねばならぬ。常に一區の地表に關係せねばならぬといふことが地理學の本質である。」(飯本信之氏著「政治地理學」)

## 第二節 景観地理と作業地理

地球上の景観を見ると、或は地形的に統一され、或は氣候的に一地域を形成し、或は生物の分布、産業の分布様式、或は人類活動の方面及び其等の綜合した地理景観から考察して、そこに地理的に統一された地域といふものが存在してゐる。この地理的に統一された地域が地理區であつて、斯くの如く自然、人文兩性の現象が統一された景観を有つ一地域の特色に着眼して研究することは、今日の地理性である。



る。即ち一地域を單元とした自然・人文現象の相互関係を一體として吟味解釋することを職能とするものである。

然るに、私の前述した作業地理教育實踐の「小地理區を作業單元とする場合」の地理作業は、景観地理の本質を實踐するものである。即ち教師の指導を受け、児童の力において、地表上に自然と人文の綜合景観より成る地域を發見し、この小地理區を作業單元として、小地理區の自然・人文地理を調べるのであるから、地理の本性を發見出來るものである。

此の觀點からも、私の作業地理教育は、地理學の本性を國民教育に應用した地理科性によつて、地理的に陶冶すると共に、作業教育によつて、現代國民を教育することが出來るものであると確信してゐるのである。

## 第七章 作業地理教育と地理教科書

### 第一節 作業地理教育と地理参考圖書

#### 一、地理参考書の要不要論

私は、従来屢々參觀される先生方から、このやうな質疑を受けるのである。「地方では、先生の作業地理教育に共鳴し、地理の作業をやりたいと思つても、児童に持たせる参考書がないので、遺憾ながら出來ません。参考書を持たせなくても、地理の作業をなす方法はありますか。」といふのである。

果して質疑者の言はれるやうに、児童が参考書を持つてゐないと、作業を成し持たないものであらうか。私は茲に作業地理教育と参考書について再吟味する必要があると思ふ。



世間には、児童の自修参考書として、地理の参考書が随分出てゐるやうであるが、児童の参考書として、内容、分量、程度等から見て、適當なものは極めて稀だと思つてゐる。或は殆どないではないかといつても、事實ではあるまいか。後に材料をならべ、表解した所で、児童の自修用とはならぬものである。

即ち内容も精選し、地圖、寫真、圖表等を多くして、出来るだけ直觀的に具體化し、文章も平易で、児童に親しみがあつた、また作業上の着眼などを示して、手引となるやうなもの、是れと稱してゐるまいか。

今日、多く見る児童の自修書は記憶する爲に、其のまとめとなるやうに、既述したり、表解したりして、入學試験の練習のやうになつてゐて、眞に児童の作業を指導する精神に乏しいものである。其の表現の文字、文章もなか／＼ひつかしい。随つて、児童としては、之等の参考書、自修書を読むこととそれ自體に、相當な力を費はれるといふ不合理的なことになつてしまふのである。これなどは自修参考書の爲に編まれるものと思つてゐる。

たま／＼私の受持つてゐる児童には、自修書を持つ外に、見本などの使用せる中

等學校の地理教科書を持つてゐるものもある。勿論、中等學校の地理教科書は讀めなくても、それに出てゐる寫真、分布地圖、圖表等は役に立つので、新しい材料であれば、それを利用することはよいことである。殊に二級程度の自修書を持つて來る者もあるやうであるが、之等は自修書の爲に促はれ、児童の力として、自修書を活用することが出来るやうである。

自修参考書を持つことによつて、よけいに勢力を奪はれ、注意が散漫になり、自修参考書の爲に編まれることは考へものである。之等の参考書と稱すべきものは、寧ろない方がよいと思ふので、児童に注意してゐる。私は地理の作業に自修参考書がなくとも、十分足りると思つてゐる。

## 二、作業地理と教師の指導

「参考書がなければ、地理作業は出来ない。」といふ質疑に對して、私は何故に参考書がなくても出来るかといふか。これに對しては、私の作業地理教育の指導原理から吟味せねばならぬ。



(一) 目的性 (二) 現実性 (三) 社会性 (四) 勞働性 (五) 生産喜悅の情 之等を作業地理の要素であると既述しておいた。

作業地理教育は、之等の要素を具備することによつて、完全な作業となり得るのである。併しその幾つかの要素を愛憎しても、作業地理となり得るのである。

茲において、目的性と参考書との關係を考察してみたいと思ふのである。例へば、今兒童が中部地方氣候の作業に當つて、どんなことを調べることに重要であるかといふに、

一、中部地方の氣候は、太平洋方面の東海地方と、日本海方面と北陸地方及び中央山地々方では、氣温雨量の分布が異つてゐること。

二、太平洋沿岸地方は、地勢と暖流との影響の爲に、氣候が溫和で、處々に保養地がある。又この地方は、夏雨量が多い。

三、日本海の沿岸地方は、冬雨量が多くて、スキーで名高い高田附近のやうな保養地もあるから、冬は交通にも、産業にも不便が多い。

四、中央部は地勢の影響で、雨量が少く、また海岸地方よりも、冬の寒さが強い。秋

節制では、スケートが盛んである。

以上にあげたことは、是非調べねばならぬ。これで三方面における氣候の様式の特異性がはつきりすると思ふ。而も之等は、地理教科書を調べることによつて、理會出来るのである。前述の内容は、殆ど地理教科書から採つたものである。

茲において、地理書附圖の力を借りて、其の氣候圖を讀み取ればよい。地理書附圖を讀取の方が先でなければならぬが、地理書附圖の氣候圖が、餘り粗末だから、地理教科書の本文を指導者と共へて觀るのである。所が、兒童は次のやうな疑問を起すのであらう。また起さないとしても、教師からさうした研究を刺戟する指導を與へねばならぬ筈である。

一、太平洋の沿岸地方は、地勢と暖流との影響の爲に、氣候が溫和で、夏雨量が多いといふが、地勢と暖流がどういふやうに影響して溫和であるか。また夏雨量が多いのか。

二、日本海沿岸地方は、なぜ冬雨量が多いのか。

三、中央部は地勢の影響で、雨量が少いといふが、地勢の影響といふのはどんなこ



とか。

四、三地方の雨量や気候の分布はどの位か。

之等の事項は、地理教科書を何べん讀んでもわからないし、また児童の程度では、指導者なくしては、地理書附圖を觀てもわからない。其處で、教師が指導してよいと考へるのである。

例へば、なぜ太平洋の沿岸地方は、気候が溫和であるかといふに、北には山を負ひ、南は海に面して、海には暖流の日本海流が流れてゐるからで、夏に雨量の多いのは、夏は南東風(季節風)といふことを教へてよいが、太平洋から濕氣をもつて、北部の山地に吹き寄せるからであるといふことを教へるのである。

斯くの如く教師が教へることは、作業地理教育の本質から考へて少しも矛盾點がない。作業地理といふと、児童の目的性に立脚するものであるから、教師から教へることなく、児童が飽くまで自修書などを基として調べるのであると考へるのは大なる謬見である。

教師が教へて、なぜ児童の目的性と矛盾しないかといふに、児童としては、なぜ太

平洋の沿岸地方は、気候が溫和であるか、なぜ夏に雨量が多いか、といふことを調べんとする目的性が躍動し、目的活動をなさんとしてゐるのであるから、其の内容を教師が與へても、何等蓋支ないものと思ふのである。

此の場合に、児童に持たせてよい良參考圖書があれば、之を提供して活用させれば、一層児童の目的性を充すことになるのであるが、適當な良參考圖書が見當らない今日では如何ともなし難いではないか。のみならず、地理教科書と地理書附圖とを適當に活用し、教師が之に適當な指導を與へて行けばよいのである。

故に、児童に持たしむべき適當な參考書がなければ、作業地理を實行することが困難であるといふことは、不適當だと思つてゐる。教師としては、如何にして児童の目的性を陶冶し、指導するかといふことを考へ、地理書附圖と地理教科書とで調べ得られないことは、児童の目的性へ確立してゐるならば、教師が教へても、それは舊教育に於ける注入教授とはならないのである。併し教師としては、それを指導することに足りる修養をなしおくことが極めて必要である。何時、如何なる所において、児童から質問されても、それに答へるだけの準備が必要である。といつ



て、一々教師が暗記してゐなければならぬといふのではない。教師が受へてゐないことは、参考書を見て、補綴してやるだけの態度が出来てゐなければならぬ。

### 第二節 地理教科書に対する態度

#### 一、地理書は使用するべきもの

私にかつて、参観人から地理教科書は使用しなくてもよいのですか。といふ質問を受けたことがある。地理書は必ず使用するべきものである。小學校令施行規則第五十二條に次のことが規定してある。

小學校教科用圖書中、修身、國語、算術、國史、地理、故事、國畫ヲ除キ、其ノ他ノ圖書ニ限リ、文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ、府縣知事之ヲ採定ス。但シ、國畫ニ就キテ工及尋常小學校第四學年以下ノ唱歌ニ關シテハ、兒童ニ使用セシムベキ圖書ヲ採定スルコトヲ得ズ。又國畫書々方算術、理科故事、國畫ノ教科用圖書及小學校圖書附屬ハ、學校長ニ於テ之ヲ兒童ニ使用セシメザルコトヲ得。

故に、地理書は小學校令施行規則上から、之を必ず使用するべきものである。併し教科書そのまゝに使用せねばならぬことはない。教科書に記載されてゐる以外の材料を取扱つて悪いといふことはない。是れ地理教科書の活用——地方化を缺く精神である。

#### 二、地理書は教材の源泉

地理教科書は、必ず使用するべきものであつて、地理書は我々實際家に教材の源泉を供給するものである。我々は地理書によつて教材の源泉を仰ぎ、實際に之を活用すべきものである。

地理書は國定教科書といふ立場において、國民教育の見地から國家本位であり、全國の兒童を対象とするものであり、大局着眼であり、教材の大観であり、悪い言ひ方ではあるが、其の叙述は殆ど劃一的であるといつてよい。

大局着眼とはかういふことである。地理の補綴はやゝもすれば、個々の小なる材料に注意しても、大局的に大観することが忘れられてゐる。即ち其の地方、其の



郷土から観れば、必要なことであり、有意義なことであつても、之を日本といふ國家的觀點からすれば、或は世界全體の立場から大観すれば、それ程の重要性を有たぬものが可成り多くあるものである。従つて、國民教育の立場から、常に教材を大所高所より眺めて、大局化することが當然必要なことである。

編定地理教科書に對して、或は地方的立場から観て、こんな材料も入れて貰ひたい、何所のこんな材料が入つたならば、私の方のこんな材料を採入れて貰ひたいといふ希望のあるものも尤もかも知れぬが、之等を編定地理編纂の所謂大局着眼の觀點に立つて考へると、何れも誤れる態度なのである。大局着眼といつても、決して世にいふ大ざつばといふのではなく、教材を十分に精査研究して、國民教育の立場において、國家的見地から精選したものである。

故に、實際の取扱者たる我々は、教材の選擇上に、また教材の研究に、指導の着眼に、十分地理書を吟味せねばならぬ。それには地理書編纂の根本精神から検討せねばならぬのはいふまでもない。

然るに、地理書の内容を絶對的のものとして、其内容は少しも動かしてはならぬ。

地理書にあるだけのことは、すべて平等の力を入れて教へねばならぬと、極めて窮極に考へたならば、それこそ大膽な不心得だと思ふ。

地理書は、其の地方々々の先生方によつて、活用されることを希望してあるものである。それ程關係の密接ならざるもの、重要でないものは之を輕視し、それ程必要なく、隨つて關係なきものは、之を削除するのは當然である。併し必要あるものは、十分之に力を入れて敷衍し、また附加することが必要である。斯うしたことは、地理といふ學科の特質から特に必要なことである。之は決して教科書を輕視してよいといふのではない。教科書を更によりよく活用する精神でといふのである。然らば、如何なる諸點に注意して教材の輕重を決すべきかであらうか。

一、國家的に重きをなす教材——我が國の主材料及び世界的材料

二、人類文化の發達を示す材料——地人相關の材料

三、地方的教材として有意義であり、價値のあるもの、或は地方の特色を示すに足る材料

四、郷土より眺めて關係深いもの、または郷土の材料で重要なもの



五、模式的教材、或は地理科基礎概念養成に適當な材料  
新しくして、地理書に就いて、教師の根本態度を確立し、地理教材に精通し、郷土の調査をなして置くことが、地理書採用の實を擧げる所以であると信じてゐる。

### 第三節 地理書附圖の活用

#### 一、現行地理書附圖の不備

地理作業の本體は、地圖でなければならぬといふことは、今更いふべきことではない。併し現行地理書附圖が餘り粗略過ぎるではないだらうか。粗略といつても、後に精細であることを要求し、希望するのではなく、餘り精細であつては、兒童の程度に合はぬことも事實である。

如何なる點において、私は現行地理書附圖の不備を唱へるかといふに、それは餘り單一的に過ぎるといふことである。即ち地方別單元の地圖に就いて見ても、一葉の地方地圖を描いては、他に必要な各級の特殊地圖がないのである。例へば近

畿地方では、地勢、交通、都邑をいつしよにした地圖はあるけれども、本地方の作業に際して、必要な氣候圖もなければ、産業分布地圖もなければ、人口分布地圖もないといつてよからう。

私は新しくいつたからとて、後に現行地理書附圖の不備を指摘するといふのでは毛頭ない。定額或拾圓内外の地理書附圖に、多くを希望し、要求することは希望者の方に無理がある。

尤も地理書附圖第二圖に、本邦兩主要路線及海流圖があるから、之を利用して、近畿地方における北部地方、中央部低地及び南部山地の氣候區を讀取ることが出来る。併し産業分布地圖になると殆ど必要とするものがない。

第十圖に、近畿、中國、四國地方産業圖として、茶の主な産地、牛の主な産地だけが出てゐる。これだけでは近畿地方の産業を指擦することは不十分である。阪神大工業地帯における大工場分布地圖があればよい。(之は地理書に挿入されてゐるので、地理書附圖の不備を補ふことが出来る茶以外の主要農産物、例へば米、麥、粟、稻等の分布地圖も欲しい。森林の分布地圖があれば更によい。)



新うした希望を述べることには無理かも知れぬが、各地方毎に之等のものを出さなくとも、日本全土として主な農産物、牛馬、豚等の家畜、森林、主な工業等の分布地図があれば、児童はどれ程地図上に仕合せするかわからない。

### 二、如何にして不備を補成するか

新うした不備、不備を補成するには、どうしても地理教科書に依たねばならぬのであるから、地理書附圖と地理教科書と兩者相俟つことによつて、地理作業の機能を發揮することが出来ると思じてゐる。また特殊な分布地図などは、児童の作業したものを利用するがよい。

私の學校では、地理書附圖に出てゐない各種の特殊地図(部分地図、廣大地図、分布地図等)を必要とする爲に、中等學校の地図を使用してゐる。併し外國地圖になると、英語が讀めなかつたり、漢字を書てた外國地名が讀めなかつたりして苦勞する者もあれば、また地圖作業に、土地の高低が複雑過ぎて、其の點は小學校の地理書附圖の程度が、児童の力にあつて、都合のよいことも経験してゐるのである。

參觀された先生方には、「中等學校の地図を使つてゐるから、作業が出来る。」と早業される方もあり、「我々の學校では、とても中等學校の地図を使ふなんていふことは、思ひも寄らぬことです。」などといはれるが、中等學校の地図を使用することは、詳しいからといふのでなく、特殊な地圖——部分地圖、廣大地圖、分布地圖があるの、で、それを利用することによつて、地理作業の本領を發揮したいと考へるのである。こんな次第で、地理書と地圖とへあれば、地理の作業は容易に出来ると思じてゐる。あへて参考書が必要としない。併し児童の目的性さへはつきりしてあれば、児童の目的性に従つて、教師が教へることは、前述したやうに、主知主義教授におけるが如き注入とはならないのである。



## 第八章 兒童に適當する地理作業

### 第一節 地圖に関する作業

#### 一、地圖作業

地圖作業の眼目とする所は、時間を省き、餘りに勢力をかけず、短時間の中に要點を捕寫することである。故に多くの時間を要したり、無駄の勢力を費したりして、必要以外に精微に描くことは、地圖作業の眼目に外れてゐる。

地圖は名稱の示すが如く、地圖であるから、海岸線の小出入の如き一々精細なるを要しない。但し如何に地圖であつても、西にあるべきものを東にしたり、北のものが南になつたりしては許すことが出来ない。(地圖も餘りひどいになると、西も東もわからなくなるものであるが)

茲で兒童の地理ノートに就いて目頃の指導観を述べてみたい。兒童に餘りノートさせるといふことは、小學校の地理として其の必要を認めない。徒にノートしなければ、記憶出来ないことを授けるのは、教師の考へが間違つてゐると思ふ。唯文字や語句だけを立派に並べたからとて、恰も讀方の書取帳の如くしたからとて、地理科のノートとしての價値は見出し難いものである。

それよりは、地圖本位に、地勢圖なり、産業分布地圖なり、或は交通圖なり、郡邑の分布圖なり、市勢の状態を示す地圖なりを示す方が、どれだけ有意義であるかわからない。兒童の地理書附圖は、地勢、交通、郡邑等を主とした地圖に過ぎないのだから、前記のやうな各種の分布地圖を作業する方が、本科收得上甚だ都合がよい。

従つて、教師の指導も亦地圖中心で指導することがよい。先生も思ひきつて地圖を捕寫するだけの力を付けておかねばならぬ。練習さへすれば幾らでも出来るものである。而して私は今後の國民には、地理的材料は地圖を以て、お互に斷ることが出来るやう修練を要したいと希望するのである。

例へば、シンドガポールといふ所が話題に出れば、東南アジア—マレー半島の略地



図を描き、レンガボールの位置を決定することが出来るやうにせねばならぬとの  
抱負を持つてゐるのである。少くとも私の作業地理教育の實踐においては、新う  
した児童——國民が養成されると自信してゐるのである。

## 二、白地圖の作業

之は古くから行はれてゐた方法で、過去の地理教授の大部分は、白地圖への記入  
であつたやうに思はれる。併し其の缺點とする所は、児童の活動を抑制し、習受身  
的に閉らしめる傾がないわけでもない。のみならず、児童の白地圖作業を見ると、  
見角機械的であり、目的性の確立を乏ふものである。

例へば白地圖を利用して、北海道地方の地勢圖を作業するにしても、既成地圖を  
観て、模寫する程度である。即ち、蝦夷山脈、千島火山脈、鄂根火山脈、石狩川、十勝川、天  
鹽川等を地圖を観ながら入れて行く程度である。この時の児童の活動には全然  
目的性がないとはいはれないけれども、大した目的性ではない。それよりは北海  
道の地勢圖を作業するには、山脈——蝦夷山脈、千島火山脈、鄂根火山脈を入れなけれ

ばならぬ。千島火山脈では大雪山、雄阿寒岳、鄂根火山脈では駒岳、羊蹄山を探らね  
ばならぬ。斯く目的決定をして作業すべきものである。

白地圖は之を児童に作らせるとよい。それには炭酸紙を以て、隨時隨所に白地  
圖を作ることが出来るやうにすればよい。賣品としての白地圖は種類は多いが、  
學海指針社發行の等高線入の白地圖や、模塑白地圖などは、特色あるものと思つて  
ゐる。

## 三、分布地圖の作業

分布地圖は、其の種類が頗る多く、産業分布地圖、人口分布地圖、郡邑分布地圖、雨量  
分布地圖、山脈及び火山分布地圖等がある。

1 人口分布地圖 人口分布地圖であるならば、國勢調査の結果を利用し、例へば  
各府縣の人口總數を表はす場合には、一點を一萬人と數へ、人口密度を現はす場  
合には、一點を十人とし、之をドットマップとして表はす類で、之によれば、其の地方の  
人口の分布状態が一目して明瞭となる。



人口總數を表はす場合は、證書にいへば、縣、市、町、村の行政區劃に注意して、點を入れなければならぬのであるが、小學校の程度としては、それは不可能であるから、既成地圖(内閣先生や岡中先生の人口分布地圖)を觀て、作業すればよい。

ドットマップに使用するドットは、ゴム版で作つてもよいし、また色紙の切抜きを利用してよい。(東京フレージャー社では一センチメートルで四角を四つに分けてある)

2 産業分布地圖 産業分布地圖ならば、産物名を記入する方法と、主要産物をいふの形象によつて記入する所謂象形法と、點に依るドット式とがある。

産物名を其の産出する地域に記入する時には、産物名を圓形、正方形等の外廓で圍んで記入すると、明瞭になつてよろしい。而してその圓形、正方形は其等産物の多少に応じて區別するがよい。産物名は勿論産地中心に記入するのであるが、販路關係、集散關係のある郡邑を記入する方が有意義である。象形法に依れば、繪畫は兒童に興味深く、觀しみのあるものであるから、此の點において具體的で面白い。

ドット式に依る場合、例へば農産物ならば、米は黒點を以て、麥は赤點を以て示す

の例で、點の多少は産物の多少を表示するものである。此の式は近來非常に多く用ひられてゐる。而して此の方法に依れば、産物の種類を知ると同時に、其の産地並びに其の産物の關係が明瞭になるもので、甚だ都合がよい。ドットマップを觀れば、教師が説明せんとする事項は地圖に直觀的に表はれるので、意義が深いのである。地圖との關係が極めて密接なので、地理の統計は出来るだけ地圖化して、地理的表現に努めることが有價値なのである。

### 四、陸地測量部地圖の作成

陸地測量部發行の地圖は、參謀本部の陸地測量部の事業として、國家が多大の經費と大なる勢力とを費し、測量製圖したものである。而して一般國民に供する爲に作製したものであるが、從來多くは陸軍専用のものであると、誤解されてゐたやうであるが、近代に至つて登山に、旅行に、この地圖が利用されることの多くなつたのは、國民文化の爲に喜ばねばならぬ。小學校においても、遠足に、校外教授に、陸地測量部の地圖の使用が盛んになつて來た。



陸地測量部發行の地圖の主なるものには、次のものがある。

- 一、五萬分の一地形圖(全圖)
- 二、二萬五千分の一地形圖及び資料二萬分の一地形圖(全國重要地域)
- 三、一萬分の一地形圖(東京附近)
- 四、二十萬分の一帝國圖(全圖)
- 五、朝鮮一萬分の一地形圖
- 六、朝鮮五萬分の一地形圖
- 七、百萬分の一東亞輿地圖

郷土の二萬分乃至五萬分の一地形圖により、郷土の實際と相對照して、地圖上の諸種の現象を讀むことにおいて、甚だ觀念を養成することが出来る。

また五萬分一、二萬五千分一、二萬分一地形圖の或一部分を任意に擴大せんとする時は、原圖として之を使用する。擴大せんとする地域に、方眼紙を引くか、又は薄紙に方眼紙を引いて、透視することが出来るやうにして、他の畫用紙に任意の數倍だけの寸法を取り、原圖又は薄紙に引いた方眼紙の倍數づゝに畫用紙に方眼紙を

入れて、原圖方眼紙内の地物を見ながら、畫用紙方眼紙の相當處に記入するのである。

擴大圖を描くには、地圖書附圖を利用することもあるが、五萬分一、又は二萬分一、一萬分一地形圖を擴大することが、最も有意義である。

また陸地測量部地圖に彩色を施せば、一見して土地の高低が知られて都合がよい。其の方法は大體二十萬分一帝國圖によつてなすがよい。平野は靑色を帯びた綠色に、山地は茶褐色に彩色し、海は藍色を施さず、其のまゝにしておく。郷土の地圖や遠足地圖や、林間學校地圖を此の種の地圖に彩色して面白い作業である。

### 第二節 方眼紙活用の作業

方眼紙は其の使用範圍が極めて廣く、主として圖表に用ひられるものであるが、適宜之を利用する事によつて、無味乾燥な數量が極めて具體的に、明瞭になるものであるから、如何なる數量にあつても、容易に單位關係を見出すことが出来るやう



に拘束しておくことが最も肝要である。

統計圖表には種々の表示法があり、前述したドットマップに依る人口分布地圖も、産業分布地圖も、一種の統計圖と見られないことはない。併し従来、方眼紙を使つて、多く利用されてゐるものは、線法と象形法と稱すべきものであらう。

### 一、線法

線法とは、長短の線を統計の数量の大小に応じて表はす方法で、之が爲には一定の線を基準として、長短の線を此の基準に排列するのである。若し縦線の取組を相連絡せしめる時は、曲線となつて現象の動態を一層明かに示すことが出来る。

線法は明瞭に表はすことを特色とするから、多数の線を描くことを避けなければならぬ。此の線法を多少變形したものに、曲線法、圓形法、面積法等がある。之等は各統計の範圍に応じて、彩色又は線の組合せによつて、明瞭に作業すべきものである。

私の経験では、線法グラフにおいては、色テープを利用するがよい。實際指導上、

學級全體化する爲には、相當大であることが必要なので、普通五十五種に、四十五種の方眼紙を使つてゐる。線を描く場合に、彩色を附けると爽になることが多いし、比較的多くの時間を要するので、色テープを利用してゐる。簡単に出来て、其の結果が宜しい。

### 二、象形法

實物の形の大小によつて、数量を示すもので、船舶の噸數は船體の産額は船體積、ビールの消費量は樽の形等を以て、其の多少に従ひ、其の形に大小あらしめて比較する法である。此の法は最も通俗的で理解し易ければ、博覽會、共進會等の出品物に使用されてゐる。併し、私は實際においては此の方法を採つてゐない。児童の中には、兒童の趣味に應じて作業するものもあるやうだが、儼も獨創的のものには出あつてゐない。

### 三、其の他



其の他方眼紙を利用することには、氣象統計圖表を作業したり、氣候及び等壓線圖を作つたり、或は鐵道の列車發着時刻を記入したり、或は地形の断面圖を描いたり、丹那トンネル開通後における東海道本線、東海道本線、浦根八里を馬で越す舊東海道距離、勾配を比較したり、其の使用の範圍は頗る廣汎である。

### 第三節 庶物蒐集整理の作業

茲にいふ庶物とは、自己の生活を體會するに必要な諸材料をいふもので、爾も兒童の環境において蒐集し得るものである。例へば、商品のレツナル、商店の屋號、辨官の包紙の蒐集、新聞の切抜、其の他貨物、標本、繪葉書等の蒐集を指すものである。また都市の兒童であれば、各自が毎日食べてゐる米は、何處から來てゐるか、米商店に就いて調査することも生活指導の第一歩である。

何れにせよ、庶物蒐集に關する作業は、蒐集すればよいといふのではない。馬鹿な深いものが、何でも我が家へ集めればよいといふのではない。意義あるものを

集して之を整理することが大切である。整理するといふことは、之を實際に役立つやうに整頓することである。されば平素整理されたものが、地理作業にどんどん利用されて行かねばならぬ。然るに、必要な繪葉書は集めてあるのはあるのだが、何處へ行つてしまつたかわからぬといふやうなことで、是れは駄目である。(繪葉書に就いては、教授者自身にも、往々こんなことがあるのである。)

### 第四節 夏休み中の地理作業

#### 一、地圖作業

地圖作業に就いては前述したのであるが、私は平素の主義として、随時隨所において、必要とする地圖を描くことの出来る能力を陶冶することを目標としてゐる。従つて、不斷の地理作業は地圖本位であり、地圖作業であるが、稍もすれば、時間的關係に支配されて、其の理想の達成されぬ憾みなきにあらずである。また平素は略地圖本位であるから、夏休み中には稍、繪畫なものを作業させるがよい。(繪畫とい



ふ用語は、適當でないが、丁寧にといふ意味である。

私が従来、兒童と約束することは、第五學年においては、關東地方中部地方の中、自分の好きな地圖を一枚作業すること、大いさは隨意のこと。

第六學年においては、日本の總説の作業をして來ることである。日本の總説において、兒童が今までに修得せる材料を基として、作業すべき題材内容が非常に多いので、作業の結果が良好である。

- 一、日本の山系圖
- 二、水力發電所の分布
- 三、養蠶業と繭の産額
- 四、生絲の生産と生絲の輸出
- 五、主な農産物の分布
- 六、主な國産物の分布
- 七、我が國の工業地帯
- 八、我が國の國産物と國産物の分布

九、我が國の林業に就いて

- 一〇、我が國貿易の現状と過去との比較
- 一一、我が國の鐵道交通
- 一二、我が國の無線電信に就いて
- 一三、全譯の表解作業

等のことが、従來の作業題目によく選擇されてゐたことを経験してゐる。

高等科においては、一年二年ともに其の學年において、修得せることの地圖化作業を獎勵してゐる。高等一年においては、滿洲の地圖なり、支那の地圖、印度の地圖等を作業する。(之は第一學期にアジア洲より指導した場合のことで、大洋洲より指導した場合は、アフリカ洲、南アメリカ洲、北アメリカ洲となる)

高等二年では、我が國の火山、温泉分布地圖とか、我が國の地震地帯地圖とか、世界及び我が國の山脈分布地圖とかを作業するのである。

此の場合に、作業の題目決定は、全く兒童に任せて自由作業にしてもよいが、私の最近の経験では、偶然にして同題目の多かつたことがある。同じ作業題目で作業



して来ると相互の比較研究には便利であるが、餘りに成題目に偏することは考へ物であるから、夏休みの直前に、作業題目を決定せしめ、各種の材料にわたるやう、計畫させるがよい。

## 二、氣象統計圖表作業

氣候上の觀念は、日々之を實際観測することによつて、確實に得られるものであるから、此の種の作業をなすがよい。氣象統計圖表は氣温はいふまでもなく、降水量、氣壓等も書入れる必要はあるが、夏休みの家庭作業としては、温度だけに止めるより外はない。

勿論、氣象の観測作業としては、先づ晴雨、氣温、氣壓、風力、風向、湿度等をはじめとして、其の内容が極めて廣汎であり、之を實際に行ふには、相當の設備を必要とするのであるが、児童の程度には剛はないものがあり、従つて其の作業は至難であり、正確を期し難い。況んや夏休みにおける家庭作業として實行することであるから、氣温の外に晴雨、風、湿度だけを観測すればよいとなすのである。

家庭における氣温の調査に就いて一言述べておきたい。各自家庭の環境によつて温度に相異のあるのは勿論である。家庭の環境とは、一郷土においても、家の位置、構造、大小等である。即ち、茅葺の家と、瓦葺の家と、トタン葺の家ではちがふ。また、周囲の環境によつても異つてゐる。

そこで、夏休み中の氣温の分布として各自に調査させる。一日の氣温中、朝の六時と午後の二時頃は最低、最高の時で、午前十時の温度は一日中の平均温度に近い。されば午前六時、午前十時、午後二時にわたつて観測するとよいが、児童の生活としてその出来ないことはいふまでもない。

故に午前十時の平均温度だけでもよい。又は午後二時の最高温度だけでもよい。或は一日中の最低とか、最高とか、平均氣温とかに拘泥せず、児童の作業として最も實行し易いやうに、正午の氣温を調査させてよいと思ふ。之を方眼紙にグラフとして表示するのである。而して其の氣温の下に、其の日の天氣の状態を記入しておくのである。

斯くしたものを九月になつてから、各自持ち寄り、其の氣温の分布を比較するの



である。其の気温の分布をば、気温を支配する種々の地理的條件から考察指導するのである。

當校の兒童は夏休になると、大部分の者は、或は山に、或は海に、或は田舎の親類に、郷里の實家に、避暑轉地して、東京に止まつてゐるものは極めて少ないのである。私は此の現象を一時は贅澤に過ぎる、感くいへば一種の虚榮に過ぎぬと思つたこともあるが、實際東京の夏は暑いのだから我慢がし難い。されば生活に餘裕あり、健康の増進といふことを考へるならば、かへつて山に、海に避暑する方が適當であることがわかつた。

こんなわけで、兒童の大部分は他地方へ避暑轉地するのである。そこで轉地先の氣候を調査させ、之を圖表化して、九月に出させ、各地の気温及び天候の様でないことを指導してゐるのである。寒暖計を配る時刻は、兒童の最も實行し易いやうに正午の晝時にしてゐるのである。気温の圖表には併せて其の日の天氣狀態をも示しておくのである。

私の實踐してゐる夏休み中の気温作業は、前述の外に、全國各地方の最高気温の

調査に關することである。之は日々の新聞に報道される材料を基として、之を方眼紙に圖表化してゐるのである。

さうすると、兒童が考へて、それ程の最高気温を示さうと思はない、福島市、米澤市、山形市の如き、或は北海道の旭川市の如き、或は日本海岸における新潟市の如きが割合に高温を示すことを不思議がり、それに就いて氣候指導の有力な材料が得られるのである。

我が國人は気温に對して無頓着といふが、寒暑に對して鈍感といふのではない。たゞ今日は暑い、今日は寒いといふ位で、今日の暑さは何度であるか、今日は寒い、何度であるかと正しい數量に訴へて温度を讀するものが少ないといふのである。かうした國民的缺點も、前述の作業訓練によつて教養することが出来ると信じてゐるのである。

### 三、實地の見學

實地の見學旅行が出来れば、何ぞ仕合せなるかなと思ふ。夏休みの長期休業を



利用し、其の中の五日なり、或は一週間なりを費して、實地に見學旅行をなすことが出来る環境に置かれるならば、地理作業訓練の上からは勿論、教育全般から眺めて頗る有意義である。

併し、之は多くの兒童に望むことは出来ない。殊に農村にあつては、殆ど絶望であるかも知れぬ。けれども、親戚をたづねて、今夏は何所のそばさんの處へ行つて見ようといふことは實際にあり得ることと思ふ。所謂サウリーマンの子女で、保護者が歸郷する爲に共に旅行するといふことは、都會の學校の兒童にはよくあることである。

斯かる境遇にある兒童は、地理の實際上の知識を得、且自然現象の妙味を理會し、自然と人文との關係を考察する機會に遭遇し、生きた自然界に廣く接するのであるから、殊に注意すべき諸點に就いて指導しておくがよい。

繪葉書や、其他手軽な物産などは比較的集め易い。また汽車旅行によつて、主要點で食べた辨當すし、サンドウィッチ等の包紙も、地理修得上の一資料であることに注意せしめねばならぬ。それ等の包紙には、必ず其の驛附近の名勝と、距離、繪

畫、其他の地理、歴史的材料の載つてゐないものは殆どない。而も各驛によつて、其の圖案なり、繪畫なり、特徴があるもので、趣味の存するものである。

またそれらのレフター類を雜誌版なり、其他旅行帳の如きものに整理貼付しておき、其所に簡潔な記事を挿入して保存すれば、意義ある旅行記念物となり、而も金をかけないで、記念物となすことが出来、後に思ひ出の材料となるのみならず、またそれ自體が地理作業であることを自覺せねばならぬ。現時流行してゐるスタンプの蒐集や、集印帳も亦面白いものである。



## 第九章 作業地理教育と成績考査

### 第一節 成績考査といふこと

成績考査といふことは、従来毎學期末又は隨時、其の他の場合において行はれてゐる所のものであつて、教師は「成績考査」といひ、兒童には所謂「試験」で通つてゐるものである。

さて試験といふと、入學試験、檢定試験又は成績考査の概念における試験など、其の種類が多く、従つて概念が廣汎であるが、成績考査といふものは、如何なる教育的意義を有するものであるかを吟味してみたいと思ふ。

先づ、兒童が教師の指導によつて、どれだけの知識を收得し、どれだけ理會し、どれだけの力を有つてゐるかを考査することの意味がある。多く學期末に行つてゐ

る成績考査とは、このやうな意味を有つもので、教師は主として其の結果を重視して、兒童の成績を決定することとなるのである。併しそれは學期末のみでなく、學期の中途において、或教材まで指導し終つたといふ場合に、教材の一段落として、兒童の成績を考査する場合も、かうした意味からなのである。何れの場合においても、従来は主知主義の問題に促はれてゐた嫌ひがあつた。

成績考査といふことには、今一つの重要な観方がある。それは成績考査の答案に現はれた兒童の成績に依り、教授力、徹底の如何を内省し、指導原理並に方法改善、向上策に利用する場合である。

教師の研究的態度において、是非かういふことが必要であつて、教師が教へ放しでは、教師として適確に反省の機會を得られぬから、指導方法の改善向上に役立たせることが出来ない。どうしても兒童の成績に徹して、教師自らが内省する機會を作ることが重要である。従つて毎學期末に多く考査してゐる仕方は、學期中途において、隨時適當な機會を利用して考査するやうにしたものである。



## 第二節 成績考査の内容

成績考査といふと、従来は専ら知識の考査のみに促はれてゐたことを指摘せねばならぬ。之は學校教育が主知主義であり、知識偏重であるから、それも當然であらう。勿論、知識を重要とすることは、作業地理教育においても變りない。併し作業地理教育においては、知識偏重ではない。知情意の統一ある人間教育が作業教育の目的であるから、成績考査が知識のみに偏することは、當を得たものではないのである。そこで次の項目内容に就いて考査してゐるのである。

## 一、知識

作業地理教育においては、知識を排斥するのではなく、唯主知主義、偏知主義に陥らぬやうに警戒することが肝要である。

知識を取得するにしても、従来の舊教育においては、教師の注入によつて、而も兒

童を一種の容器と見て、兒童に詰込んで、機械的に専ら知識を興へてゐたものであり、兒童は専らそれを記憶することに是れ努めてゐたのである。

作業地理教育においては、兒童の目的活動に依り、現實性に剛り、社會性を養育し、勞得によつて知識を取得してゐるのであつて、主知主義教育におけるが如く、兒童が受動的立場において、知識を收受してゐるのではない。

作業教育が、主知主義教育を排斥することからして、世間や、もすれば、作業教育の成績考査には、知識の考査はないものと考へるものなきにしもあらずであるが、是れ作業教育に対する認識不足より來る謬見でなくて何であらう。併し知識を受けし過程において、主知主義の舊教育は知識の授與であり、作業教育は活動性に剛り、勞得であるから、其の身心の活動において大なる差異のあることを自覺せねばならぬ。

さて知識の考査に就いては、兒童の所持せる知識が、多なりや、不多なりや、また兒童の取得せる知識が、多なりや、少なりやといふやうに、性、量兩方面から考査するのである。知識の取得の確實なものは、多であり、それ程確實ならざるものは、少



であり、最も甚だしいものは「不積多」又は「不積少」となる。之は不積實な知識で、雨も少いといふのであるが、稀には兒童の個性により、出鱈目な知識を多く發表するものもあることがある。斯かる場合には「不積多」となるのであるが、落付のない軽率な面も發表欲の盛んな兒童には、こんなことをよく見るのである。

## 二、考 察

考察とは所謂地理的判斷を意味するものである。取得した知識材料を以て、地理的事實を解釋する應用の力、謂はゞ地理眼である。

地理的判斷といふことは、兒童にとつて少しむづかしいことに屬するが、小學校地理指導における常識としての地理的考察力である。例へば京濱大工業地域の地理的事實から、大工業地域の發達せる地理的理由を推究し、判斷することは考察力である。また農業なり、工業が發達するには、如何なる地理的條件を必要とするかといふことを解釋することも考察の力である。

知識は唯知識として死蔵するにあらずして、尤もこんな知識は眞の知識といは

るのが眞に活用することの知識でなければならぬのであつて、地理的考察も、また眞の地理的知識の働きに依たねばならぬのである。眞の生きた地理的知識を以て、生活を體會するには、明敏な地理的考察力を必要とするのである。

従つて、考察する力の内容としては、兒童の考察が適當なりや否や、而も考察力は廣いか、狭いかを見るのである。考察力が正しく、適當であり、而も多くの場合に適當な地理的判斷をなすものは「適廣」であり、それがそれ程でもない場合は「適狭」となり、不適當な考察をなす場合には「不適廣」又は「不適狭」となるのである。

然らば「不適廣」と「不適狭」との間に如何なる相違があるかといふに、何とも適當な考察をなし得ないといふ場合は「不適狭」である。其の地理的判斷が不適當であるけれども、各方面の視角から考察してあるといふことがあれば、不適當な地理的考察であつても「不適廣」となるのである。兩者の境は、教師の認定に基づくもので、數量的にはつきり言ひ現はせぬものである。

例へば京濱大工業地帯が發達した理由として、

- 一、位置がよい——關東平野を控へ、太平洋に面すること。



- 二、交通便がよい——鐵道或は汽船、東京港の發達が多いから、原料の輸入、産品の輸出、産品の消費にも、製産品の輸出、産出にも甚だ都合である。
- 三、動力に恵まれてゐる——水力發電及び石炭、石油の動力を受けるに便利である。
- 四、人口が多い——一帯に都市が發達し、人口が多いから、製産品の消費が多く、且工場従業員を集めるに便利である。

以上の事項を挙げた場合に、其の理由の三つ以上を挙げた者には「適度」としてよく、二つ以下の場合には「適度」としてよいであらう。併し理由は二だけしか挙げられてゐなくても、其の説明の仕方が徹底してゐる場合には「適度」としてよい。であるから、其の邊の實際問題になると、全く教師の認定に基づくものといふべきである。

### 三、演習

演習は作業に對する主として計畫、實行方面の考査である。作業が筋肉活動のみでないことは、從來述べ來つた所であるから、茲にいふ計畫も、筋肉活動のみの意にあらずして、精神作業にも通ずるのは勿論である。

地理作業に際して、其の仕事の目的を決定し、綿密な計畫を樹立して、作業することによつて、作業が出来るものであるから、後に作業の結果にのみ視はれることなく、其の作業全體の過程に注意する所がなければならぬ。

具體的な作業に着手しては、計畫に基づいて作業の進行を圖るべく、途中で計畫を變更するが如きことがないやうに、指導することが重要である。

小學校における成績考査は、平素における兒童の作業態度に留意することが必要であるが、就中演習において、其の重要なことを痛感するものである。従つて平素の作業態度の表現される地理ノートの指導にも注意し、層々地理ノートを檢査することを立つてはならぬのである。

演習の評語は「良可、不可」を以て示してゐる。作業態度の如何によつて「良可、不可」となるのである。兒童がよく目的を確立し、計畫を立て、作業を實行すれば、出来上つた作業の成績品が、餘り不出来でない限りは「こんな兒童に限つて、不出来に轉ることはない。」「良」となり、目的や計畫は相當によく立て、も、作業の實行に當つて、技術的にも餘りに不出来である場合には「可」とよい。作業の目的も計畫も、確立せ



す、作業の實行が出来ない場合には、不可となる。(作業の目的も、計畫も立たない児童は、作業の實行も出来ないのはいふまでもない)

また、私は考査問題にも、作業の精神がよくわかるやうに、全く植園本位の問題を出してゐるのである。例へば四國地方において、瀬戸内海新面の北四國と、太平洋新面の南四國との比較において、幾つかの略地圖を描いて説明することを求めるのである。

植園によつて答案を書くのであるから、児童は地勢圖も、氣候圖も、産業分布圖も、郡邑交通圖も作業しなければならぬのである。どうしても現代の國民地理教育においては、臨時、隨所において、必要な略圖を描くだけの能力を陶冶することが重要だと思つてゐる。それなのに、餘り主知主義な問題のみを出して、何々に就いて知つてゐることを書きなさい、といふことには、誠心出来ないものである。

勿論、こんな問題があつてもよいが、出る問題、出る問題がすべて、何々に就いて知つてゐることを書きなさい、では、児童の地理眼は磨きされるものでない。國民地理教育としては極めて不満足である。

尙地理科成績の總評として、児童にも、保護者にも、一目でわかり易くする爲に、甲乙丙丁としてゐる。

### 第三節 成績考査問題

左に參考として、成績考査問題の一例を、第五學年及び第六學年の材料から掲げてみよう。

#### 一、第五學年

一、關東地方の略地圖を描いて、行政區劃を入れなさい。

(1) 府縣の名 (2) 府縣廳のある所

二、關東地方の略地圖を描いて、次のことを入れなさい。

(1) 三國山脈 (2) 奥羽山脈 (3) 越後山脈 (4) 阿武隈山脈 (5) 那須火山脈 (6) 關東山脈

(7) 那須火山脈 (8) 利根川 (9) 荒川 (10) 利根川



三、關東地方の略地圖を描いて關東地方の労働地理等に關する保護地を入れなさい。

四、關東地方の略地圖を描き、主な農産物を多く産する地方に書き入れなさい。

五、京濱大工業地帯に就いて次の問に答へなさい。

(1) どんな工場があるか

(2) なぜ發達したのか

六、關東地方の主な鐵道を圖で示しなさい。

七、關東地方の略地圖を描いて、次の都邑を入れなさい。

- (1) 東京市 (2) 横濱市 (3) 横浜買市 (4) 鎌倉 (5) 鶴子市 (6) 高崎市 (7) 日光 (8) 足利市
- (9) 野田 (10) 八王子市

八、横濱港に就いて次の問に答へなさい。

(1) 主な輸出品

(2) 主な輸入品

(3) 何所の國と貿易が最も盛んであるか

九、次の地名は、何で知られてゐるかを、簡単に述べなさい。

- (1) 日立 (2) 八王子 (3) 横浜買 (4) 秩父 (5) 二見港

一〇、奥羽地方の略地圖を描いて行政區劃を入れなさい。

(1) 縣の名 (2) 縣廳のある所

一一、奥羽地方の略地圖を描いて、次のことを入れなさい。

- (1) 奥羽山脈 (2) 北上山脈 (3) 阿武隈山脈 (4) 郡嶺火山脈 (5) 越後山脈 (6) 出羽丘陵
- (7) 鳥海火山脈 (8) 北上川 (9) 阿武隈川 (10) 阿賀川 (11) 最上川 (12) 津川 (13) 米代川
- (14) 磐梯山 (15) 十和田湖

一二、奥羽地方において、次のものを最も多く産する所をあげなさい。

- (1) 銅 (2) 石炭 (3) 石油 (4) 鹽 (5) 苹果 (6) 絹織物 (7) ジャガイモ

一三、奥羽山脈が此の地方の氣候、交通に與へる影響をあげなさい。

一四、奥羽地方の略地圖を描いて、主な鐵道と都邑を入れなさい。

一五、奥羽地方の海岸に、良港の發達したい理由を考へなさい。

一六、青森港が重要なわけを説明しなさい。

一七、奥羽地方の牧馬に就いて、次の問に答へなさい。

(1) 牧馬の盛んな地方

(2) 牧馬の盛んになつた主な理由



### 二、第六学年

- 一、北海道の略地図を描いて、地勢圖を作りなさい。
- 二、北海道の略地圖を描いて、主な農産物の分布を入れなさい。
- 三、北海道の略地圖を描いて、主な鐵道と郡邑とを入れなさい。
- 四、北海道と臺灣の農業とを比較しなさい。
- 五、北海道と神太の水産業を比較しなさい。
- 六、臺灣において、西臺灣と東臺灣との比較をしなさい。
- 七、臺灣の主な農産物、内地との關係深いものをあげなさい。
- 八、臺灣の略地圖を描いて、次のことを入れなさい。
  - (1) 鐵道 (2) 基隆市 (3) 臺北市 (4) 臺中市 (5) 臺南市 (6) 高雄市 (7) 屏東市 (8) 臺南山脈 (9) 濁水溪 (10) 新高山
- 九、朝鮮の略地圖を描いて、次のことを入れなさい。
  - (1) 長白山脈 (2) 白頭山 (3) 大白山脈 (4) 小白山脈 (5) 鴨綠江 (6) 豆滿江 (7) 漢江 (8) 洛東江 (9) 金剛山 (10) 京城

一〇、朝鮮において、東朝鮮(黄海方面)と、南朝鮮(日本海方面)の比較をしなさい。幾つかの地圖を描いて説明しなさい。

一一、朝鮮略地圖を描いて、金剛、石炭の主な産地を入れなさい。

一二、關東州について、次のことに答へなさい。

(1) 我が國は何國から租借してゐるか。

(2) 其の廣さは凡そどの位あるか。

(3) どんな産物があるか。

一三、次の港はどんなことで似てゐるか。

(1) 函館 (2) 大泊 (3) 基隆 (4) 釜山

一四、我が南洋委任統治地と、海の生命線といふのは、どんなわけか。

一五、次の郡邑の位置と、何で名高いかを簡単に説明しなさい。(位置は地圖を描いて示しなさい)

- (1) 札幌市 (2) 豊原 (3) 基隆市 (4) 臺北市 (5) 京城 (6) 新潟州 (7) 豊津 (8) 大連 (9) 旅順 (10) 淡水



## 第十章 作業地理教育の實踐果して困難か

### 第一節 作業地理の認識不足

作業といふと、直に勞働性による造形物のやうに考へ、作業地理教育の指導原理として、前述した指導精神を理會しない所から、作業地理教育の全貌を知ることが出来ない。縱し造形活動がなくても、兒童の目的性に立脚し、現實性、社會性の作業要素が實踐されるならば、それは精神作業であつて、作業地理教育の一部である。作業地理教育が徹底して陶冶價值を收める所以のものは、勞働性に基づくものであるから、勞働に依る造形物が出来ない、作業地理として十分でないのだが、精神作業の實踐さへも考へないのは、確かに作業地理教育に對する認識不足の爲であると思惟する外はないのである。

私は自分の著、作業主義各学年地理指導の實際の指導案においては、地方別單元、洲別單元、國別單元の全體性指導から、目的を決定し、其の目的決定を指導單元として述べたのであつて、前述した私の作業地理教育の指導體系からは異なる所があるかも知れぬ。併し、作業地理教育の指導原理に立脚したことはないふまでもない。目的決定をなすにも、共同活動を重視してなしたのである。唯グループを作つて造形活動をなさずして、主として各自のノートに作業することを本體として説明してゐるのである。

而して、所謂整理の所において、地圖化作業——ノートの整理作業として、或は地勢、或は産業等に就いて、其の地理時間中に十分整理を成し終るやうに用意したのである。先生は隨處中心に指導するとして、兒童は先生の指示された地圖を、また自己の考へに依る地圖を自己のノートに作業する場合、理會の遅い兒童も居るし、手先の遅い兒童も居るから、地理の時間中に、地圖作業の整理が出来るやうにしたのである。理會の遅い兒童、手先の遅い兒童が、ノートを整理することの必要がなければ、地理教科書を讀解してもよければ、更に自己の作業題目に精進してもよ



いのである。

## 第二節 時間不足の問題

### 一、時間不足の弊

世には作業地理教育の實現困難の一理由として、時間不足のことを言はれるのである。多くの先生方から殆ど異口同音的に、此の問題に就いて歎せられるのである。或る種地理教授時間には餘裕のないことは事實である。作業地理でなくとも、詰込主義の注入的地理教育においては、従来時間の不足がかこたれてゐたのである。即ち時勢の要求は國民をして益々地理的に陶冶することが必要である。然るに一週二時間の地理教授時間では、如何にも不足するから、何とかせねばならぬといふのである。併し一週二時間の地理時間を、更に増加させるなんていふことは、他の教科關係上到底實現不可能なことである。

茲において教材輕重論を唱へねばならぬのである。如何なる教材に重きを置

くべきであるかは、作業地理教育と地理教科書において述べたから、茲に省略しておく。唯、教材の輕重を考へておくのでなくて、何れの地方、何れの國家の地理も千編一律的に、殆ど劃一的に指導してゐたのでは、何時間の地理時間があつても、時間に不足を來すは明かである。

### 二、自修時間の利用

さて私の作業地理の指導體系において、何處までも地理時間中に指導することをして本體としてゐるのは勿論である。目的決定の指導、作業の計畫、小地理區の研究作業——すべて正課の地理時間中において實踐したのであるが、多くの場合（すべてといふのではないが）模造紙に作業することの勞務作業だけは、自修時間を利用したり、時に教師も児童も都合のよい場合、放課後一時間乃至一時間半位を利用してゐるのである。

併し絶対に家庭の作業に移したといふことはない。學校でなすべき作業を家庭に轉化して平然としてゐるといふが如きことは全くしてゐない。概し家庭の



作業にしたいと思つても事實出来ないのである。なせならば、殆ど共働作業なのであつて、児童は大東京の各地方に分布してゐるから、一枚の模造紙を家庭へ持参した所で、何處の家庭に集つて作業すればよいか甚だ不便を來すのである。

こんなわけで、私は家庭に宿題とか家庭作業とかして課すといふことは絶対にないのである。私の家庭作業といふのは、新しく作業する地方の繪畫書などが家庭にある場合、それを整理して、學校へ持参するとか、郷土との生活關係はその方面にあるとかといふが如きことを準備して來るといふ種類のものなのである。

こんなわけであるから、家庭の作業として、家庭に任せて教師がすましてゐるといふことはやらない。自修時間や放課の時間を使はなくても、勞働作業が出来ることよのであるが、それはどうしても今日の所成し得ない。

自修時間といふのは、課外の時間ではなくて、正課の時間なのである。一時間の時間の單元を四十分とし、休憩時間を十分間とし、一日に六時限をなし、其の中一時間を自修時間となすのである。併しこの自修時間は其の他の教科でも必要とするから、自修時間をすべて地理だけで獨占するといふことは成し得ない。

そこで止むを得ず、放課後の時間を一時間乃至一時間半位利用するのであるが、之も當校の現状としては、無制限に利用することは出来ない事情にある。即ち児童の下校時間は極めて嚴重である。児童は可成り遠距離から市内電車を利用して、有線電車を利用し、或はバスを利用して通學するものであるから、通學途上の交通事故といふことが非常に心配される。何かの都合で、児童の歸宅が豫定より遅れたりするものならばたまらない。児童の家庭からは頻々として學校へ電話で照會があるのである。

また教師の方も、放課後は職員會に、研究會に日を取られ、児童の作業を指導する機會が得られないから、放課後の作業といつても、さう多くはなし得ないものである。放課後居残つて作業をなす児童は當直調停の許可を受け、何時まで居残るかを断つて作業をなすことになつてゐる。

こんなわけで、放課後居残るとしても容易に成し得ない事情があるのである。然るに市町村の公立小學校においては、児童の通學區域が自ら定つてゐるので、私の學校のやうなことがないので、其の點は却つて都合がよいと思ふのである。



振りかへして述べるのであるが、私の作業地理教育の指導實踐において、自修の時間、又は放課の時間においてなすのは、主として模造紙になす地図化作業の實踐であつて、他はすべて地理の正課時間中においてなすのである。

### 第三節 児童数の問題

#### 一、児童数の多いのはよい

參觀される先生によつて、また講習會などの席上で、よく聽かされることであるが、一學級の児童数が四十名以内であれば、作業教育も實踐容易であらう。併し地方の學校のやうに、一學級六十名、七十名といふ多數を收容してある學級では、作業教育の實踐が甚だ困難であるといふことを切りに言はれるのである。

成る程、尤もなるかの如く聞える點もあるやうだが、之は作業教育を實行してみないから、机上の空論としてこんなことを言はれるのであると思ふ。児童数の多いといふことは、設備上に不便を來し、不都合なしとはしないが、論者の言はれる程

不都合はないものである。

寧ろ私は児童数の少いことを以て不便を感じてゐるのである。著者の學校において、學科擔任制度が採用され、大體文科と理科と技能科に分れ、高學年になれば、一學級十名近い教師が關係するのである。此の學科擔任の先生が、それ／＼自分の關係する範圍で、作業を實踐すれば、児童にとつては過重に陥る場合もないと保し難い。且つ児童数の少ない場合には、斯かる懸念も生ずるのは止むを得ない。併し實際においては、學科擔任の間には作業上の連絡があるから、かうした心配もなくてすむのである。

然るに地方一級小學校においては、多勢の児童を收容してゐるのであるから、具體的な勞務作業においても、一學級の児童を幾組かに分けて、作業分擔の公平を期することが出来ると思ふ。

假りに六十名の一學級において、地理の作業に三十名の児童が當り、残りの三十名が國史の作業に當るといふやうにしたら、公平に分擔されると思ふ。而して次の作業においては、先の地理組は今度は國史組となり、先の國史組は今度は地理組



となるやうにすればよいのではあるまいか。之は作業分擔の一例に過ぎないが、斯くの如く作業分擔の組更へによつて、多数の児童を適當に作業者たらしめることが出来る。

作業の組み更へをせずとも、全児童を地理なら、地理の作業をなさせてもよい。此の場合に、児童数の關係で、児童数の約二十名程餘つてしまつたといふ場合には、次の作業の際に、此の二十名をうまく作業させて行けばよいのである。作業は一回ですむものでないのだから、端数の児童は他の機會に譲つてよいのである。

また児童数の多いといふことは、種々の個性の持主が集つてゐるといふことを意味するもので、作業教育の觀點においては面白い社會生活と思ふ。作業教育においては、學級生活を一の社會生活と見て、児童の社會的訓練をなすものであるから、此の意味において、数多の児童を收容することは、それだけ生きた社會になることが出来ると思ふ。

### 二、自己の作業を以て奉仕すること

右に述べたやうに、作業分擔の組かへをすれば、地理の作業者の約半数の児童は國史作業に興らないといふことになり、作業の公平を期することは出来ないではないか。それでは地理の作業者は、自己の分擔した地理作業の理會は出来ても、自己の分擔せざる他の作業には理會出来ないではないかといはれるも、之に對しては既に述べたやうに、論者は餘り主知主義の立場において考察するものであるといふことを答へたいと思ふ。

作業地理教育においては、自分はグループの爲に、學級の爲に、學校の爲に奉仕するものであるといふことを忘れてはならぬ。であるから、自分等の作業を以て、學級の學友を利益するものであるとの信念の下に、作業の發表をなさせるのである。また學級の児童は、作業者の作業によつて利益されるものであると、感謝の態度を以て迎へねばならないのである。



#### 第四節 経費の問題

##### 一、模造紙と糊の具

私の作業地理教育実践において、模造紙を使つて地圖化作業をなし、圖表化作業をなしてゐる所から、地方の學校では、経費から考へて、糊の具を使ふことは出来ません。模造紙も使用することが出来ません。困つたものです。」と言はれる先生もある。

先年、北海道の某大都市の先生が見えて、私は作業地理には大賛成です。しかし私の學校は特殊學校で、貧乏人ばかりなので、模造紙を使用することなんか、とても出来ません。」と言はれた。私は「この學校で使つてゐる模造紙は一枚貳圓又は參圓です。それを二人又は三人のグループの共同作業としてやつてゐるのだから、一人當り一圓にしか當らないし、一月に一枚か二枚しか使はないのだから、それが出来ないといふことはないでせう。」と答へたことがある。

すると、其の先生は「その一圓といふのがどうにもならないのですから困ります。」と言はれた。私は「それならば兒童の學習用具はどうして準備するのですか、其の費用さへあれば、一月に二三人の兒童が使用する一枚の模造紙の用意が出来ないといふことはありませんまい。」と語つたことがある。

また先年、朝鮮の咸鏡道地方へ行つた時、其の學校は非常に作業教育に熱心な學校であつた。校長先生のお話によると、此の地方で困つたことは、糊の具を買ひたいと思つても、一色だけを買つて呉れる所がないのです。緑色の一色がなくなつた場合、六色なり、十二色なりを、いつしよに買はないと、賣つて呉れないのだから困るんです。」と語られたことがある。

私はそれを聞いて非常に意外の感に打たれ、不都合な店もあつたものだと思つた。そこで私は糊具屋ではないが、東京へ歸つたら、何とか糊具屋へ交渉して一色づゝ手に入れることが出来るやうにしませう。」といつたことがある。あとで報告があつたのだが、一色づゝ賣つて呉れることになつたといふことである。

作業地理と経費といふことであるが、糊の具を以て地圖化作業をしてゐるので、



割合に輪の具を要する。併し之は輪の具でなければならぬといふことはないのである。クレヨンで作業してもよい。クレヨン使用に就いては前述したやうに、後仕末も簡單であるから、時間が経済的でよい。唯出来ばえが輪の具を使ふよりもよく行かない爲に、児童に好まれないやうである。併しクレヨンでも用が足りるのであるから、輪の具に不都合あれば、クレヨンを盛んに利用したい。

## 二、小黒板

模造紙や輪の具、又はクレヨンを使用する代りに小黒板を使へば、最も経済的でないかといふことを言はれる先生もあるが、児童の作業品を隠すといふ所に、一入作業者の生産喜悅の情もあり、作業の向上を見ることも出来るのであるから、小黒板作業が如何に経済的であつても、之を使用することには賛成し難い。

また私の経験からいつても、何年間かの児童の作業を保存し、過去を反省し現在を考へることによつて、作業の反省が出来るのである。作業の進展を企圖することが出来るのである。また一度作業したものを、幾度か利用する機会があるので

ある。然るに小黒板では、すぐに消し去らねばならぬのでそれが出来ない。此の意味において、折角児童が製作した作業を、保存出来ない小黒板には賛成しないのである。

## 第五節 教科書と参考書

私の作業地理教育において、小地理區を作業單元とする場合があるが、現行地理書が小地理區でないのだから、實踐にむづかしいと言はれるが、前章「地理的單元と作業地理教育」において述べたやうに、現行地理書が小地理區によつてゐなくても、教科書をよりよく活用して、小地理區を決定し、小地理區の作業を實踐することは、論者の言はれるやうにむづかしいことでないから、これまた問題とするには足らないと思ふ。

次に児童の環境として、地方の児童は参考書を持つてゐないから、作業地理は出来ません。などといはれるのであるが、これは、前章「作業地理教育と地理教科書」



において述べたやうに、餘りよくない参考書を児童が所持してゐると、作業地理實踐にかへつて支障となつて困るのである。それよりは児童の目的性を陶冶して、地理教科書をよりよく利用する態度に出でしむるやうになすべきである。従つて私は、参考書がなければ、作業が出来ないといふ意見には賛成出来ないものである。

併し教師としては、十分児童を指導することが出来るやう、修養を怠つてはならぬものであることはいふまでもない。

## 第十一章 作業地理教育の實踐姿様(上)

### 第一節 地理作業への導入 關東地方の全體性指導の實踐

#### 一 指導の精神

第五學年に於ける最初の指導であるから、作業地理の精神が领会されてゐない。児童としては目的決定の目的活動も容易になし得ない状態にある。されば茲では作業地理教育への導入として、如何なる指導をなすべきかが研究問題である。

次に述べる作業地理指導實踐案は、この點を念頭に置いて吟味したものである。即ち地理教科書との連絡を考へ、児童の現實性に立脚して、目的決定への誘導が眼目である。

其の述ぶる所の軌綱は大體に於て、私の作業地理教育の精神に因つてゐるが、児童に要求する程度、作業地理への導入の過程に就いては十分吟味したものである。

#### 二 指導過程



一、教師の答

「今日から此の所に皆さんと決定した後に、關東地方を調べませう。」といつて、教材を指示する。

二、児童の質問

「我が國を地方別に分けると、どんな地方になるか、地理書附圖第四圖を讀んで答へてもらなさい。」と誘導し、地方別單元を發表させてみる。併し、茲ではそれ等の地方別單元を暗記させようとするのではない。地理書の目錄をみると、關東地方……區域、地勢、産業、交通、都邑、伊豆七島、小笠原諸島となつてゐます。他の地方にも、區域、地勢、産業、交通、都邑とあります。それでは、區域ではどんなことを調べるでせうか。地勢では、産業では、交通では、都邑では、と尋ねると、児童の中には何とか答へる者がある。

併し其の答は要求しない。児童は唯言葉だけの説明であつて、内容的でないからである。此等のことは、今後児童の地理作業が進展するに伴つて、内容的に理解させるやうにすればよい。之が最も適當な考へだと信じてゐる。

「さあ、關東地方といふのはどれだけの範圍ですか、それを調べるにはどの地圖がよいでせうか——地理書附圖第五圖關東地方の地圖で、其の範圍を鉛筆の先で輕くなぞつてもらなさい。」といひ、關東地方の範圍を讀取らせる。「それでは、この關東地方に、何といふ府や縣があるか、それを地圖で讀取つてもらなさい。」と、一府六縣の名稱をあげさせる。

この時に、東京府縣や其の他縣廳の所在地などを尋ねてみる必要はない。又府縣の名稱等も一々暗記せしめねばならぬといふことはないのである。

「次には、この關東地方が、我が國のどんな所にあるかを地圖で見ようではありませんか。」と働きかけて、地理書附圖第四圖を讀させる。

「關東地方は日本のどんな所にあるか。」と尋ねたのでは、児童がまごつくから、「本州のどんな所にあるか。」といふ様に、わかり易く誘導してやるのである。太平洋に面して、略ぼ中央に位置する事を讀取らせる。唯に本州の略ぼ中央のみならず、我が國全體から見て略ぼ中央にあるといつてもよい事を指導する。

「さあ、今讀んで調べましたね、關東地方はどれだけの範圍か、この關東地方にはどれだけの府縣が置いてあるか。關東地方は我が國のどんな所に位置を占めてあるかを調べるには、地理書にある「區域」で調べるのです。」といつて、地理書の「區域」の所を全児童に讀取らせてみる。

三、全児童の質問

① 關東地方の範圍 「地理書附圖第五圖を讀んで、皆さんが、今處に旅行したことのある所は何所ですか、いつてもらなさい。」と尋ねて、或は日光、箱根、伊香保等の名勝遊覽の地へ旅行したことのある経験を發表させてみる。

當校の児童であるならば、児童の保護者の出身が全国的に分布してゐるから、従つて経験事項も豊富で都合がよい。また相當範圍に亘つて家庭的に旅行したり、學校では校外教授や遠足もしてゐる。だから、かうした経験事項を地圖上で發表させてやる。

師も二人づつ、其の作業として、關東地方の白地圖を描き、その上に自分の旅行した所、並びに過去の経験事項として知つてゐる所(旅人の旅行したり、(親などのある所もよい))を記入して見る。



の關係が如何なるかを、既得知識の整理といひ、生活關係の考察といひ、廣い意味に於ける經驗事項であるが、前述したのは直接經驗事項として、便宜分けて考へてみる。

「皆さんは、今迄に關東地方の地理で、何か聞いて知つてゐることがあれば、どんなことか發表してくれませんか。」と尋ねる。

兒童の中には霞浦は我が國の大湖であるとか、藤水峠のアプト式鐵道とか、關東平野に舞える筑波山とか、日立・足尾銅山とかに就いて發表する者がある。

「それでは皆さんの家で、毎日使つてゐるもので、關東地方に産するものはないであらうか。」と尋ねて、野田や鏡子産の醤油をあげさせるもよい。鹿嶋野田・鏡子産の醤油のレッタルを準備して行くとよい。また房州や湘南地方のやうに京濱地方人の嗜好・離家の地となつてゐる所ではそれを考へるもよい。

また多く産菜園を供給する地方では、自家で産する産菜が大都市に供給されてゐることを考へるもよい。日光・原・伊香保・箱根等の産菜供給地では、その時々には繁榮するものも、多く京濱地方との關係が密接であることを考へるがよい。

其他の地方では、今日の國家社會狀態に於て政治的にも、教育上からも、産業上からも、交通上からも東京との關係の如何に密接であるかを尋ねて考察するがよい。

茲に出した川筋はむづかしいが、例へば「皆さんの家から、東京の學校で勉強してゐる者がありますか。この土地から何人位あるか。」といふ具體的な問題として考へさせ、東京には色々の學校が多くある爲であることに着眼させる。

せる。

新しくして自分の生活を離れて、地理の勉強を成し得ないことを兒童に注意し、機會せしめる態度を執るのである。

四、地理書挿圖の活用

地理書に何が出てゐるか、それは何で知られてゐるかを注意せしめることは、初歩の兒童の地理としては最も直観的で、效果的だと思ふ。勿論其の挿圖に就いて詳しい説明をなすのではない。其の所在の位置だけは地圖上にはつきりさせねばならぬ。

(1)箱根山(霞浦) 温泉で知られてゐることは、兒童が發表するであらう。湖が霞浦で、前方の山が神山であることは地理書附圖第六圖「箱根」で讀取らせる。挿圖の富士山にも注意させる。

(2)日光の東照宮 日光の東照宮が自然美を背景として人工美を盡した所であることは兒童が發表するであらう。之も地理書附圖第六圖「日光」の部分地圖で、東照宮の位置をはつきりさせるがよい。

(3)相模川上流の發電所 地圖で桂川的位置を讀み、相模川の上流、即ち桂川の水が發電に利用されてゐること及び地理書附圖第五圖「京濱地方に至る水力電氣」の地圖によつて、東京に送電されてゐることを注意する。

(4)霞浦 霞浦と筑波山の位置を地圖で讀ませ、霞浦の水運を想はせる程度でよい。

(5)鏡子産 利根川と鏡子産の位置とを讀取らせ、鏡子産は利根川の川口を利用してゐる事をわからせればよい。

(6)日立銅山 鐵道の大きな大製鐵所を有する鐵山であることを想はせればよい。湖の外、金・銀を製鍊してゐることを地理書本文と對照し、また新水縣に足尾銅山のあることを圖上に讀取らせる。



(7) 常磐線に於ける石炭の積出(積出地) 其の所在を關東地方地圖の外に、附圖第八圖「奥羽地方部分圖」によつて採取せらる。神室は平野近であることはいへば、それで足りる。

(8) 東京驛 東洋第一の大停車場であることを想はせ、東海道本線・山陽本線の沿線の地方では燕・櫻・富士、其の他主要列車は東京驛を始發とすることに思ひ及ばせるやうにする。

(9) 日本橋の橋道 男児はよくこの方面の知識を持つてゐるものである。信越本線の日本橋の位置を附圖第五圖で讀ませて、傾斜が急なので、橋道に橋止めが設けてあることはいへば足りる。

(10) 横濱港の船舶岸(支那の) 附圖第六圖の「横濱市」によつて、船舶岸の位置、其の他港の設備―税關棧橋・防波堤・臨港線・使客等を讀取らせ、生徒が我が國重要な輸出品であることを注意する程度でよい。

(11) 東京の市街(日本橋) 大橋、商店の櫛比してゐる状態に注意させ、附圖第六圖「東京市」の擴大地圖で日本橋の位置を讀ませる。三越は餘りに世間知られてゐるから、神室によつて其の建築物を示し、三越の東方が三井銀行、其の左方が日本銀行、三越の左側が横濱正金銀行東京支局の建物であることを指示してもよからう。また、この商賣の中心をなすことも一言附加してよからう。

(12) 横濱港 前掲「横濱港の船舶岸」の神室と同時に讀させるが適當である。附圖「横濱市」の擴大地圖によつて、神室の輪郭は税關棧橋であることを指示し、大船の碇泊してゐる状に注意させればよい。

(13) 野田の醤油工場と江戸川・鏡子の醤油工場の内部 江戸川と野田を附圖第六圖「關東地方部分圖」で讀ませてよい。野田産の醤油が●、鏡子の●及び△野田であることを、兒童の生活事實に關係付けければよい。先に兒童の既

得知識及び生活關係の考察をなしたのであるから、其の時に此の神室を取扱へばよい。

(14) 父島の二見船 伊豆七島・小笠原諸島の地理は、別に指導するから、この神室はあとで取扱ふこととする。

五、關東地方の地圖指導

地圖發表といつても、此の頃の兒童には、全く羅列的な断片的な地圖しか出來ないから、教師は指導的指導が必要である。

「次には、皆さんとこんなことを調べようではありませんか。それは附圖の關東地方の地圖を讀んで、どんなことがわかるかといふことです。」と指示して、地圖を讀ませるのであるが、之が何といつても此の頃の兒童にはむづかしいと経験してゐる。そこで兒童が、右の指導的質問で動くならば、それでよいが、事實はそうではないから、更に指導的質問を試みるのである。

「山はどちらの方にも多くあるのですか、どんな山がありますか、どんな川が流れてゐますか、平野は何所に開けてゐますか。」といつて、地理書所載の「關東地方の地勢と断面との地圖」をも讀ませるやうにするのである。

其の答は一々發表させなくてもよい。兒童は關東志にて夫働作業が幾分でも出來るやうに、「北から西北・西南にかけて山がある。越後山脈・三國山脈・奥羽山脈・阿武隈山脈・關東山脈がある。此所を隔つてゐるのは富士山脈である。こゝを隔つてゐるのは箱根山脈である。利根川・荒川・多摩川・相模川が流れてゐる。この平野が關東平野である。」といふやうに兒童同志で讀むことが出來ればよい。兒童は文字の讀めないのが可なりあるから、兒童の實踐に應じて教へてやればよい。



「どんな大山。温泉がありますか。」と誘導して、其の記號を讀ませる。記號に修飾させる事も、初歩の地理作業の兒童には重要である。どんな都府があるか、其の主なものもあげなさい。」といつてそれを發表させる。

「それでは、附圖第五圖『關東地方の田と畑』の圖を讀ませなさい。」と尋ねて田と畑の分布に注意させる。注意させるといつても、さう深く注意させるわけにはゆかぬ。田は大抵川・湖の沿岸にあることが分ればよい。それでも利根川中流の流域や荒川中流以上の流域には田が少い。「其の他」といふのは、主として山地・林野であることを注意しておく。

「附圖第五圖の『京濱地方に至る水力電力』ではどんなことがわかりますか。」と誘導して、京濱地方へは各地から送來してゐることを讀ませればよい。

兒童から「なぜ京濱地方へこんなに電氣を送つてゐるのですか。」とか、「なぜ隅田川や木曾川の所には數多の発電所が出來てゐるのですか。」といふ質問があつたとしても、茲で説明する必要はない。「よい所に氣が付いたものである。」ことを賞揚しておけばそれでよい。

「それでは附圖第五圖の右下の地圖は何を讀はしたものでせうね。」といつて、行政区劃と府縣圖のある所、鐵道とを示したものであることを發表させる。

「行政区劃」といふ語は、兒童にむづかしいが、地理書六頁に「行政区劃」とあるからそれを復習して知らせておく都合がよい。

「鐵道にこんなに太いのや、細いのがあつたのでは變ではないか。」と兒童に注意してもよい。さうすると氣の利い

た兒童は重要な點と、さうでないの点を區別したのだと答へるに相違ない。この時、なぜ關東地方にはこんなに鐵道が發達したのだらう。」といふ疑問を投じておいてよい。勿論それをこゝで解決しようとはしないのである。

「次に附圖第六圖をあげなさい。こゝにはどんな地圖がありますか。」——關東要部・東京市・横濱市・箱根・日光が出てゐる。

「『關東要部』は第五圖の關東地方圖でいふと、どの邊までがは入つてゐるのですか。」と注意して讀比させせる。

「第五圖の地圖にないことが、第六圖の『關東要部』の方に出てゐるでせう。こんなに地圖は描き方によつて違ふものです。第五圖の關東地方圖は幾分分ですか、第六圖の關東要部地圖は何分分ですか。」と指示して、其の縮尺關係に注意させ、地圖を讀む時には、此の縮尺に注意すべきことを繰り返かへして教へておく。

「さあ、茲で皆さんに注意したいことがありますが、今までは關東地方だけでも、いろいろの地圖を讀ましたね。地圖の他にはこんなにいろいろの地圖を讀むことが大切なのです。かうして地圖をうまく使ふものは地理の勉強の上手な人といふことが出来るのです。」と地圖の活用を指導しておくのである。

#### 六、目的決定への指導

目的決定への誘導としても、此の頃の兒童にはそれが至極である。されば目的決定を系統的に整理することは出来ない。そこで「今までに皆さんといつしよに考へて來たことで、之は面白い。之は一番調べたい、之は先生に聞いてみたいと思つた所があつたら、それをいつて下さい。」と。

この程度で兒童の目的誘導を誘導して行くのである。この活動にはグループシステムといふ程でなく、協同室の



兒童で相互に考へあふ程度でよい(以上の標準に二時間を目安としてよい)

## 第二節 個人奥羽地方交通・郡邑の地理作業實踐

### 一 郡邑の交通

一、郡邑の交通 地理書の組織は奥羽地方の交通・郡邑となつてゐる。之は奥羽地方のみならず、他地方もさうであるが、地理書の要素に基づいて指導單元を採るとせば、交通・郡邑を併せて一の單元として指導することが、適當だと思つてゐる。

奥羽地方の交通は著しく地勢の支配を受けることが多い。地勢上三條の並行山脈が、南北に横亘してゐるので、東西兩端間の交通は南北の交通に比して不便であるは免れない。南北の交通は河川流域の假令平野・盆地及び海岸平野を離つて比較的早くから發達してゐる。

また氣候の自然性が、本地方の交通に及ぼす影響も大である。殊に日本海方面は冬季雪が深く、鐵道に雪除けトンネルを設け、またラッセル機關車を使用する等の不便・支障が多い。

海上交通では、太平洋方面は出入口に富んでゐるが、良港は地勢と後背地等の關係で發達せず、且つ夏季の濃霧は航海を妨げることが多い。

日本海方面は砂濱續きの海岸で、頗る平直、良港に乏しいのみならず、冬季北西風が卓越して海上波荒く、交

通が不便である。

要するに、本地方の交通は面積が廣大であるだけに、交通路の延長は比較的多いが、地勢・氣候の自然性の影響を受けることが多く、交通路の密度がまだ十分でない。交通量に於ても、北海道への通過量があるだけで、これ亦閑散である。

然るに地理書の説明を見るに、地勢が陸上交通に及ぼす關係に就いては、其の記事が少いやうである。「この線(通稱)が奥羽山脈を横ざる處にはトンネルが多く、また傾斜が急である」と述べてゐる。併し氣候との關係に於ては「奥羽地方は冬季、雪が深いので、鐵道には處々に雪除けトンネルを設けてゐるが、それでも尙ほ積雪のために汽車の交通が難々妨げられる。」

殊に日本海方面は太平洋方面よりも雪が深く、汽車の故障も少くない。」と説明してゐるから、これは十分と認め得る。されば地勢が交通に及ぼす影響を考察して指導することが大切である。

海上交通に於ては、良港の出現は一層地勢との關係が緊密であるから、地勢の所で、所々に述べ、交通の場、氣候が此の地方の海上交通に與す影響を述べてゐるのは適當であらう。

次に郡邑の分布に就いて考察するに、元來奥羽地方は面積が廣く、人口密度が低くて、本州島の他地方に比較するに最も少い。之は文化地帯より遠ざかり、一般に山地多く、産業は不發、且つ氣候が寒冷で、交通不便等の積々の原因に依るものである。

本地方に於ける郡邑の分布を觀察するに、



- (一) 東部低地 (河成低地・砂漠平原・砂漠平原)
- (二) 太平洋沿岸地方
- (三) 西部高地・平野 (砂漠平原・山岳・砂漠平原)

例) 日本海沿岸地方といふやうに輪状環を成してゐる。鐵道の幹線——東北本線・奥羽本線・羽越本線・常磐線等の南北縦貫線及び動行線の東西横断線は、地形に支配されたがら主要都市を連ねてゐる。

故に奥羽地方の交通及び都市は、之を併せて一單元として指導することが最も適當な方策だと思つてゐる。

主要都市として、地理書に出てゐるものは、東北本線——郡山・福島・仙臺・盛岡・青森、奥羽本線——米澤・山形・秋田・弘前、其の他に新橋だけであるが、實際指導に於ては適當に必要な都市を附加することは何等差支ないのみならず、それは當然なことである。

二、指導 奥羽地方の交通・都市に就いて、陸上交通に於て主要鐵道の分布と、其の交通的使命、並びに陸上交通が地勢・氣候の自然性に支配されてゐること、海上交通に於て、その發達せざる地人兩方面の地理的理由を推究し、主な都市の分布と、それ等都市の形勢を指導し、其の特色を吟味することが指導の主眼である。

三、指導計画 二時間を配當し、仕事の決定は次の如くである。

第一時 (一) 陸上交通 (二) 目的決定の誘導 (三) 交通及び都市分布地圖の作業

第二時 (一) 主要鐵道の交通使命の吟味 (二) 地勢・氣候との關係考察 (三) 海上交通の發達せざる理由の考察

例) 主要都市の形勢吟味 陸上交通・都市分布地圖の製作作業

## 二 指導計画

### 【第一時】

一、教材指示 「此の時間には、この前約束したやうに奥羽地方の交通・都市に就いて調べることにしませう。」と教材を指示する。これから交通・都市に関する兒童の目的決定の誘導である。それが爲には次の指導をなす。

### 二、目的決定の誘導

(1) 陸上交通 地理書附圖第七圖を聞いて、「奥羽地方にはどんな鐵道が通つてゐるか。」を尋ねて發表させる。——東北本線・奥羽本線・羽越本線・常磐線。常磐線、羽越線等をあげればよいのであるが、兒童はそれ等の名稱の半ばは知らないから、附圖の交通圖によつて、どんな都市の所を鐵道が通つてゐるかを注意してみただけでよい。

次に、「どんな都市があるか、其の主なものをおいてごらんさい。」といつて、其の主なものをお知らせせたら、次に、「奥羽地方の交通圖をみて、鐵道の發達に就いて何か注意すべきことがわかつたら、それを發表して貰ひませう。」と誘導して、南北に通ずる鐵道が、東西に通ずる鐵道よりも發達し、また重要幹線になつてゐることに着眼させるのである。此の場合に、なぜ南北に通ずる鐵道が重要幹線になつてゐるかの問題は解決しなくてよい。そこに着眼させればそれでよいのである。

次に、「海上交通では、どんな港があるか、何所へ航路が通じてゐますか。」を尋ねる。要するに青森港を除いて重要な港はないことをわからせる。



それで、たゞ奥羽地方には良港が豊富でないかといふ疑問を起させ、地勢と気候、産業との關係を考へるやうに仕向ければそれでよい。此の場合に解決するのではない(此の間凡)。

② 地理教科書と地圖との關係、海上交通に及ぼす気候の關係、主な都市がわかる。教師は帆船定規によつて、兒童の圖解を指導すればよい(此の間凡)。

③ 船舶交通の關係 以上に述べた諸事によつて、これから奥羽地方の交通と都邑を調べる時、どんなことがらを目當として調べて行つたらよいか、それを調べようではありませんか。と兒童に働きかけて、兒童の共同研究に誘へる。共同作業といつても、此の頃の兒童は十分に出来ないから、教師が相談相手となつて、大要次の日當を決定する。

一、陸上交通

① 主な鐵道にはどんなのがあるか——南北鐵貫線(東北本線、奥羽本線)、東西鐵貫線(青森線、陸羽線)。

二、海上交通

① 良港の少いのはどんなわけか——太平洋岸・陸奥海岸・日本海岸の比較(地勢、気候、此)。

三、都 邑

① 都邑は何所に多いか——川の流域平野、盆地、海岸平野等

② 主な都邑の圖解——郡山・福島・仙台・八戸・青森(東北本)、水澤・山形・秋田・弘前(奥羽)、酒田・鶴岡(羽越)、若林(青森)(此の間凡)。

五、自治體の關係 奥羽地方の白地圖を豫め用意させ(教師が豫め用意したもの)、以上にあげた主な鐵道を入れ、主な都邑を記入させる(此の間凡)。

【第 11 章】

一、奥羽地方の考察

「この前の時間に皆さんと一緒に決めた日當は、どんなことであつたかを今一度發表して發表させよう。」といつて、兒童の注意を喚起する。

二、船舶交通と海運

① 船舶交通 兒童が白地圖に作業せる所に基づいて南北鐵貫線の圖解と、東西鐵貫線を發表させ、豫定の要點は次の如くである。

【南北鐵貫線】 東北本線 上野・青森まで約七二六軒、全行時間で約十三時間、奥羽地方を走ること約五六〇軒、岩沼で常磐線と併せる。東京で東海道本線、神戸で山陽本線と連絡し、我が國鐵道大幹線の北部をなす。全線が河筋を通るを以て勾配が少い。

奥羽本線 福島を起點として、水澤・山形・秋田を経て青森へ達する約四八七軒餘、全行で約十六時間半、西奥羽



の動脈をなしてゐるが、奥羽山脈を横断する所に、数多のトンネルがあり、トンネルも勾配が大である。

「ここで皆さんに考へて貰ふことがあります。奥羽本線が奥羽山脈を越える所に数多のトンネル(大小十六の)があるが、鐵道の勾配も大です。それですら地理者の神童をこらんなさい。奥羽山脈を横ざる奥羽本線の一部分で、珍らしいと見えるものがあるでせう。それはどんなことですか。」と注意して轉向鐵道(バック)に就いて敷衍する。

「福島の次郎、鹿沼(海抜一〇〇)から板谷峠を越えた大澤驛(海抜四〇)に至る二四・四軒の区間は勾配が大であるから、普通の軌道にすることは出来ず、赤岩・板谷峠・大澤の四驛には特別な引込線が設けられ、一度驛を發した列車は、往かの間再び元来た軌道に乗つて進行するといふ特別の仕組になつてゐる。之を轉向鐵道(バック)といふ。この轉向鐵道は他地方にもあるが、最も連続してゐるのは此の区間である。此の区間の平均勾配は百分の四となるけれども、海抜七〇〇米の箇所を板谷トンネルに出入する爲に、このやうに特別な仕組で通過するのである。

神蓋は板谷峠の東、赤岩驛である。福島・米澤間四三軒の距離は勾配が大であるから、實に急行で二時間餘を要するのである。若しこれが東海道本線の速力に併せ考へるならば、急行で三十四軒は五十分以内である。」

常磐線 上野(山手)から東北本線岩沼へ至る三四五軒の海岸線、急行時間で約七時間。

羽越本線 新津・秋田間二七二軒、秋田で奥羽本線より岐れて、日本海岸を下下し、酒田・鶴岡を経て新潟に入る。本線は青森・神戶間の直通列車を通じ、東北本線の關東向であるのに比べて、之は關西向きの最短コースである。本線側り青森・大飯間の直通列車の運行を見てゐる。併し本線の利用は薄く、東北物資の移動は東北本線の三に對して本線は一の割合である。

【奥羽の交通事情】

常磐線の平から郡山・會津若松を経て、日本海方面の新津に至る二六二軒、東奥と西奥並びに新潟とを繋ぎさせる横断鐵道である。若松市は本鐵道によつて、日本海の鮮魚も女工も新潟から仰いでゐる。

陸羽線 東北本線の小牛田から鳴子温泉を経て、奥羽山脈を越え、新庄を経て、羽越線の余目まで約一三七軒の横断鐵道で、之によつて奥羽の最も括れた酒田・石巻間が繋ぎしてゐる。

横越線 東北本線黒澤尻から白木峠を越えて、奥羽本線横手へ至る約六〇軒の横断鐵道である。

「さあここで、また考へたいことがあります。今までに調べた南北の縦貫線と東西横断線を見ると、東北本線、奥羽本線、常磐線は先に開通し、東西横断線の開通がおくれたのは、一體どんなわけでせう。」と働きかけて、奥羽山脈をはじめ三列の山脈が陸上交通に及ぼす影響を考へさせるのである。

更に「この陸上交通に影響を與へるものは、地勢ばかりではありません。それは何でせう。」と注意して、地理書神蓋「雪除けトンネル」を参照して、本地方の氣候が交通に與へる影響の大なることを知らせる。——氣候が寒冷で、殊に日本海方面は冬季雪が深く、鐵道には雪除けトンネルを設け、またラッセル機關車を特設しなければならぬ。本地方で雪除けトンネルのある所は次の十數箇所である。

- 地理書神蓋は奥羽本線の大澤驛と鶴岡の間にあるものである。下段は横谷で、矢張りこの附近にあるものである。
- 奥羽線 神崎——湯前間三箇所 蔵家——院内間三箇所 刈和田——和田間三箇所
- 陸羽線 鳴子——新庄間五箇所 常磐線 中山宿——馬下間七箇所



②(下)上流部 「奥羽地方にはどんな港があるか。太平洋岸・津軽海峡岸・日本海岸に分けていつてもらいたい。」と港を調査させる。――「豊後・石巻・釜石・青森・館川港・土崎港等。

「其中、奥羽地方で重要な港は何所ですか。――青森港・釜石港。

「それならば、太平洋岸にはこんな出入があるのに、なぜ良港が建設しないですか。」と働きかけて、其の地理的理由(自然物)を推究する。――太平洋岸の海港は釜石にしても、宮古にしても良港であるが、豊後地が不生産地且つ陸上運輸に恵まれない。止むなく良港として満足せねばならぬ。然るにそれすらお互が競争して設備が十分に行届かぬ現状である。此の間に豊後が新興の良港として他を駆し、北側に重要な港となつてゐる。

「それならば、なぜ日本海岸にも良港が建設しないのですか。」と考へさせ、地勢・氣候との關係を考察する。――日本海岸の港は概ね河港で、砂の流出に悩まされ、且つ冬季北西風に堪へない交通の障害がある。土崎港は館川港と豊後港とし、河川港は豊後とそれにせねばならぬ状態にある。

「それならば、陸奥湾にある青森港が重要な港になつてゐるのはなぜですか。」と其の重要な所以を考察する。――青森港は北海道に対して重要な連絡地帯で、海防との關係は豊後港連絡が、一日三回通ひ、陸奥との連絡が密つてゐるから、陸奥の延長と見ることは當然であり、本州最北の良港である。

地理科指導(青森港と連絡船)活用――船(津風丸(三四六)であるが、この外津風丸(三四八)、秋風丸(三四八)、東風丸(三四六)が使用され、連絡船は全く構内に積着けになり、貨車は陸上軌道から船の甲板へ引移すことの出来る仕掛けになつてゐる。

③(主)な特色 「次には主なる特色に就いて、どんな特色を有つてゐるところかと、今迄に調べた知識でまとめて行かませう。それにはどんな順序で調べたらよいですか。」と考へさせ、(一)東北本線に沿ふ主要都市 (二)奥羽本線に沿ふもの (三)利根本線 其の他として調べることにする。(各社の具體材料はこれを参照)

### 第三節 作業地理教育の実際(下) 奥羽地方連絡指導の実際

#### 一 指導の実際

##### ①指導の実際

作業地理教育は、(一)兒童の目的性、(二)生活の現實性(生活)、(三)社會性、(四)労働(労働)、(五)生産(生産)の情を把握するの五要素を重要とするが、作業の進路上之を形式的段階に分つと次の四段階となる。

一、目的決定 二、作業の計画 三、作業の進行 四、反省

されば茲には大體此の四段階の發展性過程を考へて、指導の實際案を述べることにする。この四段階は形式的の分類で、轉轉的には断く偶然と區別し難いのはいふまでもない。

②グループの指導 作業地理教育に於て社會性の原理に依據することは、個人作業よりも共同作業の價値を認めてのことである。

されば本指導に於ても出来るだけグループの共同作業を奨励し、目的決定にも、作業の計画にも、作業の進行に



も、反省にもグループ活動に關することとする。

④ 活動の目的 文化財が陶冶材となるのは、勞得に依るものであるが、勞得といふのは筋肉活動のことである。生産喜悅の情を養得することも、勞得による造形的活動に依るものである。造形活動といふことは或る具體的なものを作り出す生産活動なのである。

作業地理教育にも筋肉活動が大要素であるから、出来るだけ地圖を描いたり、圖表を作製したり、實物を蒐集したり、調査資料を集めたり、其の他の實際研究を奨励したりすることは勿論であるが、筋肉活動がなければ作業地理教育にあらずといふことはいはれない。

この復習總結に於て、奥羽地方の地勢圖なり、氣候圖なり、産業分布圖なり、交通・郡邑地圖等を具體的に作業することは、既に児童が作業してゐるのであるから、本時指導に於てはそれ等の具體的作業品を活用し、新に造形的作業品を作り出すといふことよりも、児童の目的性・計畫樹立・共同活動といふことに主眼を置きたいと思ふ。

⑤ 復習時間 二時間

【第一時】 児童の目的決定を指導し、作業の計畫をなし、作業の進行に移らせる。

【第二時】 各グループの作業を進行し、時間の都合では作業の要點を發表せしめ、各グループ毎に作業のあとを反省せしめ、今後の作業の發展に資せしむ。

二、指導の要點

① 指導の要點 児童と共に教材を豫定し、奥羽地方の何時より復習總結をなすべきかを決定し、復習總結に就いて、

児童の準備を指導する。

児童の準備を指導するとは、奥羽地方の復習總結に於ては、どんな所に注意してなすべきか、どんな方法によつて復習するがよいかといふことに就いて豫め考へさせるのである。

② 目的決定の指導 奥羽地方の復習總結に際して、何を作業すべきかといふ児童の目的性をグループ毎に指導し決定するのである(其の詳細は別に述べる)

③ 作業の指導 右に決定した作業題目の作業實行に移る前に、どんな方法で、どんな事項を如何に考へてなすべきかを計畫させるのである。

④ 作業の進行 目的性と計畫の實現するやう各グループ毎に作業させ、作業の要點を發表させる。

⑤ 作業の反省 グループの作業は目的性を現はしてゐるか、計畫の如くに進行してゐるか、グループの各メンバーは共同目的の爲に自己を専任してゐるか、否かに就いて反省せしめ、今後作業の發展に資せしむ。

二、指導の要點

一、目的決定の指導

① 何を作業すべきか 今までに指導された奥羽地方の材料と地理書附圖・地圖資料、及び今までに作業した具體的な作業品を基として目的決定の指導をなすのである。

大體地理書の組織のやうに奥羽地方の區域・地勢・氣候・産業・交通・郡邑に分つて復習するが、断片性・羅列性とな



らず、それ等相互の有機的關係をばに奥羽地方の特色(地勢)とに着眼させたいのである。

②教師は例を講ずべきか 子供の兒童をば数人づつのグループに分ち、グループ活動として奥羽地方の區域・地勢・氣候・産業・交通・都邑に就いて、どんな所に着眼して、復習すべきであるかを研究せしめる。

教師は之等グループ活動の結果を發表せしめ、それに基づいて、大要左記事項を指導するのである。

區域

一、本州のどんな所にあるか。

二、四周(他地方との境界)。

三、行政上の區劃。

四、面積を關東地方と比較する。

地勢

一、どんな山脈・大山脈・川・平野があるか。

二、奥羽の地勢の特色となる所は何か。

三、奥羽山脈は此の地方の地勢にどんな影響を興へてゐるか。

四、東奥羽と西奥羽の地勢はどう違ふか。

氣候

一、關東地方に比べて奥羽地方の氣候が低いのはなぜであるか。

二、氣候・雨量は東奥羽と西奥羽とでどう違ふか。

三、それはなぜであるか。

四、奥羽山脈は此の地方の氣候にどんな影響を興へてゐるか。

産業

一、農業ではどんなものを産してゐるか。

二、氣候は農業にどんな影響を興へてゐるか(例へば春寒を産し、播種を産してゐること、東奥羽に寒(を産してゐる)西奥羽には極めて少いといふが如きこと)。

三、畜産の盛んな地方と絹織物の工業地。

四、牧畜の盛んな地方と牧畜の盛んになつたわけ。

五、林業の盛んな地方と製材地。

六、工業では何を産してゐるか、主な礦山、中奥羽から西奥羽に礦山の多いわけ。

七、水産業で漁獲物の主なものは何か、此の地方水産漁獲物の特色(家産性・家産性のこと)。

交通・通信

一、主な鐵道幹線。

二、奥羽山脈は、此の地方の鐵道交通にどんな影響を及ぼしてゐるか。

三、冬季の積雪は、此の地方の交通にどんな影響を及ぼしてゐるか。

四、海上交通の發達したいわけ。



- 五、青森港が水陸交通の要地として京きをなすわけ。
- 六、主な都市にはどんなものがあるか。
- 七、其の主な都市の地勢(特色)

指導の要領は各グループ毎に着眼すべき事項を研究せしめ、或グループの研究を發表させ、他のグループの研究を以て補成し、教師が指導して以上に示した要點に着眼させるのである。

更に、別問題として教師が指導して、次の題目に着眼せしめ、本地方復習總結の使命を完うするやうにすることが重要である。

- 一、奥羽山脈が此の地方の地勢・気候・産業・交通に及ぼす影響。
- 二、東奥羽と西奥羽の比較(處境)——地勢・気候・産業・交通・都市等にわたつて。
- 三、奥羽地方の特色とする所——地勢・気候・産業・交通・都市等にわたつて、其の特色とする所を吟味するのであるが、「地勢」(気候)に分たず、之等相互の有機的關係を考察するやうに指導する。
- 四、關東地方と奥羽地方との比較(ここでは關東地方を指導の前提としたから、關東地方と比較するもの)。

### 二、作業の計畫

以上、兒童の研究を指導して着眼の要點を決定し、目的決定を終れば、次に作業の計畫に移る。

- ①作業の目的を決定する。同じ目的と希望とをもつた兒童を以てグループを組織するのである。一グループの人員は三、四名位を單元とする。同じ目的と希望とをもつた兒童が多数であれば、それだけ同一の研究目的を有つたグループが幾つも出来るわけである。

グループが幾つも出来るわけである。

作業題目分擔決定に當つては、取曉される題目がないやうに、全題目に亘るやうに注意するがよい。「區域」の如きは興味がないからとして作業することを希望しないならば、此の題目は最も簡単なことであるから、比較的出来のよくないグループに作業させることも一つの方法である。

②作業の計畫 作業の計畫は目的決定を具體的ならしめるもので、目的決定が確立せねば、作業の計畫が出来ないのはいふまでもない。作業の進行に際して無目的になつたり、行き當り主義になつたりするのは、計畫の樹立が綿密でないからである。決定した目的を秩序よく進行するには計畫が必要である。

例へば地勢の作業に當つては、大體以下記述の如くに計畫する。グループのメンバーは先に教師の指導に依つて決定せる着眼事項(一)どんな山脈・火山脈・川・平野があるか。(二)奥羽の地勢の特色とする所は何か。(三)奥羽山脈は此の地方の地勢にどんな影響を興へてゐるか。(四)東奥羽と西奥羽の地勢はどう違ふかの問題に就いて作業計畫の相談をなす。

先づ(一)の問題に就いては、各自の地理ノートに奥羽地方の白地圖を抜き、作業すべき山脈・火山脈・川・平野を記入する。それ等のどんな事項を記入すべきかは別に相談する。即ち山脈として三列、奥羽山脈・阿武隈山脈・北上山脈・越後山脈・出羽丘陵・火山脈、那須火山脈・島海火山脈、川・平野、阿武隈川と谷平野、北上川と谷平野、仙臺平野、陸奥東部平野・阿賀川と會津盆地・最上川と米澤盆地・山形盆地・庄内平野・雄物川と横手盆地・秋田平野(後城)・米代川と滝城平野・岩木川と津軽平野を作業するのであるが、この段階に於ては何を作業すべきかを計畫すればよい。



(二)の問題に就いては、各自のノートに作業した地勢圖の側に讀書に其の要點を述べることを、する。どんなことが地勢の特色になつて居るかを考へることは、作業の進行の段に於てなせばよい(特し其の如く作業の計畫)と進行を區別することは困難であるが、地勢の特色として大體次のことを作業すれば足りる。

- 一、三列の山脈が相並んで南北に走り、この地方の骨格を成してゐる。
- 二、川は中央の奥羽山脈(分水嶺)に源を發して、東西の太平洋・日本海に分流して注いでゐる。
- 三、南北に横走してゐる諸山脈の間に、川に滑うて細長い平野と盆地がある。
- 四、大體に於て東西の南海岸共に屈曲が少く、大抵は單調で良港に乏しい。
- 五、河川の問題では、是亦各自のノートの地勢圖の側に記入させるやうにする。
- 六、では奥羽山脈が本地方を完全に東奥羽と西奥羽とに分け、大分水嶺としてこの地方の主な河川を太平洋・日本海の兩方面に分つてゐることを考察する。

東 奥 羽

- 一、山地 阿武隈山脈と北上山脈、低い山脈
- 二、河・平野 阿武隈川と谷平野、北上川と谷平野、秋田平野、陸奥東部平野、北上川・阿武隈川の大川は山地の間に南北の方向をなす。
- 三、海岸 秋田半島、野手海岸のりやま式、下北半島 奥

西 奥 羽

- 一、山地 奥羽山脈、奥羽山脈、低い山脈、島海大山脈、島海山
- 二、河川と谷津盆地、最上川と盆地平野、雄物川と盆地平野、米代川と盆地平野、若木川と盆地平野。
- 三、東奥羽の大川の如く南北の走向をとらず、東西又は南北より東西の走向に變つてゐる。
- 四、秋田半島、奥羽半島 奥

かくの如く、ノートを上下二段に分つて、其の要點を抽出することも一計畫であるが、既に兒童は地勢圖を作業してゐるのであるから、其の地勢圖を基として東・西奥羽の地勢の相違を讀取り、各グループに於て發表しあつてもよい。寧ろ後者のやうにする方がよいと思ふ。前者のやうにすれば具體的にはなるが、餘り文字化する趣がある。

- (一) 奥東地方に比べて奥羽地方の気温が低いのは何故であるかの問題では、主として其の位置から考察することとし、(二) 気温・雨量は東奥羽・西奥羽とではどう違つてゐるか。(三) それは何故であるかの問題では、略地圖に海岸や北西季節風の方角などを圖示するやうに計畫し、奥羽山脈は此の地方の気候にどんな影響を與へてゐるかの問題では、夏季と冬季とに於ける雨雪の分布を異にしてゐることを考察し、グループに於て言葉で發表してもよいし、地圖の上にそれが分るやうに各自考察して作業してもよいこととする(後述、其の他の問題に就いて)。

五、作業の進行

具體性筋肉作業で、精神作業とは作業の計畫と進行とにおいて判然と區別すべからざるものであるが、茲では形式的便宜上區別して述べておく。

以上の如く計畫樹立がすめば、兒童は作業を實行する。例へば地勢圖の作業に於て、奥羽地方の白地圖に此の地方の地勢として如何なる事項を記入すればよいかをグループで決定すれば、其の決定事項に基づいて作業するのである。

各グループの作業が終つた時、其の作業の主眼とする所を發表させて見るがよい。併しこの場合は總括作業である。



り、新指導に於ける奥羽地方の作業とは異つてゐるから、必ずしも發表せしめなくてもよいが、若し時間の餘裕があれば、各自作業に就いて發表させるがよい。例へば氣候の作業に於ては大體次のことを發表させる。

「地理書附圖第二圖によれば、關東地方では年平均十四度、十二度の等温線が通つてゐるが、奥羽の中部を十度線が通つてゐる。

奥羽地方は關東地方の北、本州の北端にあるからである。而も其の等温線によれば、日本海方面が高く、次が太平洋方面で、中央部が最も低いことがわかる。それは日本海方面は対馬海流の影響を受けることが多く、太平洋方面は日本海流の影響によるが、其の影響は対馬海流より少い。

雨量の分布の相違は、地理書附圖では明瞭でないが、概して西奥羽に多く、殊に冬季は多い。これは北西季節風の影響を受けるからで、冬季はアジア大陸より北西季節風が吹き寄せ、対馬暖流上の温氣を奪つて雨雪を降らせるからである。

また本羽山脈は此の地方の氣候にどんな影響を及ぼしてゐるかといふに、東奥羽・中奥羽・西奥羽の氣温を異ならしめ、雨量の分布を異ならしめてゐる。其の理由は東西奥羽の障壁となつてゐるからである。

以上の如く發表せしめたならば、他のグループの研究と相對照し、異があればそれを訂正し、不十分の所があれば、それを補正するやうになし、疑問の點があれば、質疑に應じて教師が指導をなす。

四、作業の反省 他のグループの質問・批評・訂正及び教師の指導によつて、自己のグループ又は自己の作業に就いて反省し、目的決定、作業計畫と相對照して一層反省して今後の作業發展に資せしめる。

#### 第四節 目的 中部地方第一次指導の實踐

##### 一 指導の目的

地理作業に於ては、具體的な筋肉作業のみが作業ではない。兒童の目的性に立脚する作業でなければ眞の作業とはいはれない。たとひ筋肉作業がなくても兒童の目的性が確立してゐるならば、作業としての要素を有つものである。

兒童の目的性が確立してをれば作業の計畫も出来、作業の進行も行はれるのである。此の意味に於て目的性の陶冶は作業教育上重要である。

本案に述べる目的性の指導は、換言すれば作業教育の観照から、如何にして中部地方の第一時の指導をなすべきかといふことになるのである。即ち中部地方といふ地方別單元の指導に於ては、其の第一時に全體に對する目的決定の指導をなすが適當であると思ふ。勿論第一時のみならず、材料によつては何時間か後に於ても目的決定をなす場合があるのであるけれども、茲では中部地方全體に對する目的性の指導なのである。

##### 二 指導の過程

###### 1. 指導の目的と指導の過程



(1) 教材の整理 「此の前の時間に皆さんとお約束したやうに、之から中部地方に就いて調べませう。」とやるのであるが、此の前の地理の時間の終りに「この次の時間からは中部地方に就いて調べませう。皆さんの力で調べられる事は調べようではありませんか。若し皆さんの家に中部地方に關係した書物や、其の産物などで教壇に參考になるものがあつたら用意して置ませう。」といふやうに、教材の準備としておくのが適當である。

かくの如く地図と教科書に依る勉強ばかりでなく、児童の環境に於て児童自らが自修の準備を講ずることは地理作業教育上極めて必要なことである。

準備といへば、すぐに地図と教科書だけの勉強とみに直解することは餘りに促はれてゐると思ふ。であるから、教材指示」といふことは必ず「教材指示」に伴ふべきものであると考へる。

此の意味に於て作業地理教育は、必ず児童と共に研究の指定が計畫されるべきものである。

〔調査の準備〕 先づ「區域」を調べるに就いて、地理書附圖何圖の地圖を活用することが必要であるかを児童に尋ねて見る。——第三圖「本邦行政及び地方区分」第九圖「中部地方圖」を活用する。

一、行政區劃の指導 「中部地方といふのはどれだけの範圍であるか。」を地圖で讀ませる。

次に「この中部地方の中にはどんな縣があるか。」をたづねて、地圖で行政區劃を讀取らせる。

「太平洋に向つてゐる縣は、日本海に向つてゐるのは、海に向つてゐないのは……」岐阜縣の南端は太平洋の方に入つてゐませう。」と児童に説明させながら指示する。

二、位置の指導 「中部地方は皆さんの住んでゐる此の土地から見ると、どちらに當るか——中部地方のお隣りは

何處か——本州から見て中部地方はどんな所にあるか。〔本邦全圖活用〕

かくして其の區域を讀取らせ、此の地方が中部地方と云はれる所以を考へさせる。

## 二、地理教育の準備

(1) 児童の既得知識の整理 「この中部地方に就いて、今までに皆さんの知つてゐることがあれば、それを云つて置ませう。——成るべく役に立つことを云つて下さい。」と児童に相談をかける。之が私の勤務する學校の現情ならば、児童保護者の出身が殆ど全國に分布してゐるので、就中中部地方に關係してゐる保護者が多いことを年々経験してゐるので甚だ都合なのである。

例へば富士山・日本アルプス・長野縣の縣・生野・長野の香光寺・高田の雪・富山の賣樂などが出たならば、各児童に其の價值を判別させて既得知識を整理する。

「今、皆さんから出た事例は、どれも中部地方の研究に關係が深いか。」と、多くの児童が發表した問題を、児童相互に整理するやうに仕向ける。さうでない児童は時にくだらぬことを既得知識として發表することがある。併しくだらぬといつて其の問題を明から御へつけることはよくないから、児童相互に整理させるのである。

(2) 郷土との關係の指導 之は児童の既得知識の發表と關係してゐる。即ち中部地方と郷土と關係の深い生活材料は、他の材料よりも児童に知られ易い性質のものであり、児童が本地方に關しての既得知識を有つてゐると云ふことは、既に生活に關係深い材料であるからである。

此の意味に於て、児童の既得知識を發表させればそれでよいが、特に郷土との關係的立場から児童の既得知識を整理



現することも遺憾があると考へて之をなすのである。

「中部地方と皆さんの住んで居られるこの郷土との間には、どんな關係があるか。それに就いて考へようではありませんか。——もう考へてゐた者がありませんか。」といつて兒童の考を尋ねてみる。——兒童の直接の關係として甲州勤王が初秋に入込むこと、静岡の蜜柑が暮に来ること、静岡茶も来てゐること、夏に黒部の西風も来てゐる。濱松で製造された樂器、日本アルプス登山のことなど發表させてみる。又兒童の直接的關係といふ程でなくとも郷土との關係——例へば伊豆の温泉には京濱地方の人々は盛んに入込んでゐることなども考へさせる。

これが我が校の兒童であるならば、前述したやうに保護者の地理的分布が殆ど全国的になつてゐるので、其の關係せることも多い。殊に中部地方の諸縣は東京とも近い距離にあるので、其の出身者は歸郷する機会が多いし、従つて兒童も旅行する機会を興へられたり、又それだけ多くの生活關係の事實を捉へてゐる。

### 五、國境と地理教育の活用

① 國境と地理教育の活用 地理書附録第九圖「中部地方、第八圖の部分圖及び地理書地圖「中部地方の地勢と断面の略圖」を利用し、之に關する兒童的部分的並びに綜合的讀圖をなさしむ。例へば地理書地圖によつて本地方にある山脈と大山脈の分布、主な河川を讀ませる。また地理書附録と相對照して中央部が山地で、平野は日本海方面と太平洋方面にあること、都邑も太平洋方面に多く、中央山地に少いことを讀取らせる(どんな都邑があるかを一一)。

兒童の地理書附録は、單一的な地圖だから讀圖上固るが、此の際に人口分布地圖・氣候圖・産業分布地圖等があれば、之等も適當に利用するがよい。私は常に之等のものは前年度の兒童の作業せるものを利用してゐるのであ

る。

例へば氣候に於て雨量の分布を見るに日本海方面(表日)は冬季に多く、太平洋方面(裏日)は夏季に多く、中央山地の雨量の最も少いことがわかる。

かくの如く兒童の地理以外の補助材料を活用して、兒童的部分的又は綜合的讀圖を指導し、發表せしめ、目的決定の過程に資してゐる。

② 地理書の活用 地理書の活用といつても、地理書の本文に就いて兒童に讀解させる事は、此の學年の兒童として特に困難である。されば地圖に現はれた景観について、中部地方の地理的事實を讀ませることにした。

「白馬岳」・「後山の雪渓と頂上」地圖と對照して其の位置を確め、日本アルプス登山のことを想はせる。其の他日本アルプスの寫真を準備しておくがよい。

「富士山と大宮附近の製紙工場」富士山の寫真は外にも用意し、用意させるがよい。大宮の位置は地圖で讀ませ、この製紙工場は洋紙工場として大きいものであることだけを指示しておく。

「長良川と鶴舞」長良川の流域を讀圖せしめ、鶴を使つて鮎を捕へることは、長良川の名物となつてゐること。「黒部川」其の流域を讀圖せしめ、溪谷の壯美を想はせる。

「神通川と富山」神通川の流域と富山市の位置を讀ませ、見える山脈は日本アルプスである事も讀圖させる。「新潟港・伏木港」兩港の位置と新潟港は信濃川、伏木港は小矢部川の川口を利用せる港であることを。

「スキー(高田附近)」高田の積雪と積人力、高田は雪の深い所で、スキーの發祥地として知られてゐること。



「茶の産地の比較」と「清水産に於ける茶の輸出」―静岡縣は茶の産地が多いこと、他に静岡茶のポスターなどがあれば更によい。

「岡谷の製糖工場」と「生絲の産地の比較」―兩者を対照させ、長野縣は生絲の産地が多く、岡谷は其の中心であること、勿論岡谷の位置は地圖で圖させる。

「絹織物の産地の比較」―群馬縣・石川縣など中部地方は絹織物の産地が多いことを圖表で圖取らせ、此の地方の絹織物は富士朝・羽二重等が主であることを指示する。

「名古屋の製鋼工場」―製鋼の宏大なことを想はしめ、東海にあるコークヒール、紅茶のセー、陶器製煉車セー、トなどと連絡して、此の製鋼工場の製品を指示し、其の他瀬戸南など名古屋市附近は製鋼地帯をなしてあること。

「本曾の森林と森林保護」―本曾等にある森林の深いこと、主として樹材を運ぶ爲に敷設された鐵道であることを想はせる。

「新潟縣の油田」―越後油田は、秋田油田と共に我が國石油の大部分を産してゐること。

「大井川の今の鐵橋と昔の渡し」―大井川の鐵橋の長大であること及び「精兵八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と嘆ぜられた昔の交通難所も、今は夢の中に通ることの出来る今昔の比較。

「教員館」―其日本に於ける港灣としてウラヂボストークに定期航路が通じてゐること。

「名古屋無線電信局の送信所」―名古屋無線電信局は我が國無線電信局として世界的無線電信局であること(名古屋無線電信局の送信所は伊勢郡津島町にある。此の送信所はそんなことを吟味する必要はない。)

「名古屋城」―尾張名古屋は城でもつといふことを想はさせる。

「長岡の市街」―長岡市の位置を地圖で圖取らせ、軒先にある原木に注意せしめ、降雪のためかうした建築の様式を採つてゐることを指示する。

「甲府附近のぶどう園」―兒童の生活關係として兒童には興味ある標畫である。先に兒童の生活關係事實を吟味した時に、甲州葡萄のことが出たのだから、其の時にこの標畫と對照してもよい。

### 四、共同作業と目的の決定

①共同作業 以上に述べたやうに中部地方の區域を圖取らせ、兒童の生活環境を整理し、圖表をなさしめ、教科書の標畫を活用して、本地方の全體觀をなさしめたならば、幾つかのグループ(四人を單)を組織して、本地方の作業に當つて、如何なる所に着眼すべきであるかといふ作業題目を決定させる。此の時教師は各グループのよき相談相手となつてグループ毎に指導する。

②目的の決定 右の如く、共同作業として各グループに作業の着眼(作業)を研究せしめ、其の中代表となり得るグループの作業の題目を原案として發表せしめ、他のグループの意見を聞き、着眼を聞いて、不足せる目的決定を補ひ、教師の指導によつて整理するのである。

例へば地勢に就いては次のことに着眼させる。

- 一 どんな山脈・大山脈・高山があるか。
- 二 日本アルプスはなぜ有名になつたか。



三 主なる川と平野——太平洋方面と日本海方面とに分けて。

四 この山脈は氣候・交通にどんな影響を與へてゐるか。

五 此の地方地勢の特色としてどんなことがあるか。

五、指導上の注意

①本案に述べた指導案は、第五學年第一學期にあつては兒童の作業地理に於ける目的性はまだ幼稚である。それだけ教師が指導の領域を多くする。兒童の目的性に対する認識は餘程薄弱で、固執力が弱いから教師は之を誘導してやらねばならぬ。

②目的決定の指導が出来たならば、兒童は個人又はグループの共同作業としてそれ／＼作業の計畫をして、作業を遂行すればよいのである。

従つて各グループの選擇した作業題目を統一する必要はないのであるが、茲にはそれ程徹底せる作業地理を意味でなく、教師は右に決定した作業題目を活用して教師が指導する案を考へたので、各グループの作業題目を整理したのである。

第五節 目的 中部地方産業指導の實踐

一 指導の精神

前節には中部地方に就いて「目的 中部地方第一次指導の實踐」と稱して、次の事項を挙げ、本地方指導の全體性取扱を述べたのである。

一、教材指示と區域の指導

二、生活環境の整理 ①既得知識の發表・整理 ②郷土との關係吟味

三、疑問書表と地理書の活用（挿畫表の活用）

四、共同作業と目的の決定

五、指導上の注意

従つて、この作業地理教育の精神は、「目的 中部地方第一次指導の實踐」に述べたのに依る。

二 指導の過程

一、教材指導と目的決定の再吟味

①教材指示 「今日は皆さんも豫定してゐるやうに、中部地方の産業に就いて調べよ。」ことを兒童に指示し、どんな事項に着眼すべきかの注意(心の準備)を喚起する。

②目的決定の再吟味 本時に於ては中部地方産業に關して目的性を再吟味するのである。

一、既得事項の整理 前時に於て指導した地勢・氣候に就いて、東海地方・北陸地方及び中央山地の三地區に於て地勢の景観・氣候の様式を異にせることを復習する。



而して之が産業に及ぼす影響を簡単に考察させる。——例へば地理書附第八圖「中部地方を主とする絹の産地」を讀ませるもよいし、教師の準備した産業分布地圖によつて其の分布状態を讀ませるもよい。

二、**絹の産地** 地理書挿圖の活用は既に第一次の目的決定(全絹)に於てなしたのであるが、本時に於ては産業に関するものだけ——茶の産地比較、清水港に於ける茶の精出し、岡谷の製絲工場、絹織物の産地の比較、名古屋の製陶工場、木曾の森林と森林鐵道、新潟縣の油田、甲府附近のぶどう園——を再認識させる。

五、**目的決定の再吟味** どんな事項に着眼すべきかを再吟味するのである(目的的に決定されたならばならぬものである)が、前に主要題目だけを挙げておく。

- 一、中部地方で、農業の盛んに行はれる地方と主な農産物
- 二、太平洋方面・日本海方面・中央山地の農業は、どう違つてゐるか、違つてゐる理由
- 三、中部地方で養蠶業の盛んな地方、盛んになつた理由、製絲業の盛んな所、盛んな理由
- 四、名古屋附近の大工業と、工業の發達した理由
- 五、太平洋方面・日本海方面・中央山地の工業の建ひ
- 六、中部地方の主な水産業
- 七、中部地方の主な水産物

四、**研究の計畫** 以上の課題目を挙げ、並にそれ等を再認識したならば、是等を如何にして研究すべきかの計畫を指導する——兒童一同に計畫せしめ(五での五分の)、計畫の成れる兒童をして發表させる。地理書は農業・工業・林業・水産業と述べてゐるが、並では太平洋方面・日本海方面及び中央山地の三区に分けて研究することが便利

であることを指導して、其の案を兒童と共に決定する。

例へば太平洋方面——濃尾平野の農業 (静岡縣海岸平野の農業 (名古屋を中心とする大工業地帯 静岡縣の工業 四愛知の養蠶・養蠶の製絲業 四富士山麓の製紙業といふやうにする。

而して前記の題目は其の間に織り込んで、特に兒童の注意を喚起することとする(従つて題目中心に作題するといふ意味ではない、題目の選定に目的意識を添へるためである)。

### 二、**資料の準備**

(1)太平洋方面の農業 どんな事項に着眼すればよいか——濃尾平野の米・麥・野菜、静岡海岸平野の茶・蜜柑の栽培、愛知縣の養蠶・製絲、名古屋地方の大工業の資料に着眼させる。

産業分布地圖があれば産業分布地圖によつて讀取らせればよい。指導材料は大體次の如くである。

一、濃尾平野の農業 中部地方では北陸の越前平野と共に米の主な産地である。名古屋は米の集散地をなしてゐる。麥は大豆と雑草が多い。濃尾平野を四すれば大豆は減じて、雑草と小麥とが多くなる事件を呈してゐる。

野菜が豊富であること、大根・白菜・牛蒡・人参・風刺が多い。大根はそれ等の代表とも稱することが出来る。生産の約七割までが切干大根として農産の副業となり海外(支那等)まで向けられる。

また加工事業も蔬菜の生産を發達せしめ、漬物として海産物・絹織物・製糖物等があり、鹽漬としてトマト加工品。グリーンピース・菊苣がある。

故で濃尾平野の農業は、たゞ古來名産を博めたのであるかを簡単に考へさせるがよい。——氣候が溫和で土地が豊



沃であること、都市人口の稠密であること、運輸網の完備してあること、技術の巧妙であること、加工事業の發達してあること、位置の良好であること等を考察させる。

二、静岡縣の農業 茶と實業に就いて論ずる。静岡縣で茶園の多いのは牧野原・大徳山・静岡原・三方原等で、其中牧野原の茶園は日本一のものである。茶は全縣から静岡へ移出される。それは海外へ移出するために製茶に更に火入をして乾燥を十分にして、摩撻粉分けして其の外見を整へ、美しくする爲に再製法を行ふのである。

殊に其の輸出には多大の目録を要し、而も氣候の甚だしく相異する海上の船積に當面されるから嚴重に包装を施すのであるが、往々にして腐敗變質をなすものであるから製茶の輸出には再製をせねばならぬ(地理的)。産額は約九七八萬圓(昭和八年)で、内地第一位、臺灣の製茶と匹敵し、(地理的の生産力アップは少し古い)其の輸出額は約八四五萬圓(昭和七年)で大部分米國へ輸出する。一産額を一々いふのではない。

茶生産の分布地帯があつてそれを活用すればよい。而も茶産地帯が關東より西南地域の産であることが明確になつてよい。兒童の作業としてたせばよい。

次は實業に就いて論ずる。我が國に於ける絹織の分布地帯があつて之を利用すればよい。さうすれば本地方では絹織の栽培が東海地域に限られてゐることがわかる。中央及び南西日本の絹織地帯の東部がこの地方になつてゐる。静岡縣の實業は、和歌山縣と共に我が國實業の二大産地となつてゐる。

静岡縣の實業は約三百年前實業の資本を紀州より得て、僅かに自家作に供したのが始めてであるといはれるが、今では自然に生まれ、東北日本市場との距離的關係で、紀州に對立して實業王國を建設してゐる。

其の生産高は和歌山縣に次いで第二位で、内地産産の約二〇% (昭和四年) (和歌山縣は四六%) を産してゐる。其の販路は京濱・奥羽・北海道地方が主で、米國へも輸出される。

地理書には富士製のことを出してゐないが、茲で富士製に就いて簡単に論ずるがよい。富士川の三角洲で水田の間、温潤な土地に栽培される。之が富士製である。越後型よりも氣候的關係で早く市場へ出され、優先を嗣して利益を収めてゐる(其の生産は越後型)。

三、名古屋を中心とする大工業地帯 名古屋附近には各種の近代工業が發達してゐる。どんな工業が盛であるかは地理書によつて挙げさせるがよい。――絹織物・綿織物・海綿・時計等が挙げられてゐるから、之等に就いて論ずればよい。絹織物・毛織物の分布地帯を作業させておくと實際指導に利用することが多い。一々統計などを挙げなくてもよい。挙げてもわからない。

愛知縣の絹織物は大阪に次いで兵庫縣と共に盛んである。蓋し名古屋地方は海陸交通の便が開け、殊に名古屋港のあることは原料の輸入、製品の輸出に便利であるから、新業も發達したのであらう。名古屋を中心とする絹織物の産は大産産と仰せし、全産額の約二四%を占め第一位にある。

毛織物は全産額の約五〇%を占めて第一位にある。而して毛織物は尾西から西濃地方に至る一帯が其の生産地帯で、實に我が國最大の毛織物地帯といふことが出来る。即ち津島・一言・岐阜・大垣一帯にセル・セル・セル・セル等を製織して國內の需要を充し、舶來品に對抗し、更に海外に出してゐる。

たゞ羊毛工業が發達したかといふことは、別に温度とは關係がないもの、やうで、名古屋港があつて原料の輸入



に便であるといふことが最大の因をなしてゐる。

陶器に就いて見るに、岐阜の多治見から瀬戸市・名古屋市にかけて産地といふことが出来る。今日では名古屋市が最も多く産し、日本製陶會社の如き大規模の製陶會社がある(岐阜県)。製品は洋食器具、花生を主とし、純白色で産院も斬新、七割までが米國へ仕向けられる。

茲でなほ此の地方に産地が豊富したかを考へざるがよい。それは主として原料の關係らしい。即ち木曾山脈の南半部は花崗岩の露出によつて生成した長石質の良陶土を産し、之を原料として陶器製造が發達したのである。併し今日では瀬戸市が生命とせる陶土は其の産も減じ、必ずしも優良なものとは限らず、今日では九州の天草島産のものを盛んに使用するやうになつてゐる。近代工業の發達は大量生産といふことであるが、今日では瀬戸市よりも名古屋の方が多額に産出してゐる。交通といふことが極めて重要な地理的條件であることがわかる。

四、静岡縣の織工業 静岡縣も織工業が盛んで、東部の小山、西部の島田、濱松が其の中心である。殊に織物には濱松を中心として産するもので、古くから遠州織の名によつて知られてゐる。

市の織物業の起りは、最初三方原に織と笠を織え、遠江織物として家内工業の忙しい業から叩き上げたもので、市の全生産の約八割に當つてゐる。

五、愛知の養蠶・蠶絲の製絲業 愛知縣は長野縣に次いで蠶を多く産する。蠶の生産分布地圖を作るとよい。蠶産額の約五・八% (二九〇〇萬圓、長野縣は五二%) を占めてゐる。

群馬縣と共に長野縣に次ぐ。製蠶業も盛んで、蠶絲が其の中心である。製絲の原料は唯本國産の蠶のみではない。

各地方産物が集められるが、製絲産物の最も盛んで來る。製絲の産も長野縣(二〇)に次いで約九%餘である。

六、富士山麓の洋紙 大宮に洋紙の工場がある。之はもと此の地方の本材を原料としたのであるが、今は其の原料と北海道・神奈川の木材に仰ぎ、清水港に陸揚げし、運搬されてゐる。

七、北陸地方の産物 どんな事項に着眼させるか―越前平野・富山平野の本、福井・石川の絹織業、石川の漆器・陶器、富山の寶珠、越前油田、佐渡の金山等を産業分布地圖によつて觀察させる。指導材料は大體次の如くである。

一、米の産地 越前平野は内地第一の米産地である。年産約六百萬ヘクトリットル(約三三〇萬石)に達してゐる。關東平野とは違つて越前平野には水田が多い。併し戦時時期に過剰な天候がづくため、真日本共産の穀質米が出來、秋の食味がよく、東京や長野へ出されて賞味されるが、夏産しの出率ぬのが缺點である。

穀類米の大量は今般大規模な乾田等の普及によつて質もよくなつたら、名實共に日本一の産米縣として誇る日が來るであらう。新潟や直江津港から北海道へ出されるものも多い。

富山平野も水田が多い。米産も多く、越前米と稱せられ、其の産は新潟縣産の約半分、製絲米は伏木港から北海道へ移出される。

二、北陸の絹織業地帯 福井・金澤をはじめ大野・野山(福井)・武生・大塚寺・小松から富山縣の越前へ廣がる一大絹織地帯をなしてゐる。北陸地方は輸出額二重の本場であるから、近頃は勿論のこと、關東の新業を盛く凌駕してゐる。

福井縣の絹織物は京都府と相仲し、總産額の約一九%を占めて一、二位を争ふ。其の中輸出額二重が多いが、







ましく、気候は乾燥してゐるから畜産の發育に適當で、且つ桑の栽培にも適當してゐるので、養蠶業が盛んになつたのであるが、最近米國への輸出生絲が減らないことから、絹織の下着甚だしく、養蠶業者に大興味を來たして居る。

長野縣・愛知縣は養蠶業の盛んであるのに伴つて製蠶業も一般に盛んで、生絲の産が盛かに他縣を凌駕してゐる。長野縣に於ける製蠶の原料は單に蠶下に産する蠶のみならず、更に埼玉・群馬等をはじめ他縣に仰ぎ、之を製絲してゐる。諏訪湖畔の岡谷がその中心で、長野縣製蠶の約半分はここで製蠶されてゐる(地理資料)。

故で、たゞ岡谷が日本一の製蠶産地になつたかと吟味する必要がある。岡谷附近は養蠶業地帯の中心に位し、且つ気候は蠶や生絲を貯蔵するに適してゐるからである。また愛知の本は蠶品で製水を軟水にするか、タンク等で貯蔵した所謂軟水でなければならぬのであるが、諏訪湖は自然の貯水池で軟水となり、水質が宜みに適してゐるからである。

更に生絲の輸出に就いて簡單に圖解しておくがよいと思ふ。生絲はいふまでもなく我が國輸出の大宗で、その輸出は昭和四年頃まで輸出總額の三割六、七分を占めてゐたが、最近は三割内外に減じてゐる(昭和九年では二割)。

二、本會の興林 中部地方の山地には所々に森林の美を顯す。本會の興林は本會川流域のもので、かつて尾州縣では奉行を上位に置いて森林行政に當らせ、五木製(ひのき、こばら、あすき)の制度を設け、一木百二つの規則を講じて保護したものである。

ひのき・こばら等の製材は、従来本會川を利用してゐたのであるが、現在では中央本線、森林鐵道が完成したの

と、一方では大同電力經營のダム式水力發電の爲、管線が高直になつたのとで、悉く鐵道輸送を行つてゐる(地理資料)。本村發達局は中央本線の上陸部を主とし、名古屋が岡本村の集積地である。

三、神岡國山 千二百米の山頂を圍つて數多の坑口が開かれてゐる。其の礦種も金・銀・銅・鉛・鐵といふ種かさであるが、鉛の産が第一で、日本一である(三井礦業)。

神岡鐵道 本産業が海洋と密接した關係あることから、中央山地の本産業が甚だ貧弱であることを顯微させる。中央高地は國の要衝地で、信州の佐久縣・伊藤縣が知られてゐる。

一、太平洋方面 船・鐵等大海を同海する漁獲物があり、新潟縣では製絲が盛く活動し、製糖を製造し、地味は其の主産地である。また濱名湖附近は蠶の養蠶が盛んで、京浜・東海地方に多く供給してゐる。

二、日本海方面 北陸方面は東海兩魚の漁獲される特色がある。鮭・鱈魚・鱒は殆ど日本海沿岸地帯に限られてゐる。日本海方面の本産業は製乾物・製糖物及び魚肥等で、一般に製糖的であるのが特色である。

三、東海方面の製糖比較 並んで輸送した時に、兒童として三地域の産業の特色を位取。地帯・氣候と關係付けて考へさせるがよい。

例へば養蠶を見るに、太平洋方面は温暖多雨で、冬は後に山を負つてゐるから風下となつて暖く、米・麥・蔬菜は勿論、陸地海岸の丘陵まで茶・蜜柑等の經濟價值の高い國産農作物を栽培してゐる。中央高地は海拔平均五百米の盆地であるから、氣温も本地方では最も冷涼で、雨量少く、雪量に富し、列る所の盆地は桑栽培地となつてゐる。

北陸は大川の流域等に廣大な農田が開け、冬季雪に被げられ、二毛作の桑栽培地となつてゐる。雪の栽培も概ね



いから、東海地方と北支地方は表裏日本作の最大の工業地帯と認すること出来る。また東部の主要工業地帯に属する。

工業の発展を見るに、東海地方は極めて盛んで、名古屋大工業地域の如きは京阪・関東大工業地域と相対抗し、諸々の近代工業が行はれてゐる。又同時に華工業・東部の諸工業、海陸交通の便工業も盛んならう。

北支地方は其日本としての勢力を次第的擴張に上り、工業も次第的なるものがある。華の主要工業地帯といふべきは、二重・北支の工業地帯といふ。

中大支には製造業の如き主要な工業が盛んで、其の生産物は我が國第一等と云ふのである。工業の盛んならば、それの外に製鐵業も盛んである。

### 三 華の工業

#### 1. 華の工業の概観

11° 華の工業 中国の工業は概して、其の生産物は我が國第一等と云ふのである。工業の盛んならば、それの外に製鐵業も盛んである。

#### 12° 華の工業

1° 華の工業の概観

2° 華の工業の概観

3° 華の工業の概観

4° 華の工業の概観

5° 華の工業の概観

#### 11° 華の工業

(1) 華の工業の概観 (2) 華の工業の概観 (3) 華の工業の概観 (4) 華の工業の概観 (5) 華の工業の概観

(6) 華の工業の概観 (7) 華の工業の概観 (8) 華の工業の概観 (9) 華の工業の概観 (10) 華の工業の概観

#### 【附】

#### 1° 華の工業

(1) 華の工業の概観 (2) 華の工業の概観 (3) 華の工業の概観 (4) 華の工業の概観 (5) 華の工業の概観

(6) 華の工業の概観 (7) 華の工業の概観 (8) 華の工業の概観 (9) 華の工業の概観 (10) 華の工業の概観

(11) 華の工業の概観 (12) 華の工業の概観 (13) 華の工業の概観 (14) 華の工業の概観 (15) 華の工業の概観

(16) 華の工業の概観 (17) 華の工業の概観 (18) 華の工業の概観 (19) 華の工業の概観 (20) 華の工業の概観

11° 華の工業 三地方に於ける産業の特色の吟味と其の理由を推定する。



### 第六節 中部地方復習作業の実施

#### 一 復習の目的

中部地方の復習をなすのであるが、(一)児童の目的決定を指導し、(二)本地方の区域・地勢・気候・産業・交通・郡邑等の大勢を復習し、總括し、(三)東海地方・北陸地方及び中央山地の三地域に於ける地理的景観の比較をなし、(四)其の地理的理由を整理し、(五)地人相関の考察を指導する。

#### 二 復習の準備

##### 1. 復習の回数

(1)復習の回数 「此の次の時間には、中部地方の地理に就いて復習をせよ。どんなことを復習すればよいかを、出来るだけ考へようではありませんか。それで二時間の復習で復習せよ。」と児童と仕事の進度に就いて相談をする。

(2)復習決定の準備 地理書附圖と地理書とを開らかせておく。どんなことを復習すればよいか、それに就いて考へを發表して貰ひます。といつて、児童の考へて来たこと、及びこれから考へることを整理する。

##### 一. 区域 中部地方の位置と行政区域

二. 地勢 主な山脈・大山脈・川・平野

三. 気候 東海地方・北陸地方・中央山地の比較(地勢と)

四. 産業 (1)太平洋方面と日本海方面の農業(気候と) (2)養蚕業と製絲業(地勢・気候) (3)北陸の絹織物業 (4)古川地方の大工業地帯 (5)本曾の林業 (6)越前・加賀と製油所 (7)水産業—太平洋方面と日本海方面の比較

五. 交通・郡邑 (1)主な鐵道幹線(地勢・気候) (2)太平洋方面と日本海方面の海上交通の比較(地勢・気候) (3)主な郡邑と其の市勢(地勢)

六. 東海地方・北陸地方・中央山地の三方面の比較—此の地方の地勢・気候は産業・交通の發達にどんな影響を與へるか。

#### 二. 復習の要領

##### (1)区域

(イ) 中部地方の位置—中部地方の「中部地方」と云はれる所以

(ロ) 行政区域—九縣と無縣所在地

##### (2)地勢

○「地理書附圖と地理書の地勢附圖を圖いて、主な山脈・大山脈・川・平野をあげてこらんなさい。」—主な山脈…飛騨山脈・木曾山脈・赤石山脈・越後山脈・三嶺山脈等、大山脈…富士火山脈・白山火山脈・郡嶺火山脈・島嶺火山脈、川と平野…本曾川と濃尾平野・大井川と遠江平野・大井川・富士川と駿河平野(太平洋)、信濃川・阿曾川と越後平野、神田



川・庄川と富山平野・金沢平野・九國川と根岸平野(日本海)・早稲地・赤木平・善光寺平(中央)

○「飛騨山脈に就いてどんなことを知つておまければならないか。」日本アルプスと呼ばれ、槍岳、白馬岳等の高山があり、御嶽火山脈が横じ。御嶽、奥穂高岳の高山があること、夏季登山者が多いこと、中部山岳国立公園。

○「この地方にはどんな温泉がありますか、それはなぜですか。」地理書には太平洋方面に熱海、日本海方面で山だけしか出てゐないが、附屬第八圖には伊東、御幸寺、諏訪が湧てゐる。それらを讀ませて大山脈をあげさせればよい。

○「此の地方の川について特に注意することは、どんなことですか。」灌溉に利用される外、水力發電に利用されること。

○「水力發電の盛んなのは何所ですか。」本會川、信濃川、庄川、黒川、富士川等(地理書参照)。

○「それでは、中部地方の地勢の特徴として、どんなことが云はれるか、それを讀ませよう。」(1)本州の最も幅の狭い部分を占め、(2)地勢が最も高く峻しく、三千米以上の高山が聳えてゐること、(3)数々の大山脈が通つて地勢が複雑である。御嶽大な河川があり、多く急流であり、山脈の間には深い谷が出来てゐる。

④ 風

○「中部地方の氣候に就いて考へてみませう。それには地理書附屬第二圖をあげませう。太平洋方面の東海地方と日本海方面の北陸地方と中央山地の三地方では、どのやうにちがつてゐますか。」東海地方は氣候が溫和(年平均気温14度)・北陸地方は十二度、中央山地は十度になつてゐる。雨量は中央山地が最も少く、濃尾平野も少い。

○「では、この氣候に就いて、どんな事を特徴として云はれますか。」東海地方は溫和、夏に雨量が多い(本気)、北陸地方は冬に雨量が多く、高岡のやうに降雪地がある(本気)、中央山地は雨量が少く、冬の寒さがきびしい。

○「それではどうしてさうなるのかを説明してごらん下さい。」夏は南東季節風が日本海流を越えて吹いて来る、冬はアジア大陸から北西季節風が對馬海流を越えて吹寄せる。それが中央山地をなす山脈に妨げられて、雨量となる。

○「ここで皆さんに考へて貰ふことがあります。この氣候の特徴が、人間の生活にどんな影響を興へてゐるでせう。」東海地方に茶、蜜柑の栽培されるのは溫暖なことによる。北陸地方に雪作の少いのは多雪の多いのによる。中央山地に雪積の盛んなのは一には乾燥した氣候による。各地方にスキー熱を盛んにしたのは北陸の深雪であり、冬季運動の事故もこの積雪による。諏訪湖のスケートは冬季の積雪による。太平洋沿岸(瀬田川)に保養地のあるのも、溫暖な氣候に恵まれてゐるからである。

太平洋沿岸地方の住民に大體明顯なのが、表日本式氣候の特性に違つてゐることが大であり、北陸地方の人々が比較的活動的であるのは、多雪戸外の労働の出来ない氣候に調整された結果が興つて大である。

○「今、考へたやうに、中部地方の氣候は三方面で違つて居り、それが農業にも關係してゐる。それならば東海地方と北陸地方の農業で、其の主な農産物を挙げて下さい。」東海地方(米、麦、大豆)・北陸地方(米)



地理書のプロットで説明して下さい。」(我が國に於ける米の生産)「岐阜平野・美濃平野・富山平野等、米産地は朝陽地方に次いで第二位、内地では第一位(約一七%)。」

○「此の地方で養蚕の盛んなのは何處ですか、それには何所の地帯を觀ればよいのでせう。」地理書附圖第八四、長野縣・愛知縣・岐阜縣・山梨縣(我が國第一)。

○「此の地方の養蚕額は、我が國に於てどんな位置にありますか。」地理書のプロット(約三%)、長野縣が第一で約一二%、愛知縣は約六%。

○「地理書附圖第八四で、長野・愛知・群馬・岐阜・山梨・埼玉—この二區は養蚕地帯である、なぜ養蚕が盛んになつたのであるか、其の理由をあげたい。」栽培した氣候は蚕の生育に都合がよい。火山灰の土質は繭の作物より養蚕の栽培に適する。中央山地の地勢、氣候の關係から呼び寄せられた中心とならざるを得なかつた。

○「養蚕業と共に、此の地方が我が國第一の生産をあげてゐるものは何ですか(約一%)—何所に盛んであるか、我が國に於ける位置を地理書のプロットで説明して下さい。」生産の地帯は群馬第一位(全産の約一%)、長野縣だけでも二〇%で第一位、愛知縣が九%で第二位。

○「長野縣ではどこに製絲工場が多いか、なぜ製絲業が盛になつたかを説明して下さい。」製絲業の興隆が其の中心。我が國最盛の製絲業地帯の中心にあること、氣候が乾燥してゐることは繭や生絲の貯蔵に適し、製絲湖の水は軟水で、水質が宜適に適してゐること等。

○「此の地方で絹織物は何所に多く出まますか、どんな種類のものが出てゐますか。」(我が國に於ける絹織物の生産)「我が國に於ける絹織物の生産は、長野縣が第一で約一〇%、愛知縣が九%で第二位。」

○「名古屋附近の大工業地帯では何を製造してゐますか。」(我が國に於ける絹織物の生産)「我が國に於ける絹織物の生産は、長野縣が第一で約一〇%、愛知縣が九%で第二位。」

○「名古屋の絹織物がどのやうに多いか、大坂の絹織物とどんな位置にあるかを見せよう。それには地理書附圖地方の絹織物の産額の比較を見るがよい。」愛知縣と大坂府の産額は伯仲し、各内地産額の約二四%餘を産してゐる(昭和八年には愛知縣一八五萬圓、大坂府一八二萬圓)。

○「愛知縣の毛織物も我が國第一位の産がある(内地産額の約一〇%)。ここで東海地方、北陸地方、中央山地の工業にはどんなものがあるかと比較してみようではありませんか。」東海地方(名古屋の大工場地帯の工業品、同時の絹織物、北陸地方(福井・石川の絹織物、石川・中央山地(富山・金沢)の絹織物、富山の産物)。

○「中部地方の林業で注意するものは何でせう。」木曾川上流、木曾谷のひのき、天城山地の森林等。

○「中部地方の農業で注意するものは何がありますか。」越後油田と佐渡・伊豆の金山。

○「越後油田中の主な油種と製油地は何所ですか。」東山油田、西山油田、新津油田等(製油地)・柏崎・新潟(製油)。

○「この地方の水産業で有名なものは何ですか(太平洋方面)。」太平洋方面と日本海方面とではどちらがひまますか。」



太平洋方面は暖性の水産(かつまよ)、日本海方面は寒性は寒性、南西部は暖性の魚類が多い(カツマヨ、山魚のぶら、魚介)の分布(日本海方面)また太平洋方面(カツマヨ)では産物(カツマヨ)を産するから、かつまよの産物が盛んであるが、日本海方面の水産物は寒性の魚類(カツマヨ)の一般に産物(カツマヨ)の産物である。

【産物の分布の調査】 以上にあげた分布の大部分を前時について作業させる。ここで産物分布図を編めるやうにする。

五、交通の調査 ○「陸上の交通で、どんな産物が通つてゐるか、それをあげなさい。」東海本線・北陸本線・羽越本線・信越本線・上越線・中央本線・關西本線等。

○「北等の産物と其の地方及び我が國交通との關係を考へやうではありませんか。」

例へば東海本線は、中部地方に於ける東海地方の産物であるのみでなく、北は東北本線、西は山陽本線と連絡して本州の大動脈となすものです。「北陸本線は北は羽越本線・奥羽本線に連絡し、南は東海本線に連絡し、青森から日本海より大坂行の幹線となす。

信越本線・上越線は關東地方(関東)と北陸地方(北陸)を連絡し、中央本線は中央山地の幹線であり、東海本線の補助線である。

○「次に中部地方の産物が、此の地方の地勢と特に關係する所を考へようではありませんか。」上越線の清水トンネル(大正〇二年、青森)・中央本線の青森トンネル(大正六五年)・東海線の鳥羽トンネル(大正九〇年、鳥羽)・中央本線の富士見橋は明治九五年まで、我が國に於ける最高地の停車場、信越本線のアプト式鐵道等は何れも本地方の地勢の

影響に於けるものである。

○「海上交通で、太平洋方面と日本海方面とはどんなちがひがあるか、それに注意しませう。」太平洋方面(名古屋、神戸)日本海方面(青森、秋田)。名古屋は我が國東部の開港場で六千噸以内の船舶の出入が自由である。新潟港は信濃川口を利用した港で、二千噸以上の船舶の出入は困難である。伏木港も小矢部川口を利用したもの。日本海方面は平直な海岸、且つ冬季は風波が荒く、雨量が多い為海上交通に恵まれない。將來陸路との間に航路の盛んならんとする港もある。(産物に於いては具體的材料を指導する)

【産物の調査の準備】 交通と産物の主なるものの分布地図を作業する。

### 第七節 小地理 近畿地方地理作業の實踐

#### 一 産物の調査

兒童が近畿地方を作業する頃になれば、地理作業にも大分修練して來てゐるから、本教材に於ては小地理的取元に依る實踐形式を述べて見たい。實際に於て業者は中部地方より此の形式を試みてゐる。

小地理的取元とする事は小學兒童の程度として無理であるとの批評もない譯でない。又其の地方の調査がすんだ後に各地域の特色を調べて小地理的取元を見させることが、小地理的取元を取扱上補助に適合するものであるとの意見もあるやうだが、茲には成るべく兒童として、小地理的取元を見せるやうに仕向けることはいふ處もないが、



小地域的單元に依つて、具體性操作をなさせることの方策とする考が、相當に濃厚であることを認めておきたい。

## 二 指導要領

### 一 小地域的單元決定の留意

①教材の採集 「今日からこの前の時間に皆さんと約束したやうに近畿地方に就いて調べてみませう。」と、児童に導へ「近畿地方に關して、皆さんとして自由に調べたことがありますか、また何か調査書などを集めたものがありますか。」といつて、児童の注意を喚起しておく。

### ②地域と行政區劃の關係

一、地理書附圖第十一及び附圖第四圖により近畿地方の區域を讀取らせ、本州に於て、又全日本からみてどんな地域にあるかを讀取らせる。

二、郷土から近畿地方の位置、及び京都市に至る交通路を發表させる。

三、本地方の行政區劃に就いて附圖を讀取らせる。——附五圖。

### ③近畿地方の概況

一、既得知識の發表・整理 近畿地方に關する材料で児童の既得知識一例へば大阪・神戸は近代工業の盛な所であること(「神戸大工場地帯といふ名前は既に京阪大工業地帯」)、和歌山縣から産物を産すること、日本一の乾乾湖のあること、

近江八景のこと、京都市・奈良市は日本の古い都であること、従つて歴史上有名な所蹟が多いこと、京都市は美術工藝品を産すること(「見立としては美術工藝品といふ名前は使はず」)、宇治山田市には泉大帥宮があること、又の橋立は日本三景の一であること等に就いて發表する。

勿論其の他、地理作業として價值に乏しいことを發表するに相異ないから、余児童をして價值の判断をなさせるやうに仕向けるがよい。

特に京阪神地方に旅行した経験のある者には、其の時の思ひ出を簡單に發表するの機会を與へてやる。

二、郷土との關係吟味 郷土に於ける児童の生活を通して近畿地方と關係する材料があれば、それ等を吟味し、吟味する。

此の意味に於て近畿地方の作業に際しては教材採集をなし、かうした事項に關して児童自ら自己の環境を説明するやうに陶冶することが肝要である。例へばかうした材料は近畿地方と郷土との關係を有力に示すものである——お正月前になると和歌山の産物(「紀州」)・神戸で出来たマッチ・大阪で出来た日用品雜貨・關地方の酒などが來てゐること、其の他この地方に知人あり、また親戚などがあつたりすれば、かうした資料に就いて再認識させ、目的活動を誘導し指導する。

### ④地理書採集の留意事項 地理書に出てゐる挿畫は次のものである。

一、主として地勢に關係するもの「琵琶湖と大津」・「陣水尾河・インクライン」・「天の橋立」・「和歌浦」・「鳴門海峡」



二、主として産業に關係するもの。「大阪北東部の工場地帯」、大阪にある紡績工場の内郡、「京都府内にある紡績工場の内郡」、紀川の下流に於ける木綿のさらし場、「有田川沿岸の豊後山」、紀川上流の綾城の採木、「紀川上流の採石」、長門の採石、「宇治の茶摘み」

三、主として交通に關係するもの。「山陰本線の高架橋(橋)」、「神戸港の全景」、「大阪港」

四、主として特色に關係するもの。「平安神宮」、「春日神社」、「大阪の市街」、「淀川の下流」、「琵琶湖と大津」、「和歌山」

之等の特色に就いて、地圖と結びつけて其の景観だけを製させればよい。例へば天の橋立に就いては地圖で其の位置を讀取り、恰も橋の如く長い橋のある事を知ればよい。そして之が目的活動に役立つやうにすれば足りる。外に「近畿地方の地勢と河川との關係」、「大瀬川沿岸に於ける工場分布」、「船の産物の比較」、「船の産物の比較」、「神戸港の出入比較圖」のグラフが就つてあるが、地圖は大の地圖賣賣の時に利用し、産物グラフに就いては「發表させなくてよい」、「大瀬川沿岸に於ける工場分布」はどんな種類の工場が製鞋地方のどの處に分布してあるかを讀取らせる程度でよい。

○「近畿地方の全體性に就いて」とあるが、故には地勢に關して特筆的景観をなさせる。

○「先づ地圖賣賣第十一圖に就いて地圖させる」、「近畿地方は全體としてどんな形に見えるであらうか。」(註)大瀬川・京都府・奈良府・和歌山府・徳島府・香川県・高松府・愛媛府・高知府・山形府・秋田府・岩手府の各府の地圖が附録で、北西角と南東角が其の中心(註)をたづねる。

○次に「近畿地方の地圖を讀てみんなの氣の付いた所(地圖の特色といふこと)を考へ、其の特色を(註)と云つて御覽なさい。」

て御覽なさい。」

かうして凡そ五分の圖自由に地圖を讀させる。勿論同列の兒童と地圖に關して意見の交換は少しも差支ない。成るべくグループ活動としたい。此の時地理賣賣所の地勢地圖も利用する。

○兒童がどんな事を發表するかを従来の經驗を通して豫想してみよう。――(一)中央部には平野があり、北部と南部に山がある。(二)中央の平野には鐵道が多く、都市が多い。(三)中央部には名山所賣賣が多い。關西内海方面には神戸、大阪の二大港がある。關伊勢海には關日南港があるが、日本海の方面にはよい港がない。

○兒童の發表は徹底的に聞き、前記の如く、中央部には平野がある」と發表して、どんな平野、盆地があるかを内容的に發表する兒童は數程出来のよい兒童である。されば「どんな平野がありますか、何といふ盆地ですか。」といつて兒童の地圖を讀覽ならしめる。山脈の分布に於てもさうである。南部の山地にはどんな高山があるか、北部の山地には、「之を讀んで關山地の間に於て高度を異にすること、關伊勢山脈と關山脈の比較をなす。都市の分布に於ても亦然りである。であるから「それはどんな都市ですか。」といつて主な都市を讀取らせる。

○地勢に關して次の特筆的景観をなす。今迄に地圖を讀た所で、近畿地方の地勢は三つに分分することが出来るであらう。――(一)北西部、(二)中央部、(三)南部

「北西部の山地にはどんな山脈があるか。」「關山脈で、其の西端に丹波高原があり、南部山地に比べて高原状である。此の山地には白山火山脈が通つてゐる。」

「南部山地には、「關伊勢山脈で、山上部、大瀬川山脈の高山がある。」



「中央部の地帯はどうなつてゐるか。」大阪平野、京都盆地、奈良盆地、近江盆地、伊勢平野、静岡平野（自然的には北西からだが、人文的には中央部に入れるがよ）等の諸平野盆地と金剛山脈、笠原山脈、鈴鹿山脈、和泉山脈等の小山脈、

並で、教員が以上の如く地帯が三分されるといふことを児童にいふことは、展開指導としては少し狭いかも知れない（教員側から）。併し最初に必要な展開をさせてゐるのであるから大したこともなからう。

●小地帯の空間構造への展開 以上の指導だけで小地帯を規定する事は勿論無理である。児童の所持する地図が殆んど単一的な地図であるから、進んだ地図の讀み方をすることに支障がある。

近畿地方地図の外に附圖に出してゐるのは産業分布地図として茶の主な産地、行政區劃と鐵道を入れた地図、それに第二圖の本邦産業、専ら産地及び海産物である。かうした地図も利用する。南部山地に最も雨量の多い地域があること、中央部が最も少いこと、茶の産地は中央部の盆地・平野であることを圖取らせ、各地域の特異性に着眼させる。更に教師は人口分布地図、産業分布圖—綜合的に示された産業分布地圖や、其の他米、麥、雜糧等の生産分布地圖、部外交通圖、雨量分布地圖等を用ゐるがよい。

著者は、常に此の類のものは前學年度に於ける同學年の児童の作業せるものを準備して地理作業に役立たせてゐる（児童の例題となつて地圖等）。つまりかうした特殊地圖に依つて、地帶的にも北西部・中央部・南部の三區域では特色があつたけれども、氣候に於ても、従つて産業の分布に於ても、又部外・鐵道の發達に於ても、量變の異なつてゐるものがあることを圖取らせるのである。かうして小地帯規定の資料となすのである。

●小地帯規定に就いて教師から児童へ何と働きかけるか、この後は實際問題として仲々の技術を要すること

と展開してゐる。小地帯区」といつたとして児童にわかるものでなし、「小地帯区」といふ言葉はかうした作業を進展か展開してゐる間に児童の體驗として「小地帯区」といふことが自然に出て來なければ無い。それで著者は次のやうにしてゐる。

○「今迄に皆さんは關東地方・東海地方・中部地方を勉強しましたね、さあ東海地方では、大體奥羽山脈を中心として東西に分けました（西海嶺と）。この東海列と西海列では、地圖のやうすに違つてゐるものがありましたね。中部地方ではどうでした。太平洋方面の東海地方、日本海方面の北陸地方、關地方の間にある山の多い地方を中央山地（此の區は児童に）としたでせう。このやうにして近畿地方を区分するとどうなりますか——北西部・中央部・南部」の三つでせう。

そこでまた考へたいことがあります。中部地方を勉強した時、ここの盆地「甲府盆地」、この甲府盆地は地勢から見ると、關東山脈・赤石山脈其の他の山地で囲まれ、甲府盆地といふ特別な地勢になつてゐて、盆地の略は中央を南吹川・釜無川が流れ、富士川となつてゐるでせう。此處にはどんな特色がありますか——甲府市・静岡。此所にはどんな産業がありますか——

たゞこの盆地には産業が出来るのであるか、産業發達に適當な氣候であるからである。

次に濃尾平野を見せよう。この濃尾平野は甲府盆地と比べると地勢もがたつた所があるに相異ない。それはどんな所でせうか。「平野が大きい、甲府盆地に比べて土地が低い、名古屋市・瀬戸市・一宮市・岐阜市・大垣市など部外が多



建設がよく進捗してある。名古屋大工業地区が出来てある。米・麦・野菜等の産が多い。

それではなぞ平時産地と戦局平時とは其の地域の様子が変わつてゐるでせうか(東京に戦局を起し、自ら戦局を起す)。その理由ははたなくともよいが、このやうに其の土地々々によつて違つた地面を有つてゐる所があります。

この特徴ある土地を既述地方に就いて調べてみよう。それには、先に決めたやうに(一)北海道 (二)中央部 (三)南部に三分したものを更に区分しようではありませんか。といふやうに兒童側に相談を持ちかけるのである。それはグループに分れて考へることにしよう。としてグループの活動に移す。教師は各グループの顧問となつて適宜相談相手となる。

① 小地理区の設定 グループの共同活動の結果を整理して、小地理区を設定するのであるが、それには有数のグループの小地理区を發表せしめ、之を原案として他グループの意見を發表せしめ、よりよき案を持ち寄り、協議して最善案を決定するのである。

故にいふ有数のグループとは、グループの作業中教師が適宜相談相手となり、比較的進言を案と思はれたものといふのである。可成り無難な案も出るに相違ないが、餘り無難作に過ぎるものは價値に乏しいから、時間的損失とも顧慮して有数のグループの案を原案に供したのである。

- 一、北部地方 (1) 青森県沿岸地方 (2) 信州地方
- 二、中央部地方 (1) 大坂府沿岸地方(大阪平野) (2) 京都盆地 (3) 奈良盆地 (4) 近江盆地 (5) 伊勢平野 (6) 伊勢平野

時 (2) 後述

五、南部地方 (1) 紀伊半島沿岸地方 (2) 紀伊半島東部地方 (3) 紀伊山地  
此の際にもいろいろ異論があること、思はれるが、小學校の地理として既述地方のすべてに互らねばならぬといふことは少しもない。國民教育の立場から價値の多い材料に着眼せしめればよいと思ふ。

二、作業の合意・作業の進行

(1) 作業の合意 以上の小地理区的單元を、(一)兒童の環境に依り、(二)兒童の希望に依り、(三)グループの個性に依り共同作業としての分擔を決定するのである。小地理区が合計十三あるから、假りに一小地理区を三人の共同作業として三十九人を要する。

地方の小學校は一學級五十人以上を擁するのが普通であるから、あとの二十人近い兒童には本地方の地勢圖・氣候圖・産業分布地圖・都市・交通分布地圖等を作業するやう仕事の分配をすれば宜い。さうして次の作業には之等の兒童に小地理区の作業をたさせるやうにして成るべく機會を均等にする。

著者の経験では大阪平野の如く、或は京都盆地の如く、或は福岡平野の如く、作業の内容が豊富である地域は之を作業すべく兒童の希望が多いのであるが、或は若狭沿岸の如く、或は紀伊山地の如く、或は紀伊半島東部地方の如く、兒童にとつて興味の少ない地域は、之を作業すべく希望者が殆んどないのである。併し之も機會均等に主眼で、次の機會には賑かな地方を作業するやうにしてやれば宜い。

著者の勤務する學校の兒童の如く、保護者の出身が殆んど全國に亘つてゐる場合には斯うして環境を善用して其







一、小地理的單元決定の指導

- (1) 教科書 (2) 雑誌と行政区域の指導 (3) 生活環境の指導 (4) 既得知識の発見・整理 (5) 郷土との関係指導
- (6) 生活環境の指導 (7) 生活環境の指導 (8) 生活環境の指導 (9) 生活環境の指導 (10) 生活環境の指導

二、作業の分類と計画作業

- (1) 作業の分類 (2) 目的決定と作業の計画
- (3) 目的・目標 (4) 作業の進行 (5) 指導の注意
- (6) 指導の注意 (7) 指導の注意 (8) 指導の注意 (9) 指導の注意 (10) 指導の注意

第八節 小地理的單元決定の指導実践

一、指導の指導

前節に「近畿地方地理作業の指導実践」として、小地理的單元決定の立場から近畿地方指導実践の全般を述べておいた。次に述べる「大阪府沿岸地方」の指導は全く前に述べた指導実践に基づいたものであることを断つておきたい。而して前には小地理的單元を作業單元とする場合を述べたもので、其の指導は小地理的單元を決定するまでの指導

導と、小地理的單元を各グループの作業單元として作業するまでの取扱と、更に例を近江盆地に採つて、作業の実際を述べたのであった。

二、指導の指導

一、作業の目的決定と計画の指導

作業の分類は既述せる通り、児童の環境による希望によつたり、児童の個性・能力を参照して教師が決定したりする。三人の共同作業として、三人より成るグループに共同作業として何を作業すべきかの決定をなさせる。教師はその指導をなす。

一、どれだけの範囲か 児童は「大阪府沿岸地方」の地理として、どれだけの範囲を研究作業すればよいかを決定する。地理書附圖第十一圖による、大阪府沿岸と地理書の挿圖による「大阪府沿岸に於ける工業の分布」を讀み、更に地理書本文にある「中央部の福平野では工業が大いに発達してゐる。殊に大阪府沿岸の地方は我が國の一大工業地帯であつて、神戸・尼崎・大阪・堺等の工業市が相接してゐる……」に着眼させる。

而して大阪市を中心として河は尼崎・河内・神戸、南は堺・岸和田までを作業の範囲として決定する。

二、どんな材料を どんな材料を探つて作業の内容とすべきかといふ目的決定は、地理書附圖と地理教科書、それに生活環境——既得知識、郷土との関係等の資料に於て決定させる。



(1) 大工業地区——地理書「大阪府沿岸に於ける工場の分布」地理書本文、地理書挿圖「大阪北東部の工場地帯」  
「大阪にある紡績工場の内部」等によつて大工業地区として大阪・尾崎・西宮・神戸・堺・岸和田一帯の工場に就いて  
作業することが重要であることに着眼させる。

(2) 大都市——大阪市・神戸市の大都市は、大工業地区の工業都市としての外に、どんな所であるかに着眼させる。  
大阪府府所在地としての大阪市、兵庫県府所在地としての神戸市・大阪港・神戸港・大阪城等のことに就いては見  
意はよく着目してゐる。

(3) 交通——此の地方の交通地圖としては何があるか。地圖に於て東海道本線・關西本線・電車（地理書挿圖第十圖  
註・大阪府其の他）・神戸港・大阪港・大阪・神戸間の交通・電車網の發達等に着眼させる。

(4) 大工業地区發達の理由——阪神大工業地区が今日のやうに發達したのは、どんな要素によるかを京濱大工業地  
区・名古屋大工業地区の例によつて考へさせる。

以上の如く目的決定の大綱が決定すれば、更に一歩突つ込んで、それ等の何を研究作業すればよいかを決定させ  
るのである。

それには細くまで兒童の所持せる地理教科書と地理書附圖を基とする。併し地理教科書と地理書附圖だけでは不  
十分であるから、今度は教師の指導の領域を廣めてやる必要がある（此の場合、教師が指導の領域を廣めても目的決  
定のもの）。

一、大工業地区——どんな工場があるかは地理書挿入の工場の分布地圖によつて、染色工場・機械工場・化学工場及

び其の他の工場の分布を讀取らせ、染色工場は大體大阪市の東部から北部・西宮・堺市にあること、機械工場は安治  
川の川口近く及び神戸に多いこと等を讀取らせる。

また地理書により主な工業品は綿織物・絹織物・毛織物・メリヤス・機械・砂糖・藥品・ゴム製品・肥料・マッチ等がある  
こと、地理書挿圖により綿織物の産額は、大阪府が全國第二（十分の一）の次が兵庫県（十分の一）で、近畿地方全體とし  
ては、我が國全体の十分の五・八位を出してゐることを讀取らせる。

綿織物の産額比較も地理書に出てゐるからそれを讀ませる（併し地理書のは統計が古く、から別に新しく統計を見直し  
たいと願ふ）。

二、大都市——大都市としての大阪市・神戸市の内容を考へさせる。先づ大阪市が人口二百四十五萬で、東京に次ぐ  
大都市であることは兒童はよく承知してゐる。大工業都市であることは今までのことである。大阪市・神戸市が府  
縣廳の所在地であることは既に取得してゐる。

大阪市が工業のみならず、商業都市であることは大阪市が大工業都市であること、交通の中心であること、大貿易  
港であること、及び地理書挿圖「大阪の市街」大阪港「淀川の下流」の景観、並に地理書本文「近畿地方以西に於け  
る商業の中心地であり、我が國第一の工業地である。」といふことで理解させる。

交通の中心をたすことも、前記の挿圖・地圖による外地地理書本文にも、淀川の下流及びこれから分れてゐる淀水運  
河が市内を縱横に通じて水運が便利であるから、水の都ともいはれてゐる。又港の設備がよくととのつてゐて大  
きい汽船もここに出入することが出来る。したがつて交通も貿易も年と共に發達し、綿織物の輸出が甚だ多い。」とあ



ることによつてもわかる。

また交通の處に、大阪・京都からは鐵道が四方に通じ、神戸・大阪からは鐵路が内外の港に通じてゐる。「水の都」であるといふことは地理書附圖の大阪市の擴大地圖に依らねばならぬ。此の地圖ははつきりしないから川に着色して讀むことも一方法である。東京・大連間の空の港をなすことは兒童の既得知識から指導する。

軍事上の都市として大阪城に第陸軍司令部のあることは、附圖の擴大地圖を讀取らせる。教育の都市として大阪帝國大學・工業大學・其の他の専門・高等學校のあることは兒童に尋ねたりして知らせる。

大阪が交通の中心であることは、前記の如くしてわかるのであるが、其の内容が餘りはつきりしないから、地圖及び大阪市の擴大地圖で東海道本線・關西本線・關山線・電車(阪神電車・關西電車・京阪電車・新大阪電車・大阪電車)と讀取らせる。また大阪港から出てゐる鐵路を讀ませる。

新しくして大阪市の位置、南工業經濟の大中心としての大阪市、政治・軍事・教育の中心としての大阪市、交通中心として、また水の都としての大阪市を讀解させる。

神戸市に就いては其の位置は地圖でわかるし、工業市としての神戸は、阪神大工業地帯として考へたことであるし、大開港場としての神戸のことは地理書本文にも、鐵道とまじり考へられたる大開港場であること、港の設備がよく整つてゐること、鐵道と通つて輸入が多いこと、輸入の主なものには機械・毛織物・羊毛等であること、輸出品の主なものには生絲・絹織物・絹織物等であること、輸入先はアメリカ合衆國・印度等が多いことが出てゐる。

また神戸港出入比較圖(内海)があるから、輸出・輸入の割合及び主な輸出入品の大阪が知られる。海上交通の

中心に就いては、地圖(位置地方と)と讀取らせれば、外國鐵路の行先がわかる。

地方政治上から兵庫縣縣所在地のことは兒童は知つてゐるし、學府上の中心としては兒童の既得知識を讀取らせたりして商科大學・高等商業、其の他の専門學校等のあることを指導すればよい。また神戸市西郊に白砂青松、風光絶佳、氣候快麗の須磨・神戸の海岸保養地等、豊岡地六甲山のあることを地圖神戸市の擴大地圖で讀み取らせる。以上の如く神戸市に就いて、阪神大工業地帯に於ける神戸市・大貿易港市としての神戸、交通市としての神戸、政治・學府經濟の方面から見た神戸市を考へればよい。

其の他の諸都市として堺市・岸和田市・尼崎市・西宮市があるが、之等は何れも阪神大工業地帯に於ける工業地としての市勢を考へればよい。たゞ西宮市を含む關西地方は清洲鐵道地として名高いものがあるからそのことを附加する。

五、交通 交通に就いては、大阪市・神戸市の交通に於て考へたことに盡きつゝあるから茲に略する。

六、阪神大工業地帯の位置 このことに就いては、本文として地理書には出てゐない。地理書附圖を綜合的に讀ませれば、それで或程度まで解決する。

(一)位置 事實上日本の中央に位し、大阪平野を據へ、大阪灣に面する。(二)交通 交通地圖が發達し、神戸港と大阪港を有するので原料を内地より入れ、また外國より輸入し、製品を内國各地へ運び、また外國へ輸出するに便利である。(三)動力 宇治川水電、木曾川水電(大同)、庄川水電、日電等の電動力の供給を受け、また九州炭を豊富に入れられるから、其の動力に恵まれてゐる。(四)人口稠密 勞力が容易に得られる。實業家・投資家がなければならぬが、阪神地方は資本家を擁する。



かうした方面から考察の出来ることを推察する。

五、作田の計畫と場所作田 右に掲げた様に大阪府沿岸地方に対する児童の目的決定と、之に伴ふ研究作業が出来たならば、之を如何に具體的に作業すべきかを計畫し、それを最も直観的に具體的に作業するのである。

先づ大阪府沿岸の廣大地圖を児童のノートに描がせる。大阪平野を入れ、西は明石より南は和歌山市が一寸あらはれる程度のもとする。なぜ明石、和歌山の両市まで入れるかといふに、阪神大工業地域の經濟關係、交通關係及び阪神大工業地区といふ特色は目に／＼擴大されてゐるからである。

明石市・神戸市・西宮市・尾崎市・大槻市・堺市・岸和田市・和歌山市及び池田・伊丹等の郡邑も入れ、東海道本線・山陽本線・福知山線・關西本線等の鐵道・南海電車・阪和電車を入れる。地圖書の工場分布の地圖を參考として大阪を中心として、西は神戸市、南は岸和田市に至る一帯の地の工場の多い所へ色を塗り、工場地帯であることを示す。

大阪市に就いては、人口二百四十五萬は大きい切抜(一つのワットを人)五枚をつけ、府廳の所在地であることは其の記號で表はし、軍事上の中心として第四師團司令部、教育上の中心地として大塚其の他高等・専門學校のあることをば、それ／＼の記號で示す。

主要工業品である綿織物・毛織物・メリヤス・機械・砂糖・藥品・ゴム製品・肥料・マッチ等に就いては、別に文字を以て明示する(之等の主要工業品に就いて新しい地圖設計が得られれば、そのグラフを示すとよい)。大阪港からの航路を示し、主要輸出品(綿織物・綿織物・マッチ、主要輸入品(糖・糖類・糖類品・羊毛・機械類等)を矢印して輸出と輸入とを區別して示す。地圖は混雑する嫌ひはあるが、神戸市との電車交通を入れる。

神戸市に就いて、人口七十九萬のことはワットで示す。兵庫縣廳・大塚・本門學校所在地のことはそれ／＼の地圖記號で示す。大阪港のことは最も重要なことであるから、主な航路と主な輸出入品とを入れ、更に我が國第一の貿易港であることを示すが爲に最近の統計を提示して(商工省貿易統計の重要)、別に神戸港・横濱港・大阪港・門司港・名古屋等の貿易グラフを作業させるがよい。熊野・種子・六甲山・摩耶山等の風景の地も入れる。

大阪平野は米・小麦・飼料等を産する農地であるからこれ等を入れる。

かくして凡その計畫が出来た。大阪府沿岸地方を具體的に直観化する作業は出来たのである。これだけの作業をなさせればそれでよいのであるが(これは教師が指導)、故にはグループの作業を學校に發表報告して、學校を境の作業に對する計畫であるから、更にグループとして精進紙に擴大して作業せしめるのである(此の作業地教育に於て精進目的に依る)。

時間の配當に就いては、即ち小地圖の決定から作業計畫までが三時間、具體的な箇所作業の實行が二時間。

### 二、作業の實施と指導

(1) 指導の要領 児童は精進紙への具體的作業を基としてグループの作業を發表するのである。其の指導は大阪かうである。之は大阪府沿岸地方に於て作業したものであるが、阪神大工業地区を作業したのが主な仕事である。阪神大工業地区は大阪を中心として、西は尾崎・西宮・神戸市、南は堺市・岸和田市に至る一帯の地で、この大工業地区にはこんな工業が盛んである。大阪市は東京に次ぐ大都會で、商工業の中心地であることは阪神大工業地区の中心をなすことである。また貿易港で輸送物の輸出が多い。



交通の中心をなすことはこの範圍でわかる(瀋陽、長春、奉天)。松川の干流で、其の分岐が多くの河川の本流ともなるものと云はれる。地方政治、軍事、教育の方から見るとこんなものがある(天津)。

神戸市は何といつても大開港場としての特徴がある。横濱と共に二大貿易港で、主な外國貿易、主な輸入品、主な輸入品、輸入の多いことを説明する。工業地としては阪神大工業地帯としての内河(有明)をあげる。地方政治、軍事上としての特徴もあげる。

西宮市、尼崎市、岸部市、堺市はそれとく工業都市である。西宮市の附近は有名な酒(清酒)の醸造地である。なぜ阪神大工業地帯が形成したかと思へてみる(其の内河は清酒の河)。

③ 中国の地理 大開港場としての特色 (天津、大連、瀋陽、長春、奉天) ・ 神戸市の特色 (大開港場) ・ 阪神大工業地帯の形成理由 ・ 京阪大工業地帯との比較。

### 第九章 中国地方地勢気候の特殊現象

#### 一 中国の地勢

前に述べた地理学講座講義式に於て習得せしめられた、(1)中国地方の地勢、気候と作業者の其の關係をどうな方面から如何にして考察するかといふこと、(2)地勢が本地方の地勢、気候に於いて目的を決定すれば、其の決定する目的性に基づいて、誰もが自己のノートに地勢圖の作成をなすこと——これが本講義の特殊な特色として希望を願ひたい

と云ふ。

#### 二 中国の地勢

##### 中国の地勢

##### 一 中国の地勢

近畿地方の地勢の多岐にわたる時、この次には中部地方に於て調べるが、中国地方に於て皆さんの知っていることは、それを整理しておくこと。また皆さんの家に備はるべきや、其の他中国地方に關するものがあるならば、これも整理しておくこと。準備入持することが必要なければ準備入持して置くこと。「どうして」として指示して、見直しと共に教材を決定する。

其の日に於ては「この皆さんと決めたやうに、今日からしばらくの間中国地方に於て調べることをたてまつらう」と指示する。

##### 二 中国の地勢

① 中国の地勢 「皆さんは世界の地圖を開くのが最も得意でやうか。」と尋ねる。第十一課「東の中国、西の中国」方、第十二課「日本海」、第十三課「本州、四国、九州及び海峽」、第十四課「東の中国、西の中国、四国地方の地勢」の各課を考へ、その中から最も得意な課を、臨時採用する、そのことを決定する。



○「中国地方の地図はどれだけですか。」——地図で境線を取らせ、其の区は近畿地方より少し狭い位であることよ。

○「中国地方の行政区劃はどうなつてゐますか、それを地図で取つてごらん下さい。」——縣名と縣廳の所在地とをあげさせる。この際若し著者の學校の兒童のやうに、兒童の住居者の出身縣が殆ど全國に分布してゐる場合には、その關係をたづねてみる。

○「中国地方の位置を考へる時、どのやうに見たらよいでせう。」——本州島の西端に位し、一大半島であること、北は日本海、南は瀬戸内海に面し、東は近畿地方、西は九州地方であつて、其等の地方を結びつけてゐる位置にあることを取らせ。

また本土を中心として、中国地方に至る交通路、例へば廣島市に至る交通路を發表させる。

○「中国地方の交通・産業」著さんは中国地方に就いて今までにどんなことを知つて居るか、この前の時間にお約束したやうに、今日はそれを發表して貰ひませう。それから、中国地方の交通・産業などの用意の出来た方がありませんか。」  
かうして中国地方に関する既得知識、例へば瀬戸内海沿岸に於ける製鹽のこと、農産物のこと、大社の出張大社、廣島縣の牛のことなどを發表させる。兒童の發表事項の中にはくだらないこともあるに相異なるから「今までに出た事例で、これは中国地方の地理に於り關係ないと思つたことはありませんか。」と注意して發表事項を整理する。

○「それでは中国地方から産するもので、私どもの郷土へ來てゐるものはありませんか、それに就いて考へてみませう。」とたづねて、例へば廣島縣・岡山縣産の桑・廣島縣の牛の飼料(大和食)・廣島縣産の特・鳥取縣産の二十世

紀(粟)・瀬戸内海沿岸の鹽・瀬戸内海方面の水産のことなどを注意する。

○「中国地方の地形」著さんは地理教科書を開いて地形を見ませう。どんな地形がありますか、その地形でどんなことがわかるかを考へませう。お國同志で、お互に相談してもよろしい。凡そ五分の時間をあげますから、それに就いて考へませう。」と指示して、地形書神書に就いて其の景観を問させる。「米子と大山・牛の牧場(廣島)・廣島縣のかきの養殖・下關海峡の貨車輸送船・關門海峡(下關)・廣島神社・松江」の地形と中国地方の地形圖と牛の飼料の比較を利用する。

○「中国地方の気候」著さんは「それでは次にこんなことを問へませう。地理書附圖の中国地方地圖と、地理書神書の中国地方の景観の時間とを見て、どんなことが分かるか、分かつたことだけを發表してごらん下さい。」と指示する。

そして中国山脈が走つてゐること、白山山脈が走つてゐること、中国山脈には高い山がないこと、中央よりも北によつて走つてゐること、季節が高原性であること、川は瀬戸内海方面に多いこと、海岸の出入、島嶼は瀬戸内海方面に多いこと、都邑も瀬戸内海方面に多いこと、鐵道も鐵路も瀬戸内海方面に多いこと等を問させ、瀬戸内海方面と日本海方面の地理的景観の相異することに着眼させる。

また地理書第十圖の産業分布地圖によつて、瀬戸内海方面に鹽田が分布してゐることを取らせ。更に地理書附圖第二圖によつて、瀬戸内海方面と日本海方面とは雨量の分布と氣温とを異にしてゐることに着眼させる。故に於て教師は

「今までに皆さんが申したやうに、中国地方の瀬戸内海方面と日本海方面とは大分地理の様子がちがつてゐたで